第３章　調査結果の分析

1　定住性

（１）居住地域の評価
（２）居住地域評価の経年比較
（３）地域の暮らしやすさ
（４）特に暮らしにくいと感じること
（５）定住意向

１．定住性

（１）居住地域の評価

■　〈普段の買い物が便利である〉と感じている人は７割台半ば

問１　あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

図１－１－１－①　経年比較／居住地域の評価

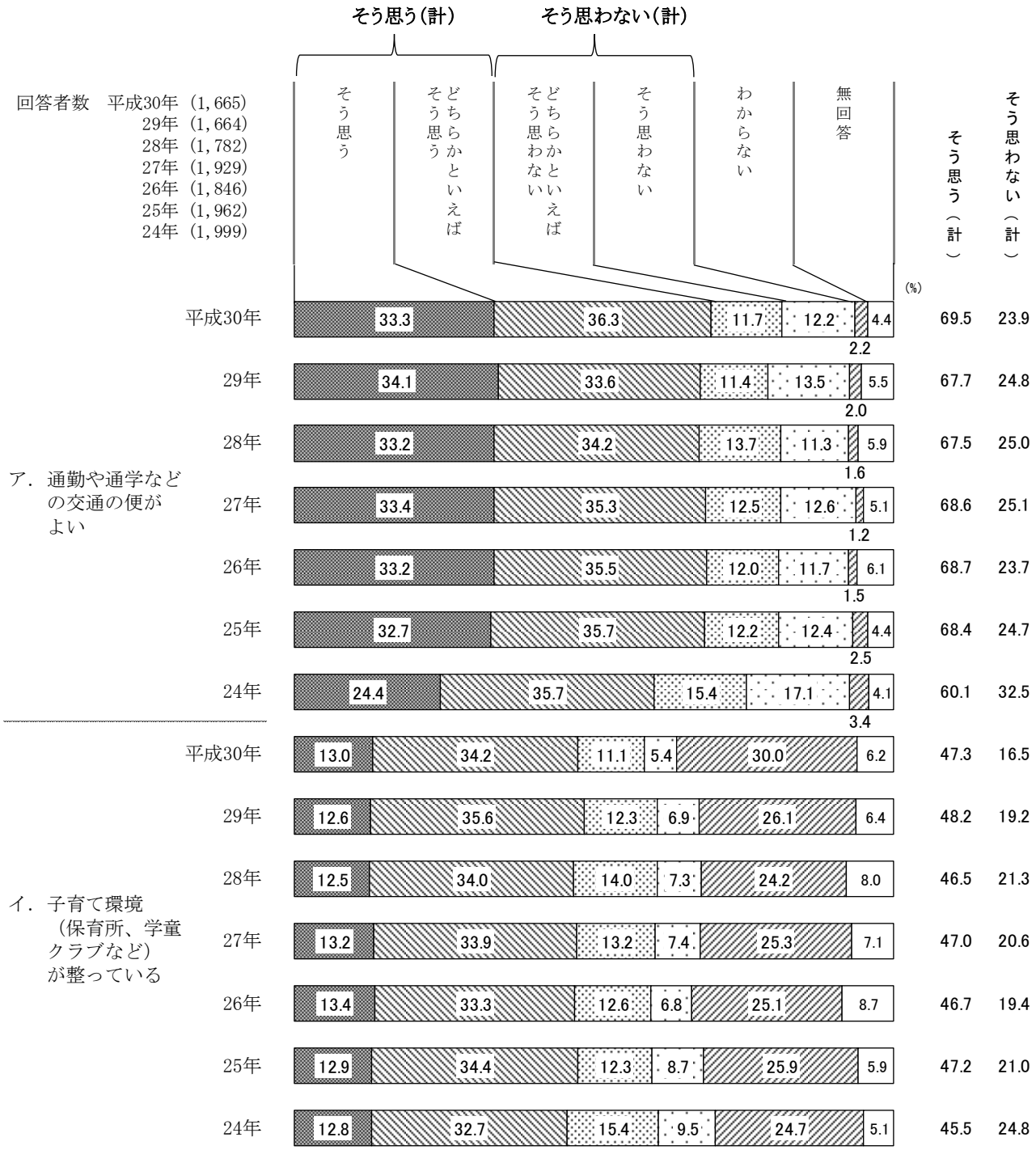


図１－１－１－②　経年比較／居住地域の評価

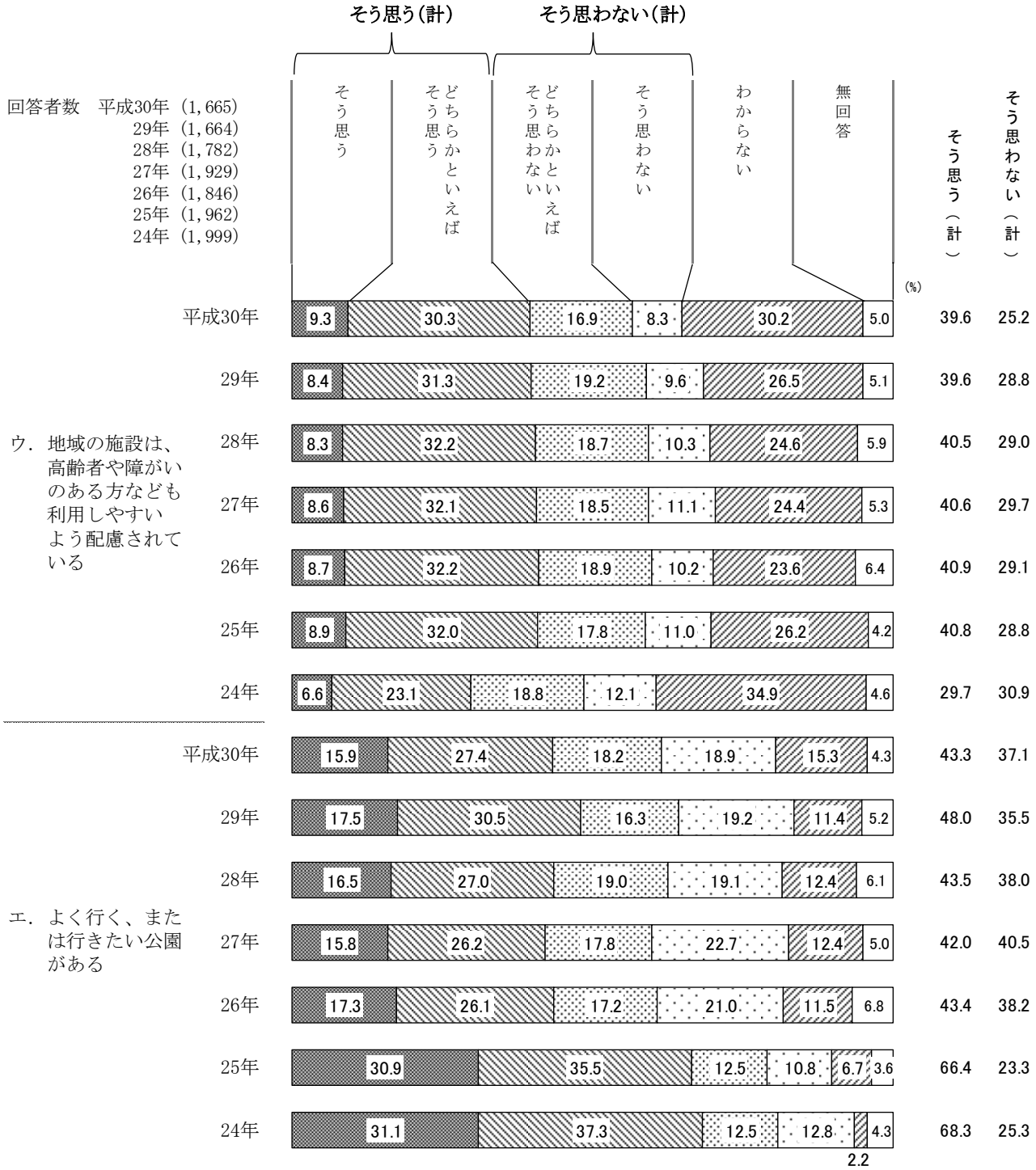


図１－１－１－③　経年比較／居住地域の評価

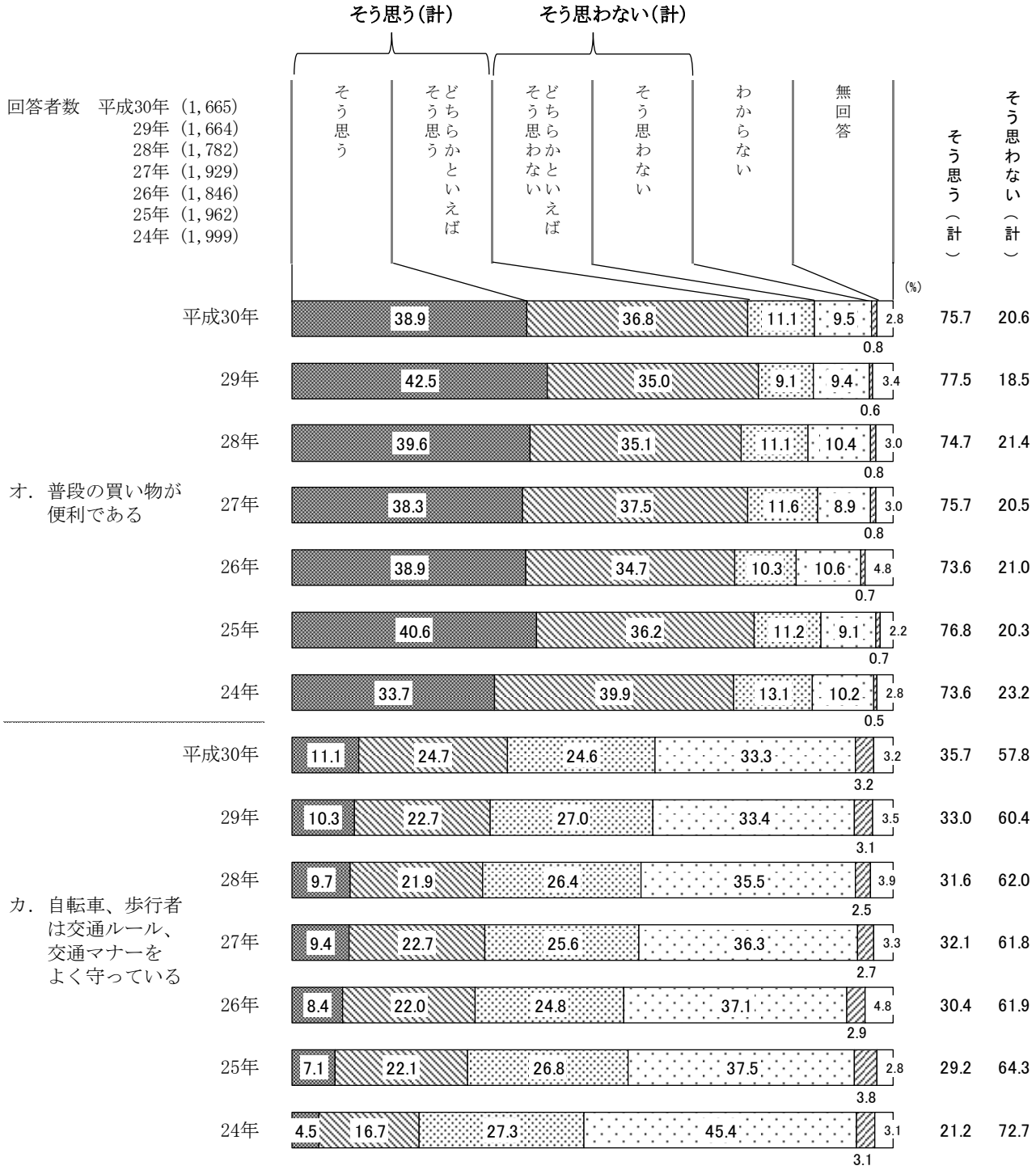
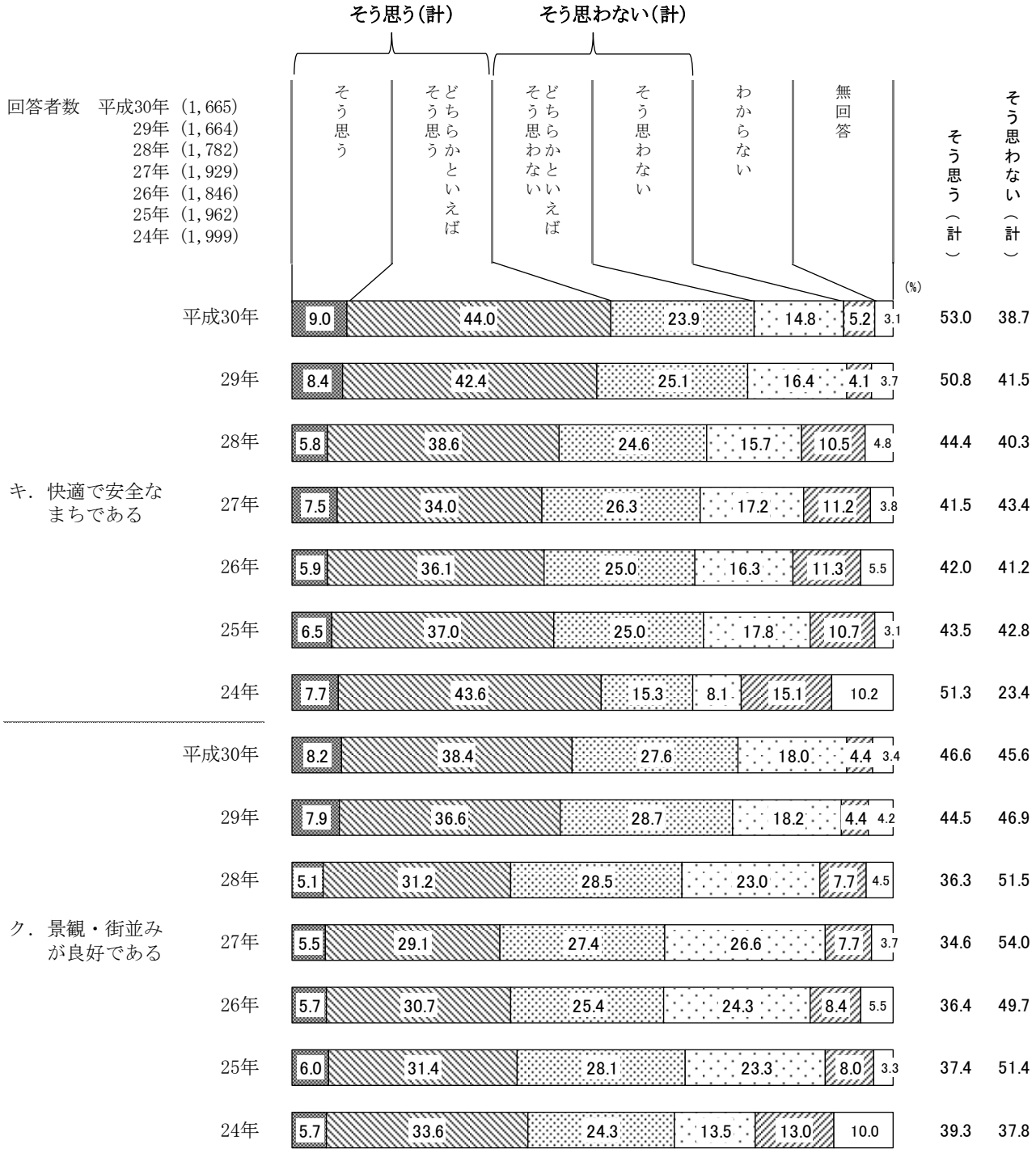
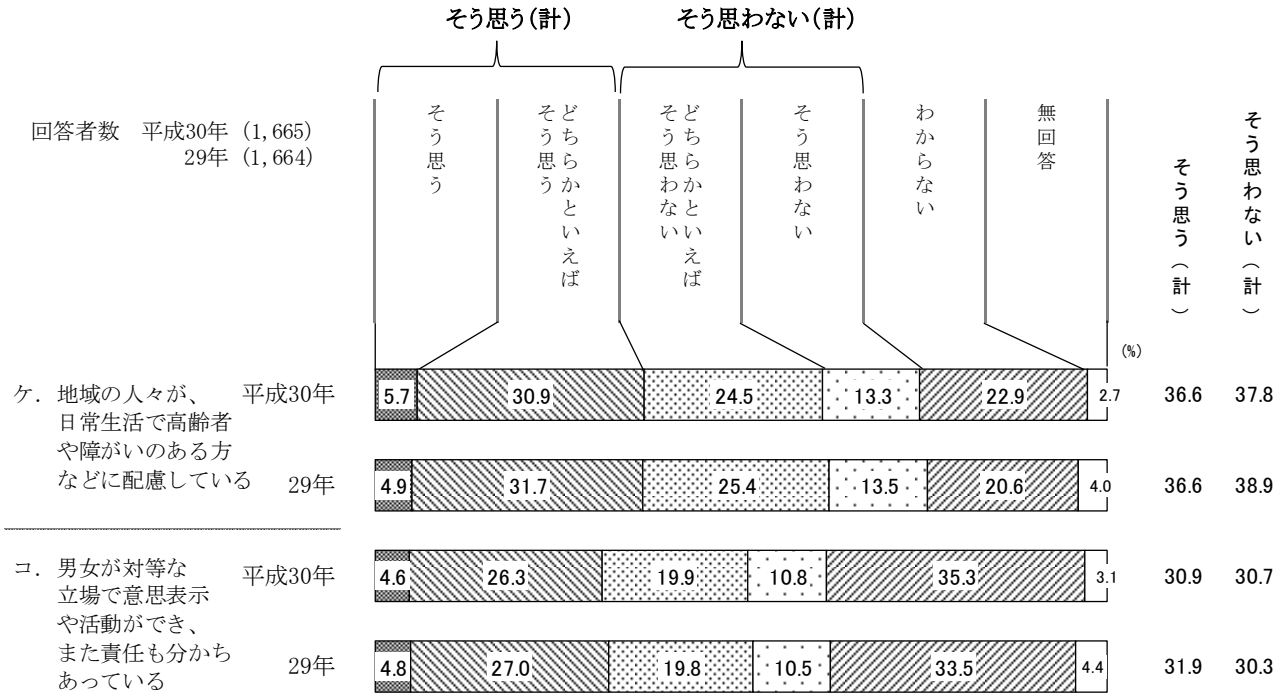


図１－１－１－④　経年比較／居住地域の評価



※ウは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。
※エは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。
※キは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。
※クは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた

図１－１－１－⑤　前回調査比較／居住地域の評価



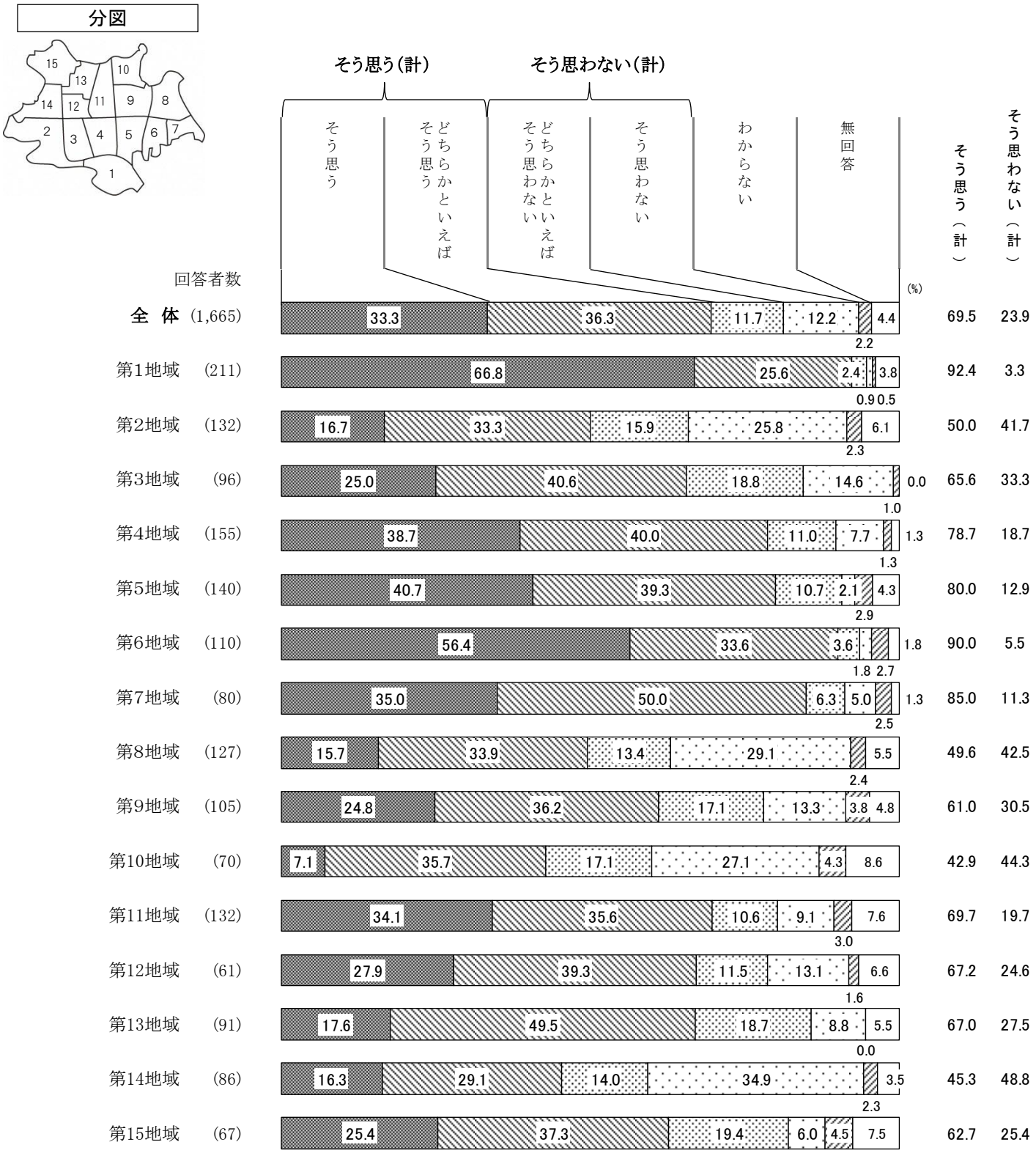
住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が75.7％で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉69.5％、〈快適で安全なまちである〉53.0％の順となっている。

経年で比較すると、今回の調査では、10項目のうち４項目で【そう思う】が平成29年調査に比べて増加するものの、同数の４項目で【そう思う】が減少している。

次に、各項目について、地域別でみた。

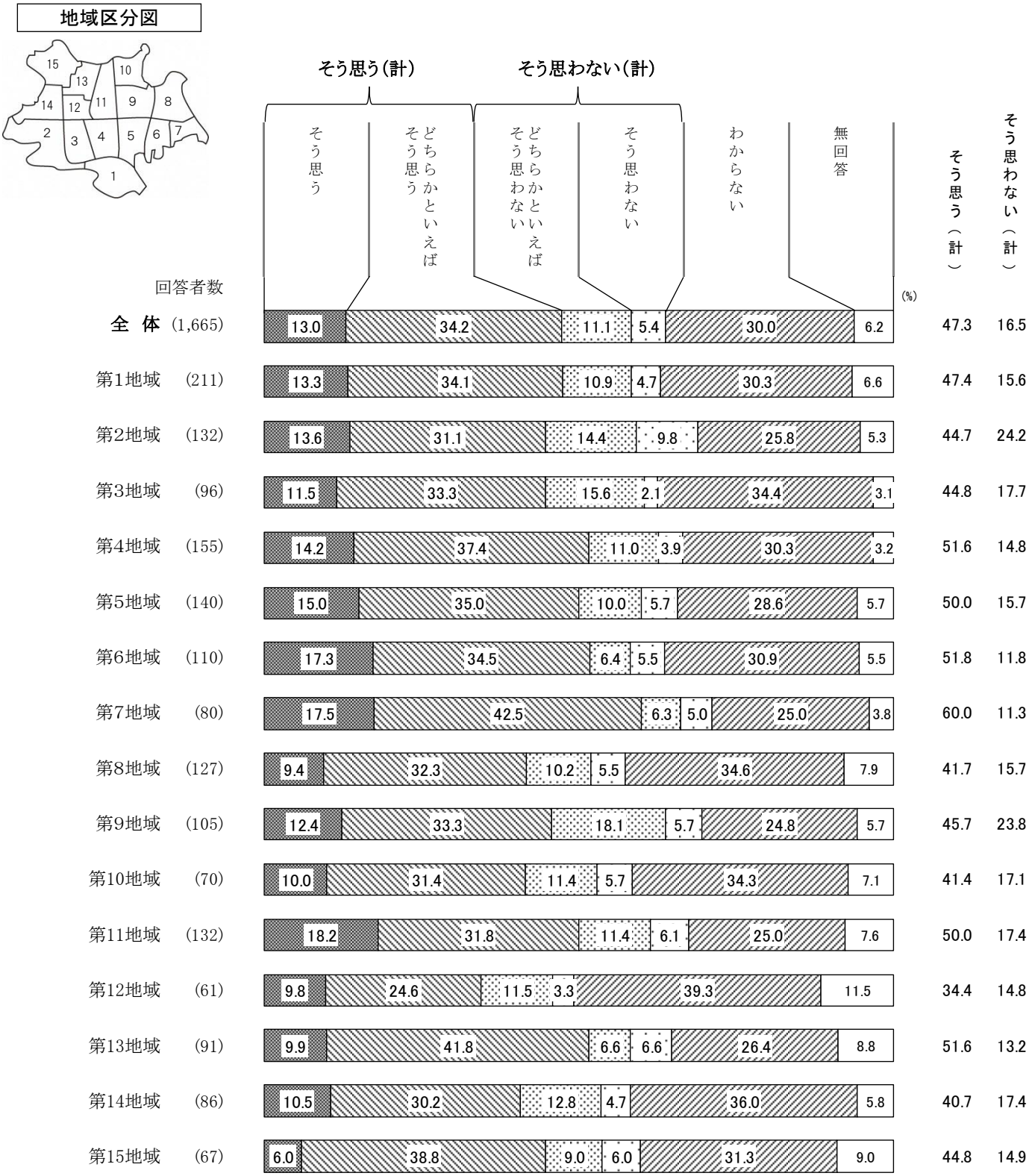
〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第１地域が92.4％と最も高く、次いで第６地域が90.0％となっている。一方、【そう思わない】は第14地域で48.8％と高く、これに第10地域が44.3％で次いでいる。

図１－１－２－①　地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



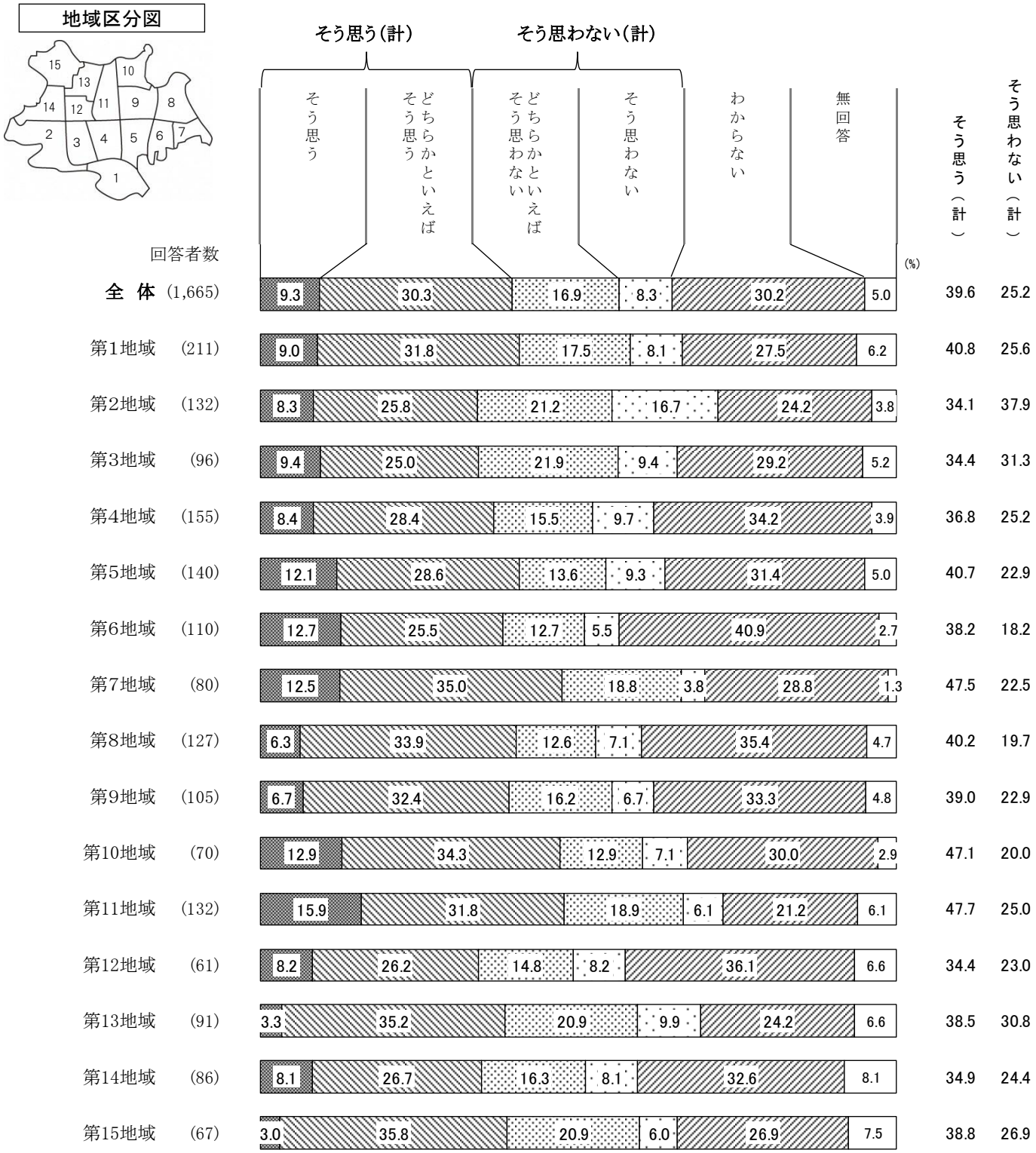
〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第７地域で60.0％と最も高くなっている。一方、【そう思わない】は第２地域と第９地域で２割を超えて高くなっている。

図１－１－２－②　地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている



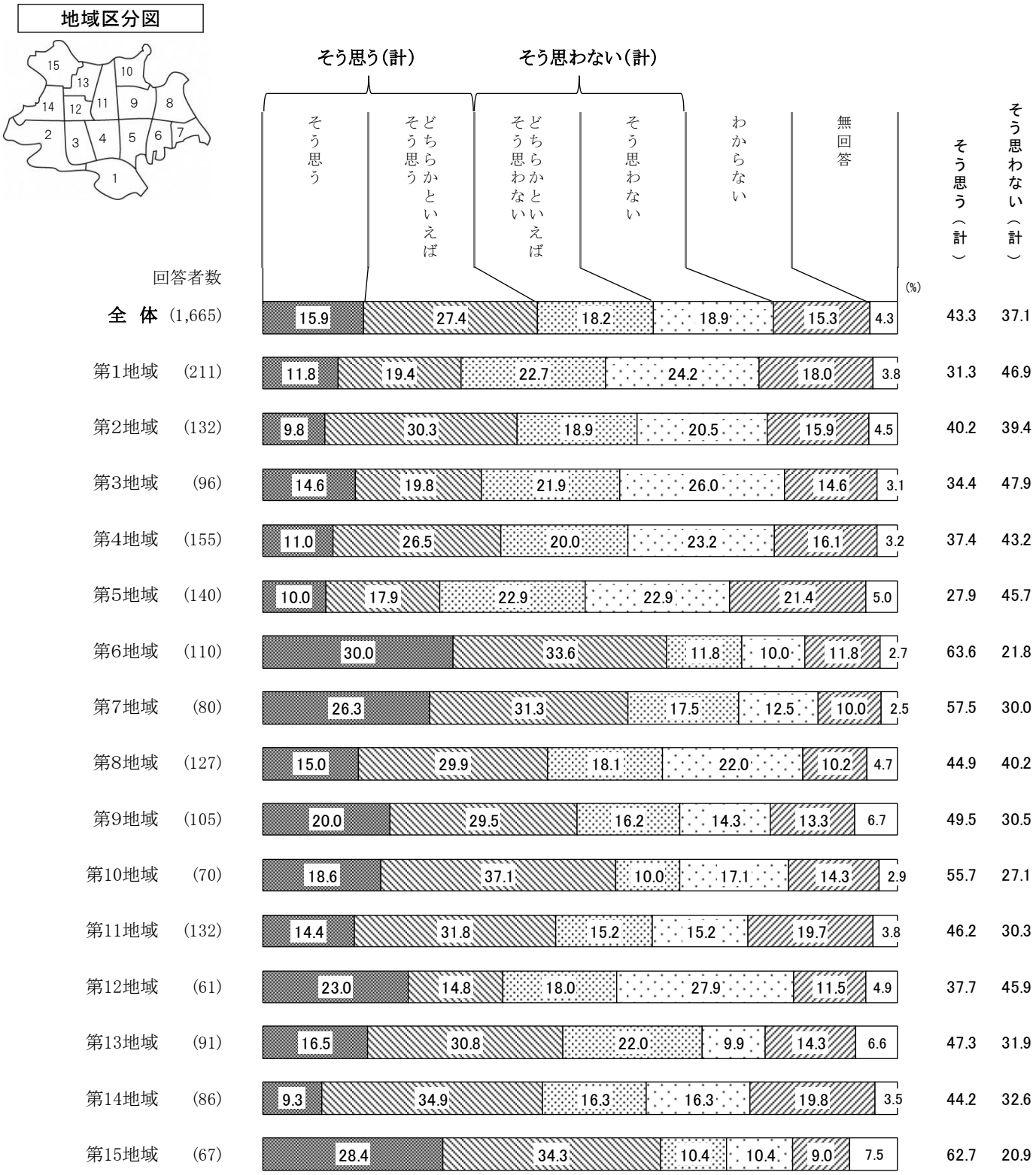
〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【そう思う】は第11地域が47.7％で最も高く、これに第７地域が47.5％、第10地域が47.1％の僅差で続いている。一方、【そう思わない】は第２地域で37.9％と最も高くなっている。

図１－１－２－③　地域別／居住地域の評価
／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



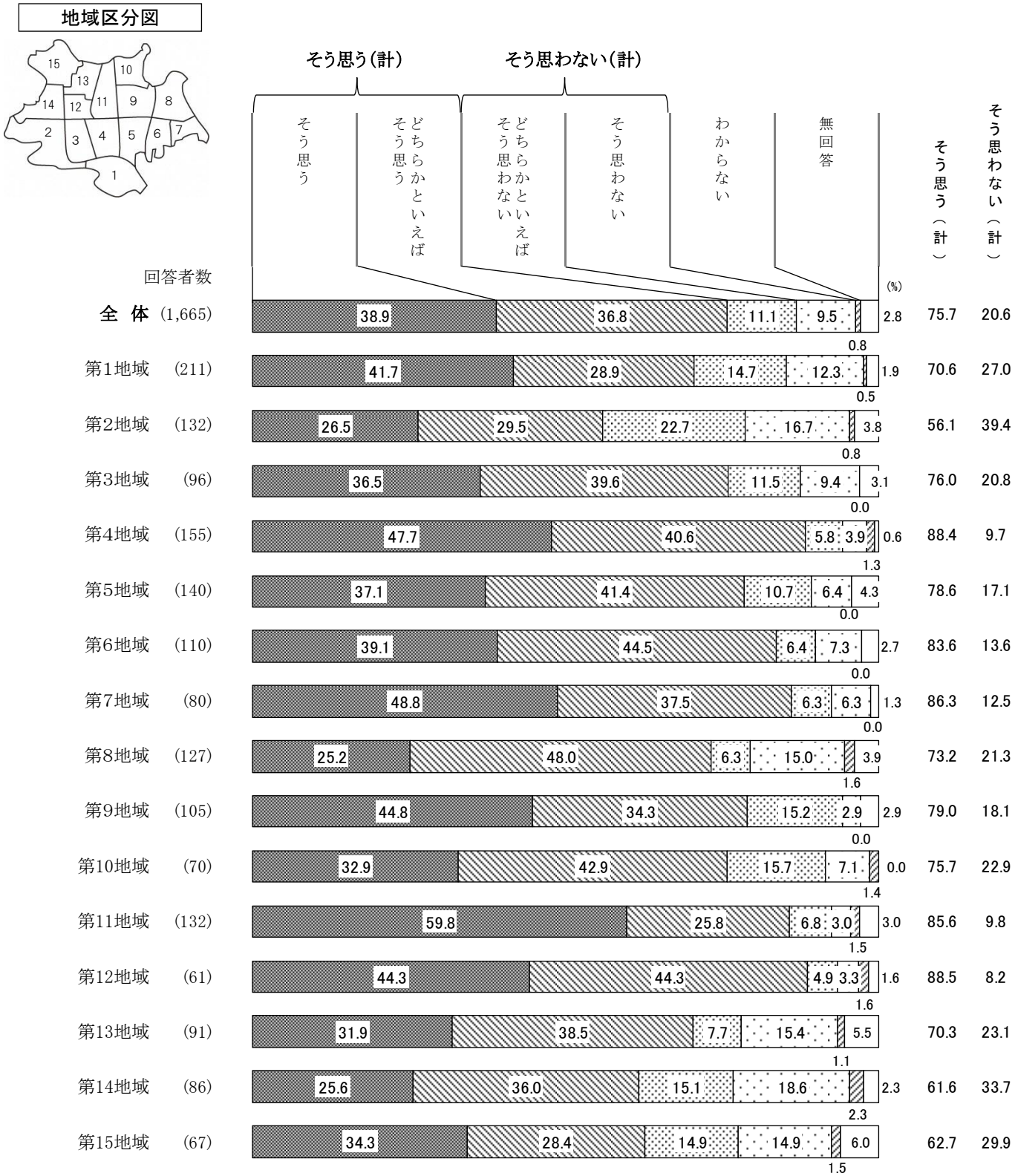
〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【そう思う】は第６地域で63.6％と最も高く、第15地域でも６割を超えている。一方、【そう思わない】は第３地域で47.9％と最も高く、第１地域、第５地域、第12地域でも４割台半ばと高くなっている。

図１－１－２－④　地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



〈普段の買い物が便利である〉について、【そう思う】は第12地域が88.5％で最も高く、次いで第４地域が僅差の88.4％で続いている。一方、【そう思わない】は第２地域で39.4％と最も高く、次いで第14地域が33.7％となっている。

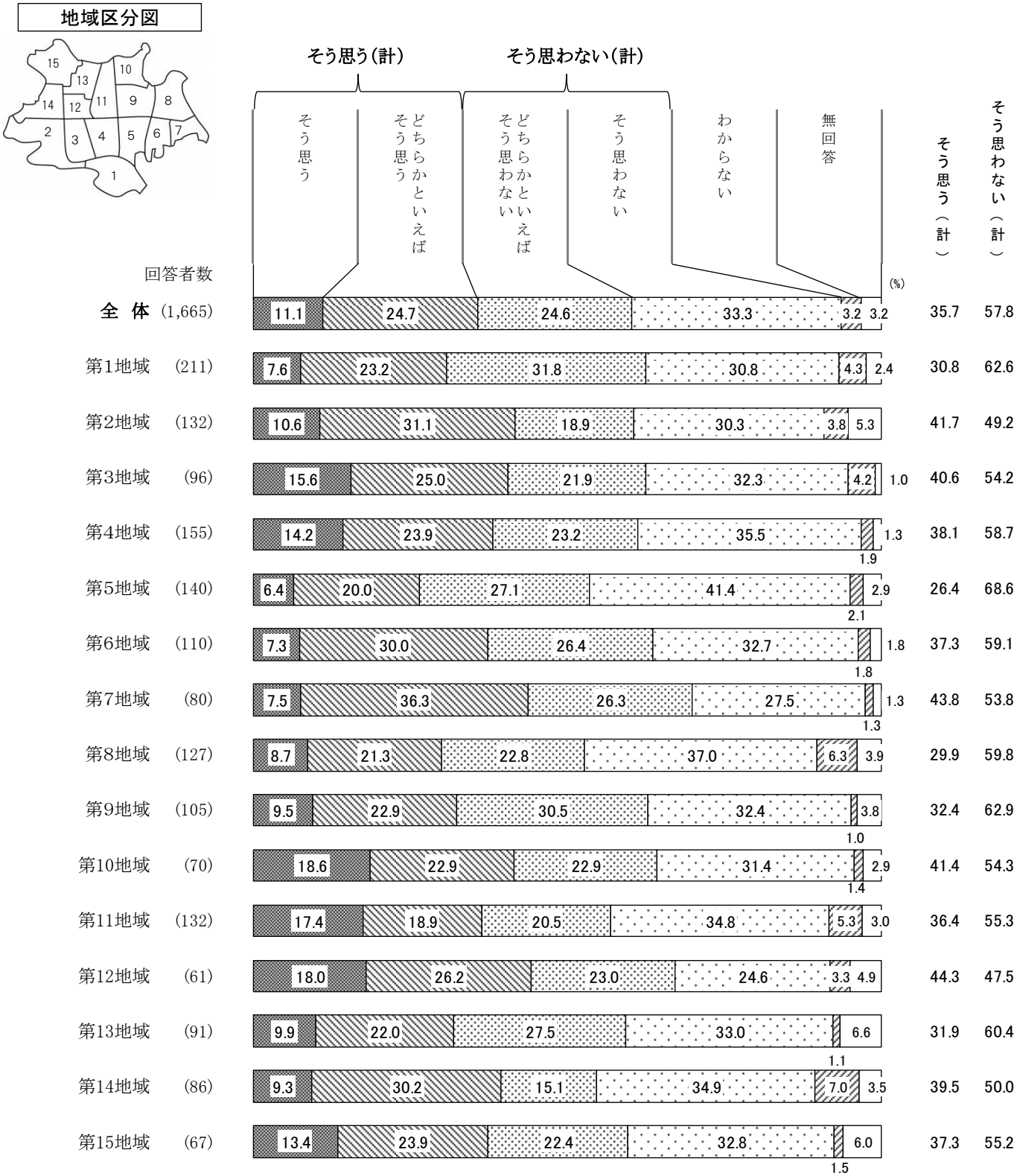
図１－１－２－⑤　地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉について、【そう思う】は第12地域で44.3％と最も高く、次いで第７地域が43.8％で続き、第２地域、第３地域、第10地域でも４割を超えている。一方、【そう思わない】は第５地域で68.6％と最も高くなっているほか、第１地域、第９地域、第13地域でも６割を超えている。

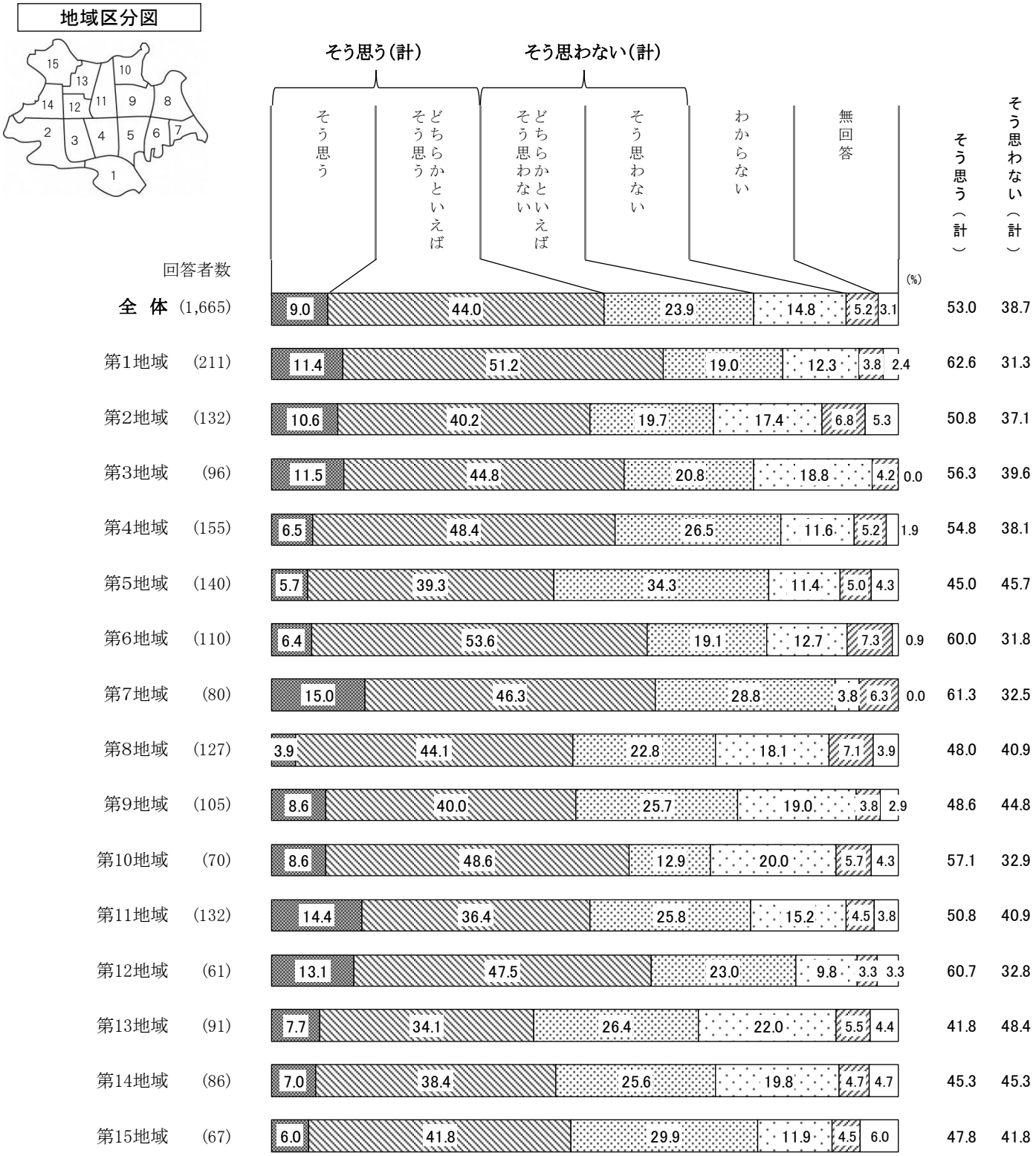
図１－１－２－⑥　地域別／居住地域の評価

／自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



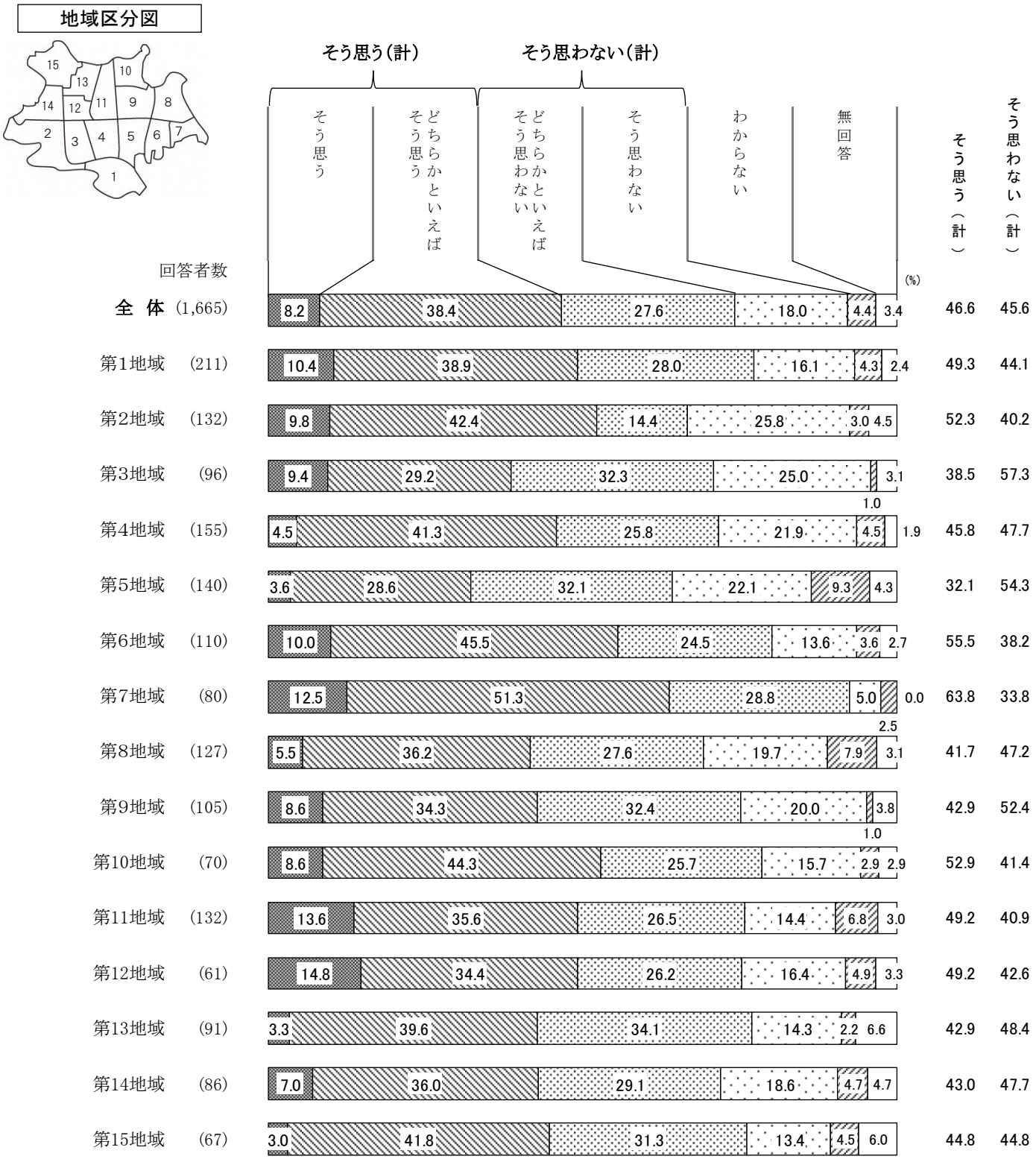
〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第１地域で62.6％と最も高くなっているほか、第６地域、第７地域、第12地域でも６割台となっている。一方、【そう思わない】は第13地域で48.4％と最も高くなっている。

図１－１－２－⑦　地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



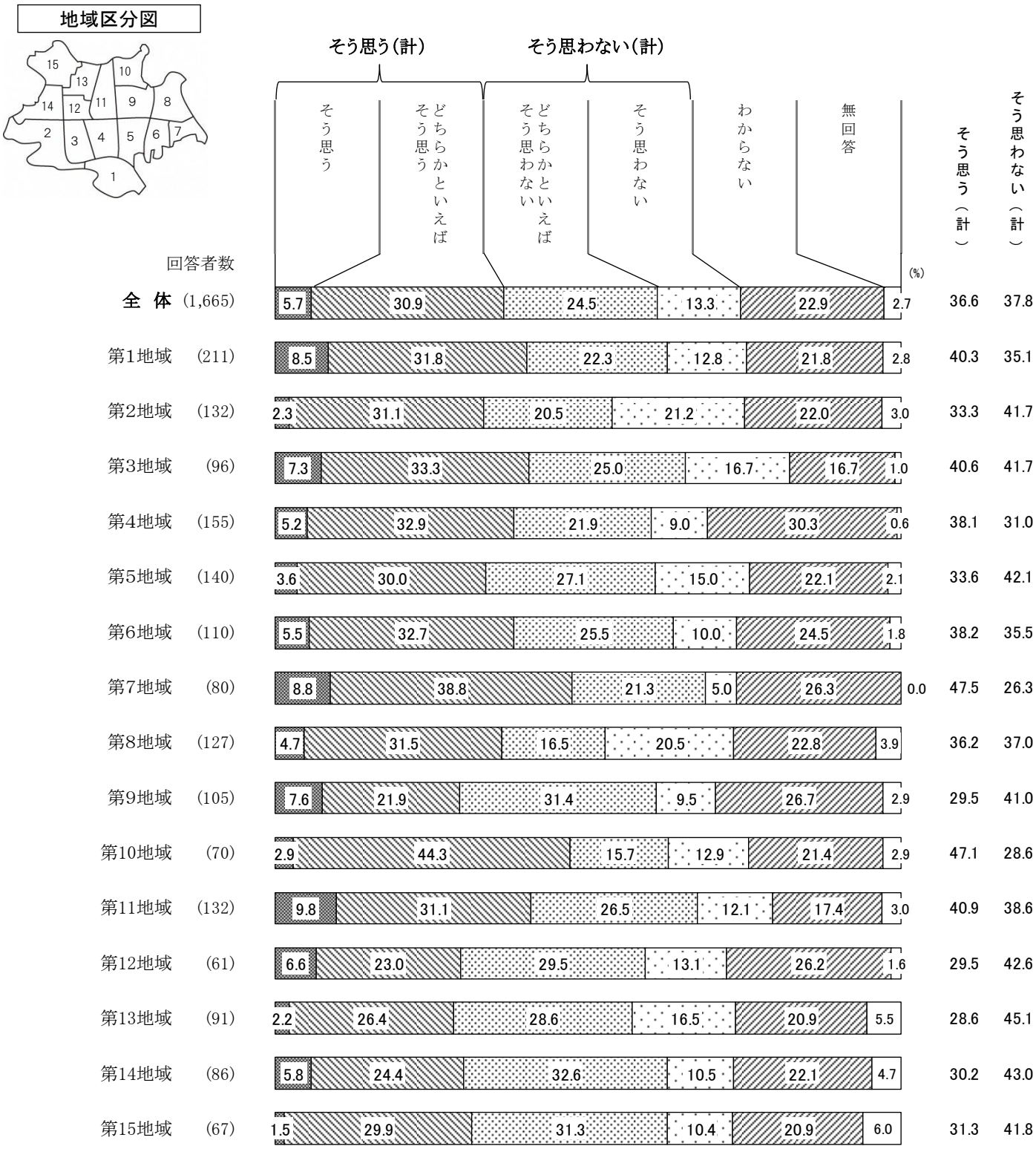
〈景観・街並みが良好である〉について、【そう思う】は第７地域で63.8％と最も高く、次いで第６地域が55.5％となっている。一方、【そう思わない】は第３地域と第５地域で５割台半ばから６割弱と高くなっている。

図１－１－２－⑧　地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である



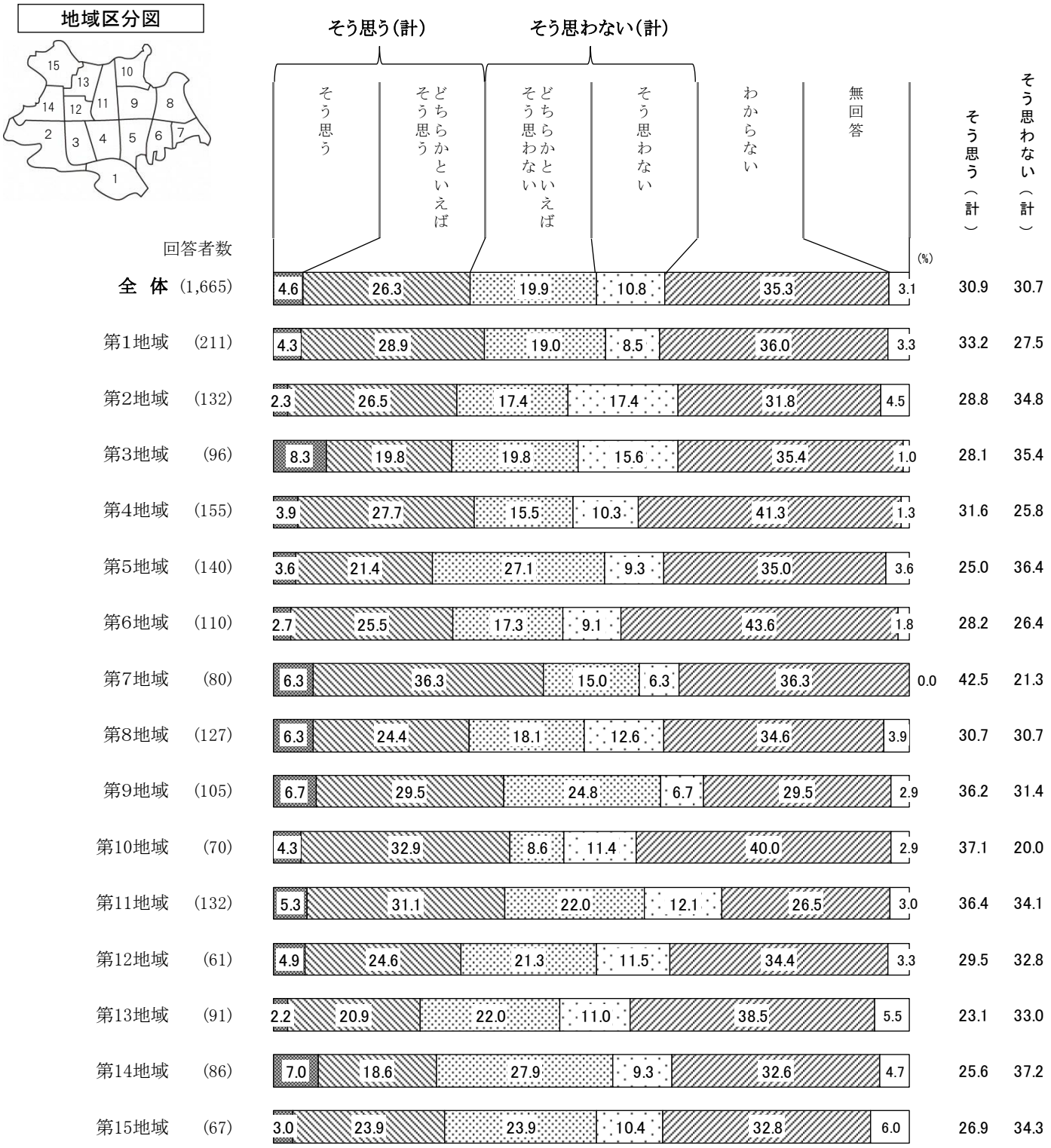
〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第７地域が47.5％と最も高く、これに第10地域が47.1％と僅差で続いている。
一方、【そう思わない】は第13地域で45.1％と最も高くなっている。

図１－１－２－⑨　地域別／居住地域の評価
／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している



〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【そう思う】は第７地域で42.5％と最も高く、これに第９地域、第10地域、第11地域が３割台半ばで続いている。一方、【そう思わない】は第14地域で37.2％と最も高く、次いで第５地域で36.4％となっている。

図１－１－２－⑩　地域別／居住地域の評価
／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



（２）居住地域評価の経年比較

■　〈ごみやタバコのポイ捨て〉及び〈ペットのふん〉で【減っている】がともに５割強

> 問２　あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（○はそれぞれ１つずつ）。

図１－２－１－①　経年比較／居住地域評価

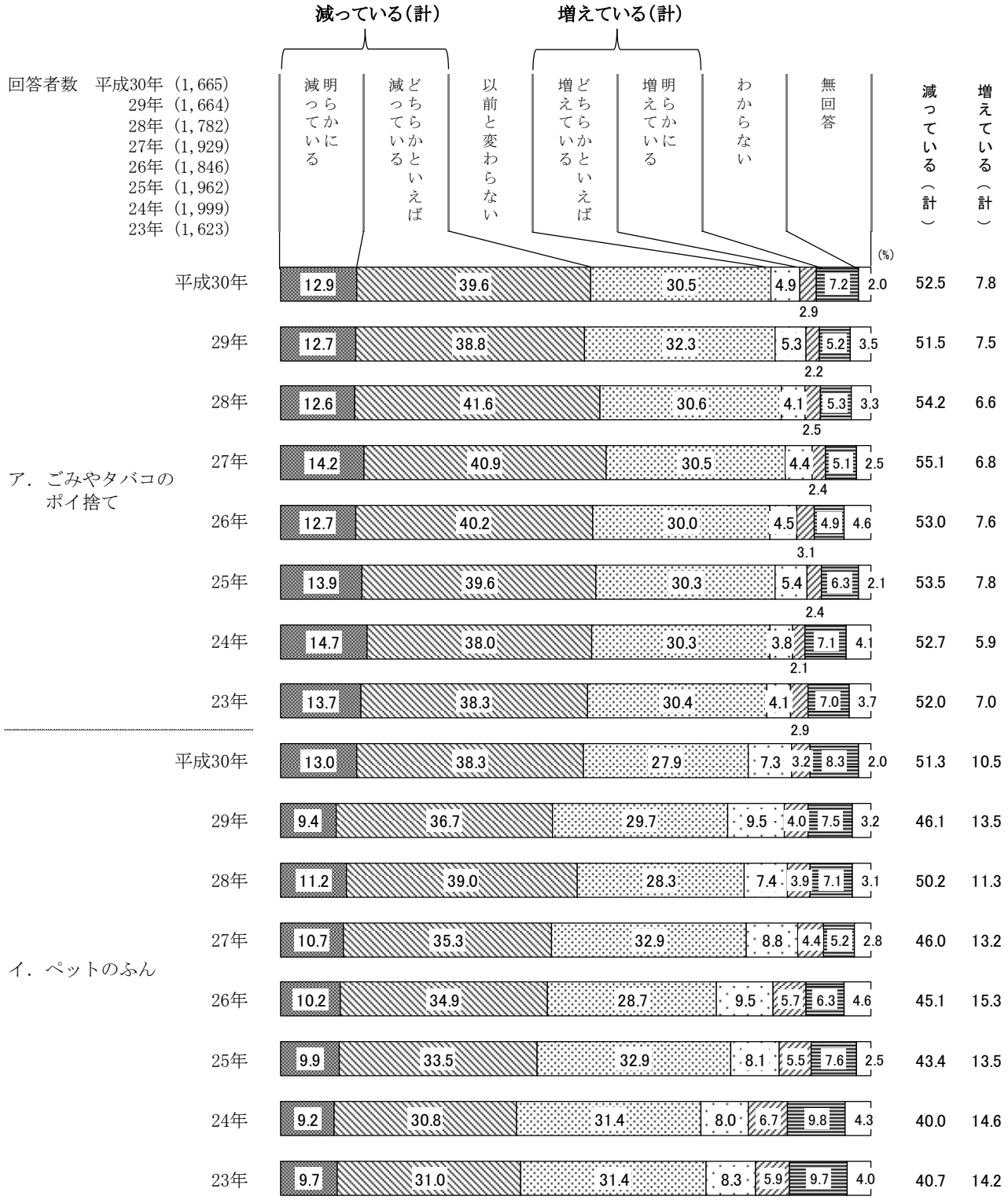
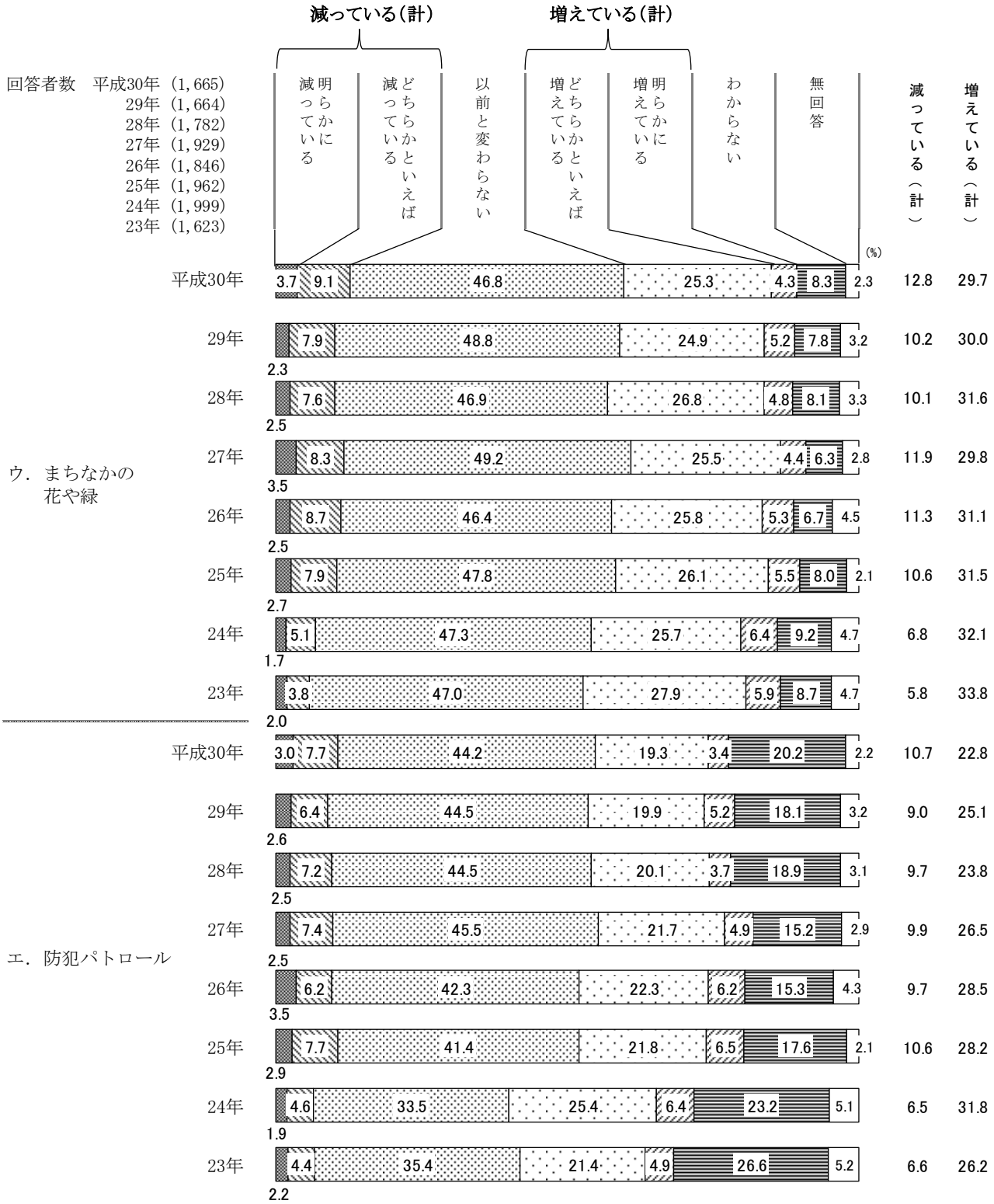


図１－２－１－②　経年比較／居住地域評価



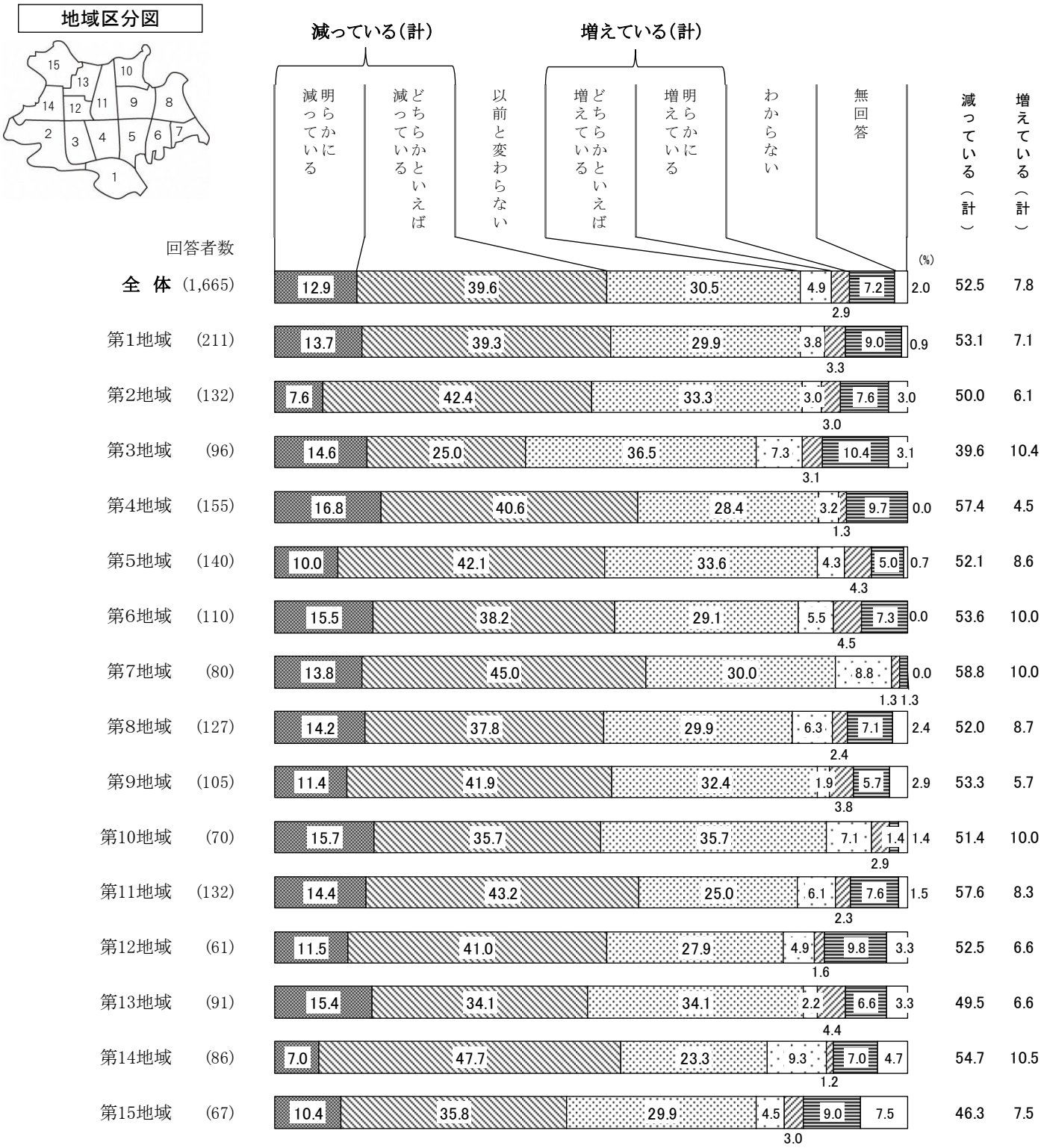
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が52.5％で最も高く、次いで〈ペットのふん〉が51.3％となって、ともに５割強に達している。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】の高い順にみると、〈まちなかの花や緑〉が29.7％で最も高く、次いで〈防犯パトロール〉が22.8％となっている。

経年で比較すると、〈ペットのふん〉について【減っている】が今回51.3％と平成29年調査の46.1％より5.2ポイント増加している。また、〈ごみやタバコのポイ捨て〉でも【減っている】が僅かながら増加している。一方、〈まちなかの花や緑〉は【増えている】が前回とほぼ横ばい、〈防犯パトロール〉は【増えている】が微減している。

各項目について、地域別でみた。

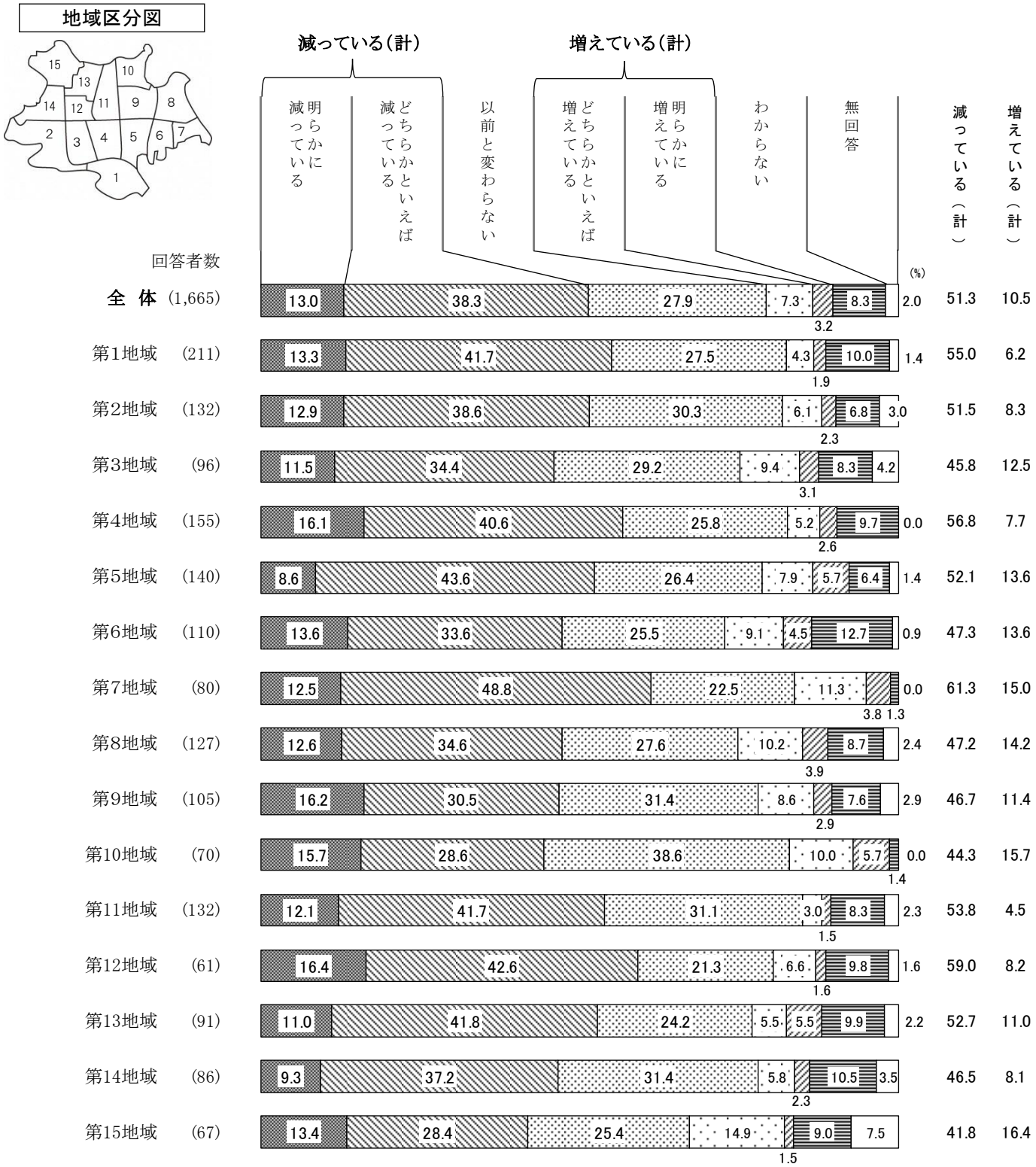
〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第７地域で58.8％と最も高くなっている。一方、【増えている】は第３地域、第６地域、第７地域、第10地域、第14地域でそれぞれ10％台となっている。

図１－２－２－①　地域別／ごみやタバコのポイ捨て



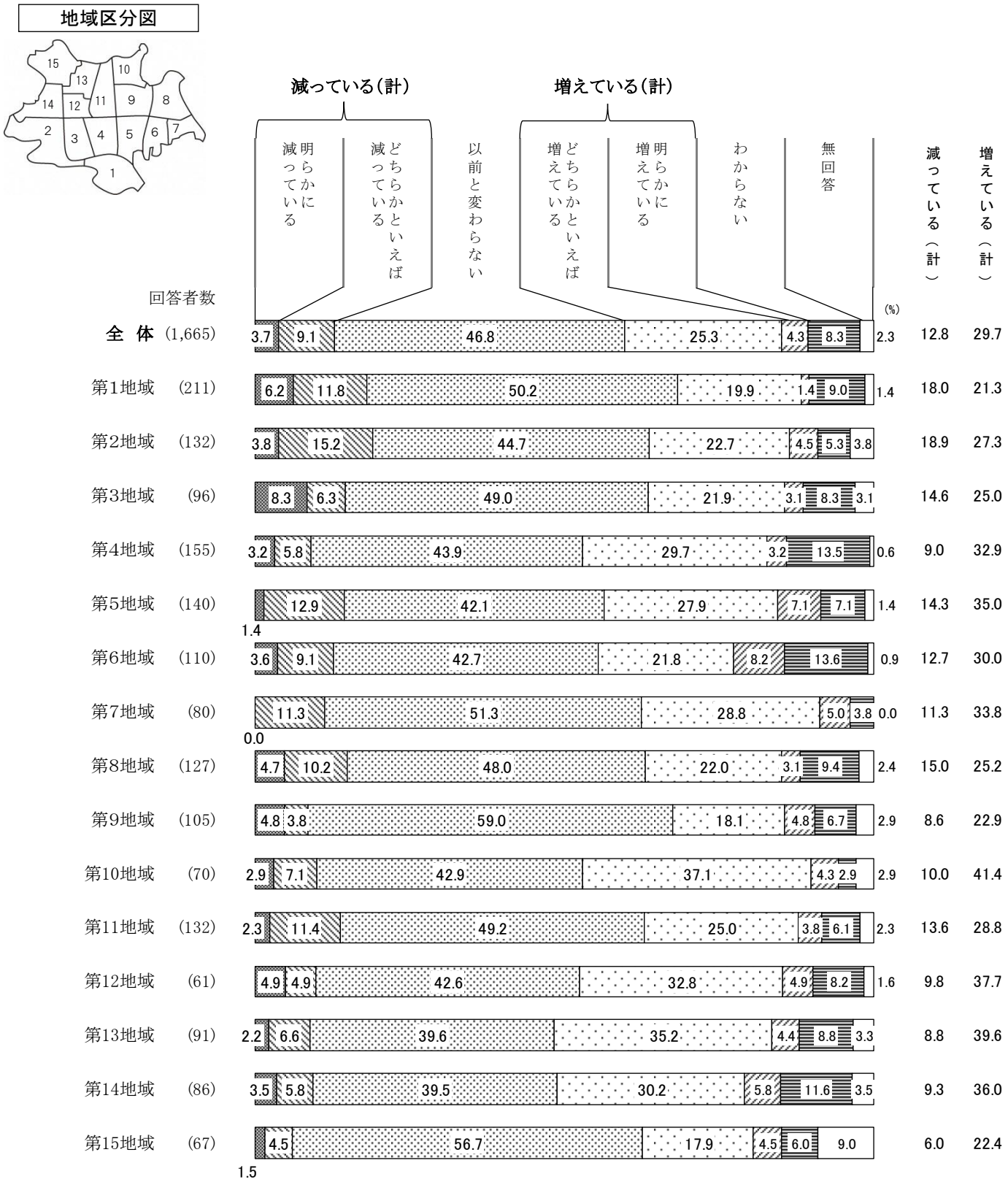
〈ペットのふん〉について、【減っている】は第７地域が61.3％と最も高く、次いで第12地域が59.0％で続いている。一方、【増えている】は第７地域、第８地域、第10地域、第15地域でそれぞれ１割台半ばとなっている。

図１－２－２－②　地域別／ペットのふん



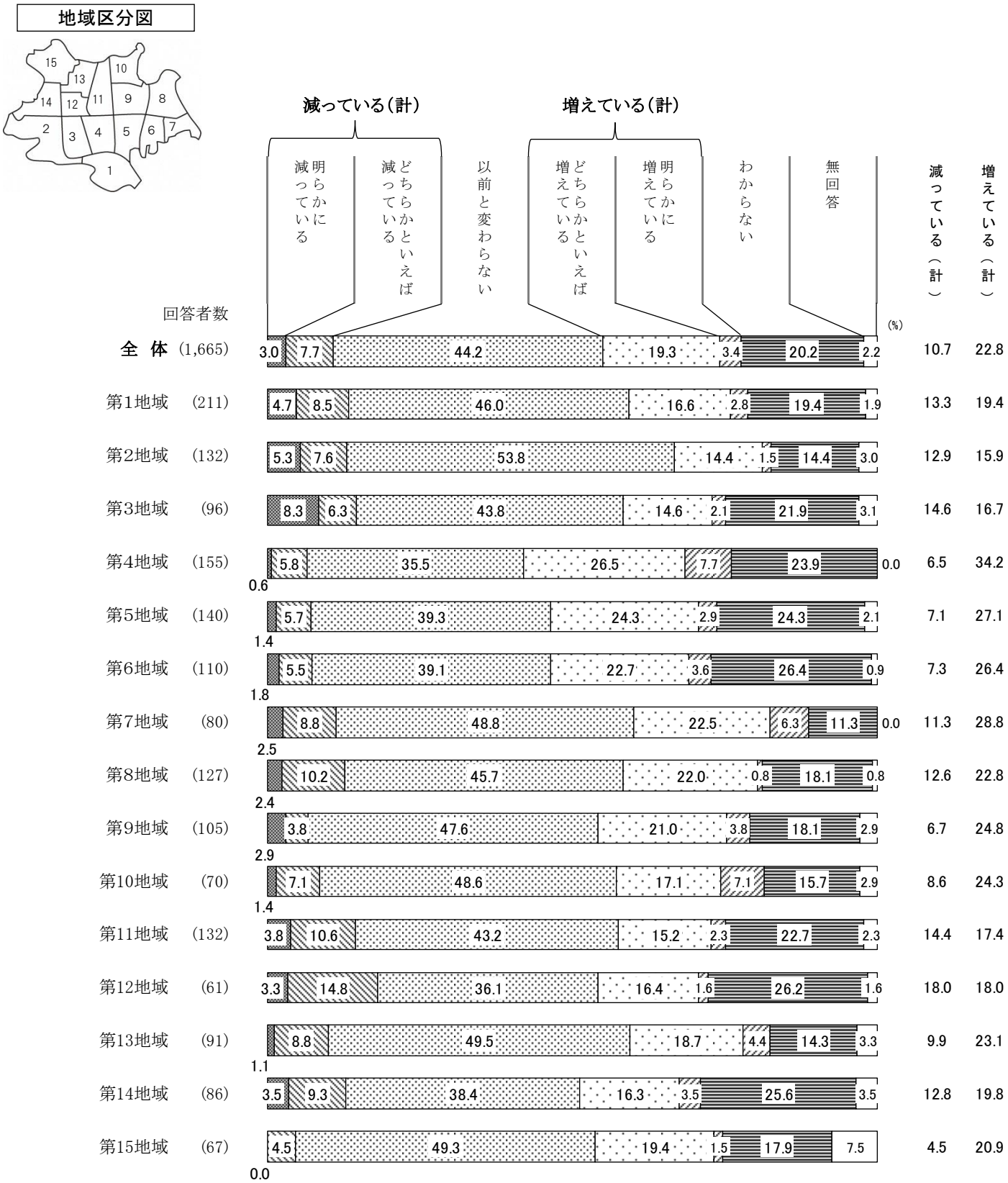
〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第10地域と第13地域で４割前後と、他の地区より高くなっている。一方、【減っている】については、第１地域と第２地域で２割弱と高くなっている。

図１－２－２－③　地域別／まちなかの花や緑



〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第４地域が34.2％と最も高く、次いで第７地域が28.8％で続いている。一方、【減っている】は第12地域で18.0％と高くなっている。

図１－２－２－④　地域別／防犯パトロール



（３）地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は８割を超えている

問３　問１、問２を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（○は１つだけ）。

図１－３－１－①　経年比較／地域の暮らしやすさ

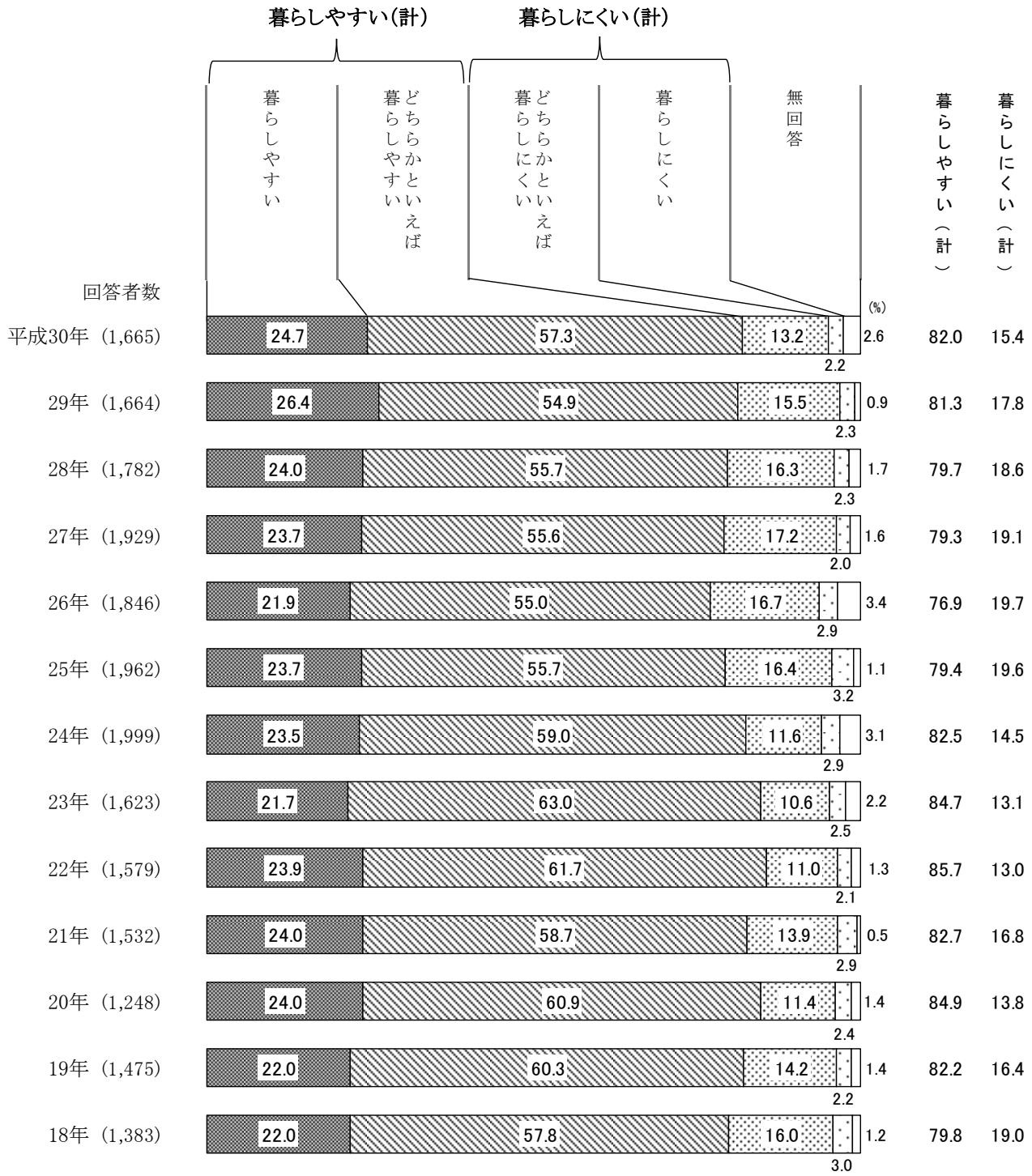
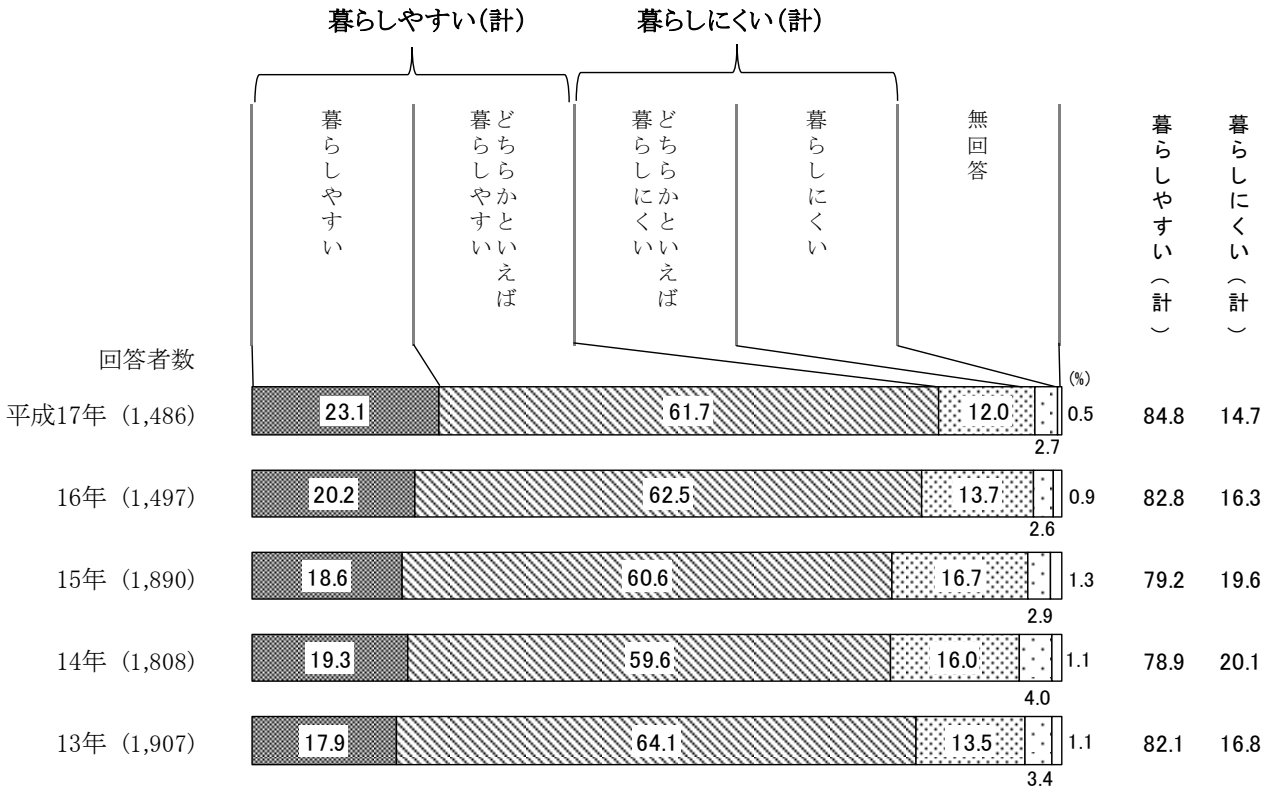


図１－３－１－②　経年比較／地域の暮らしやすさ

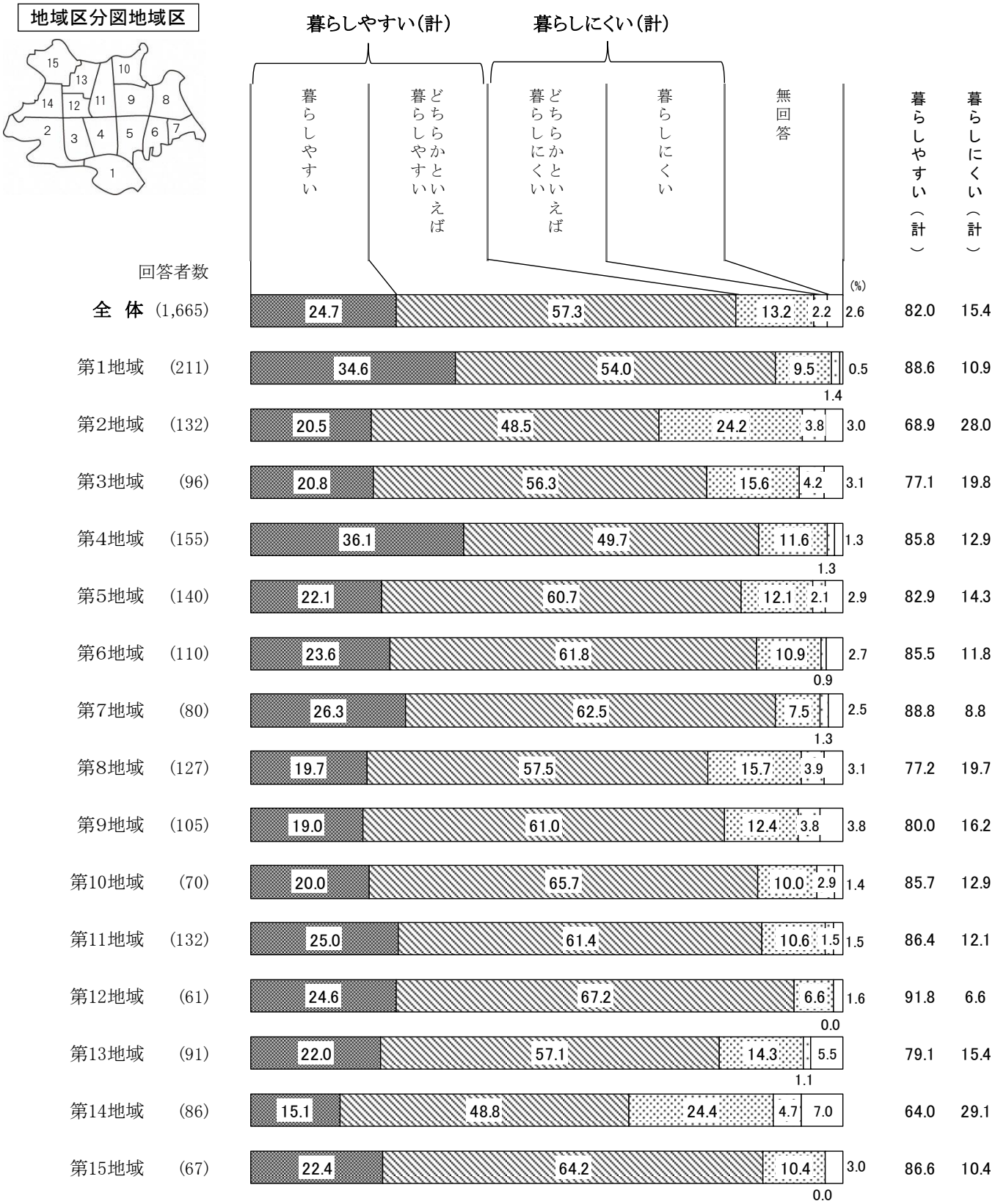


地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は24.7%で、「どちらかといえば暮らしやすい」（57.3%）を合わせた【暮らしやすい】は８割強を占めている。一方、「暮らしにくい」は2.2%で、「どちらかといえば暮らしにくい」（13.2%）を合わせた【暮らしにくい】は１割台半ばである。

経年でみると、【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として以降４年続けて漸減傾向にあったが、平成27年調査で79.3%と増加に転じ、今回調査でも82.0%と４年続けて漸増している。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、今回の調査では15.4%と、平成27年以降４年続けて漸減傾向を示している。

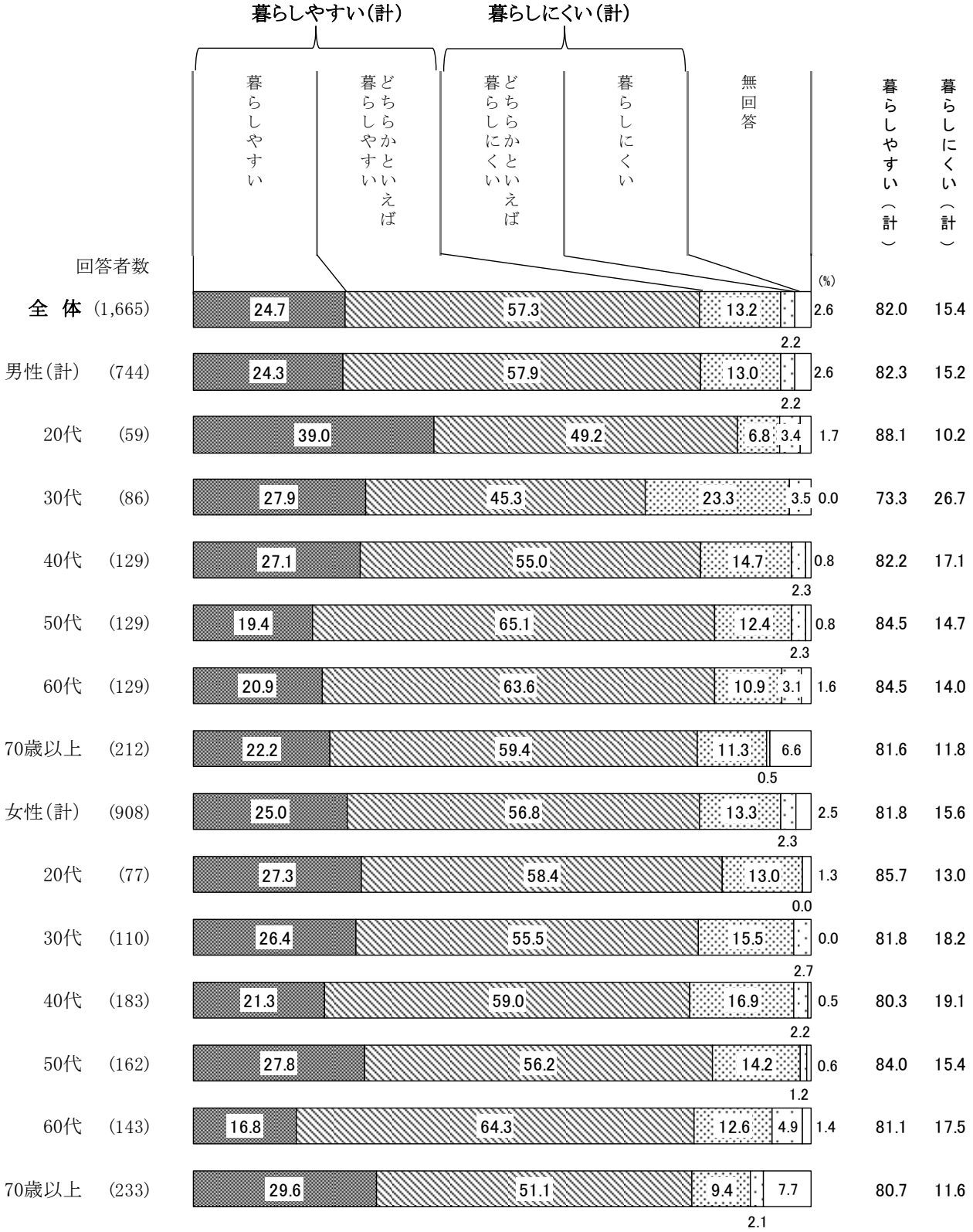
地域別でみると、【暮らしやすい】は第12地域で91.8％と最も高く、次いで第７地域（88.8％）、第１地域（88.6％）の順となっている。一方、【暮らしにくい】は第２地域と第14地域でともに３割弱と、他の地域より高くなっている。

図１－３－２　地域別／地域の暮らしやすさ



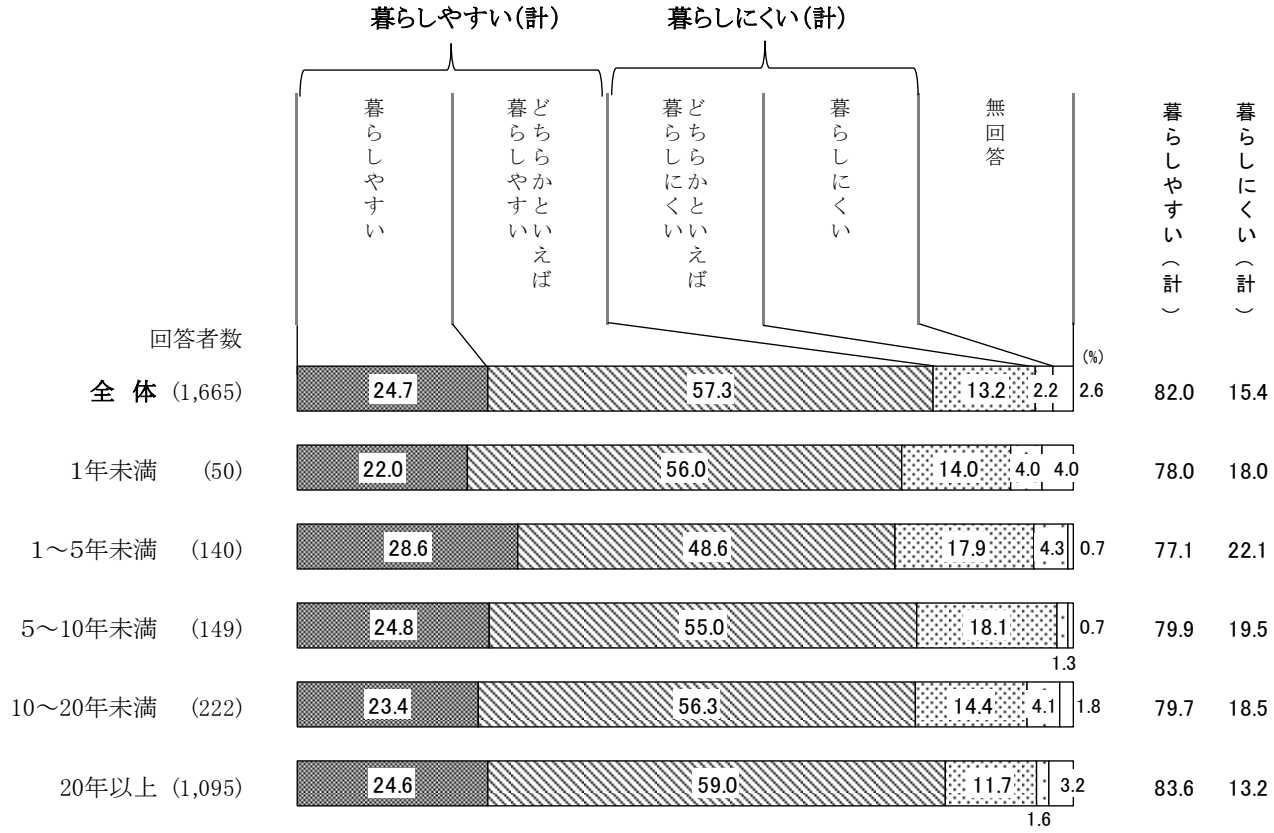
性別でみると【暮らしやすい】は、男性82.3%、女性81.8%となっている。
性・年代別でみると、男性では20代で【暮らしやすい】が88.1%と９割弱に達して高い。
女性では年代による大きな違いはみられない。

図１－３－３　性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



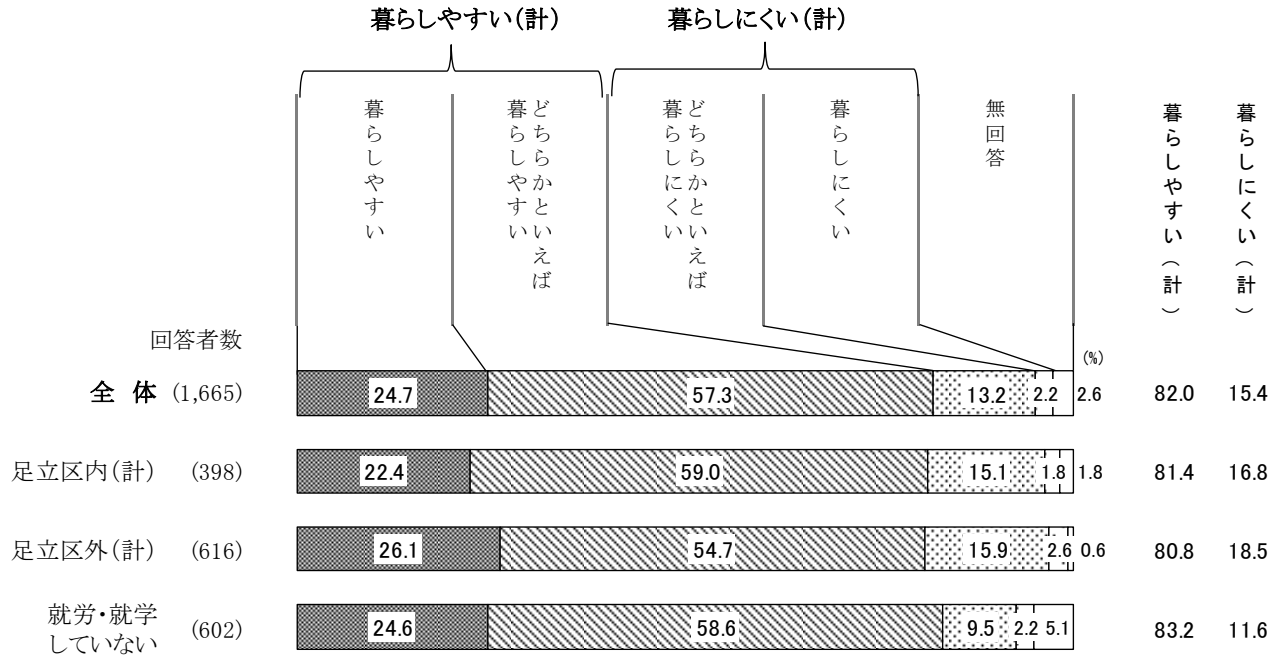
居住年数別でみると、いずれの層でも【暮らしやすい】が８割弱から８割台半ばと大きな違いはみられない。

図１－３－４　居住年数別／地域の暮らしやすさ



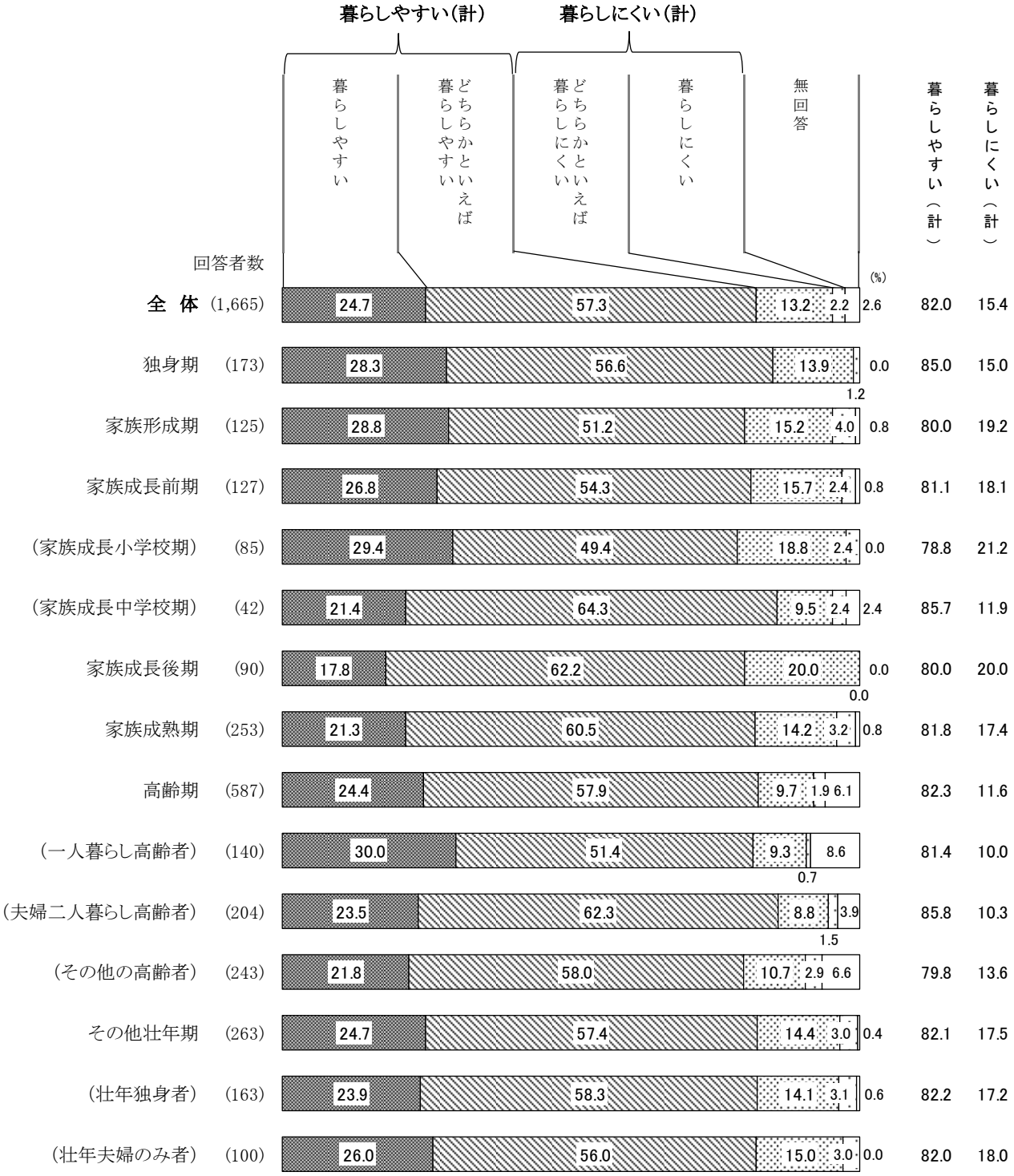
就労・就学場所別にみると、いずれの層でも【暮らしやすい】が８割強と大きな違いはみられない。

図１－３－５　就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



ライフステージ別でみると、いずれのステージでも【暮らしやすい】が８割弱から８割台半ばと大きな違いはみられない。

図１－３－６　ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



（４）特に暮らしにくいと感じること

■ “マナーやルールへの意識の低さ”と“交通の便の悪さ”がそれぞれ４割台半ば

問３で「３．どちらかといえば暮らしにくい」、または「４．暮らしにくい」とお答えの方に
問３－１　特に暮らしにくいと感じることは何ですか（○は３つまで）。

図１－４－１－①　経年比較／特に暮らしにくいと感じること

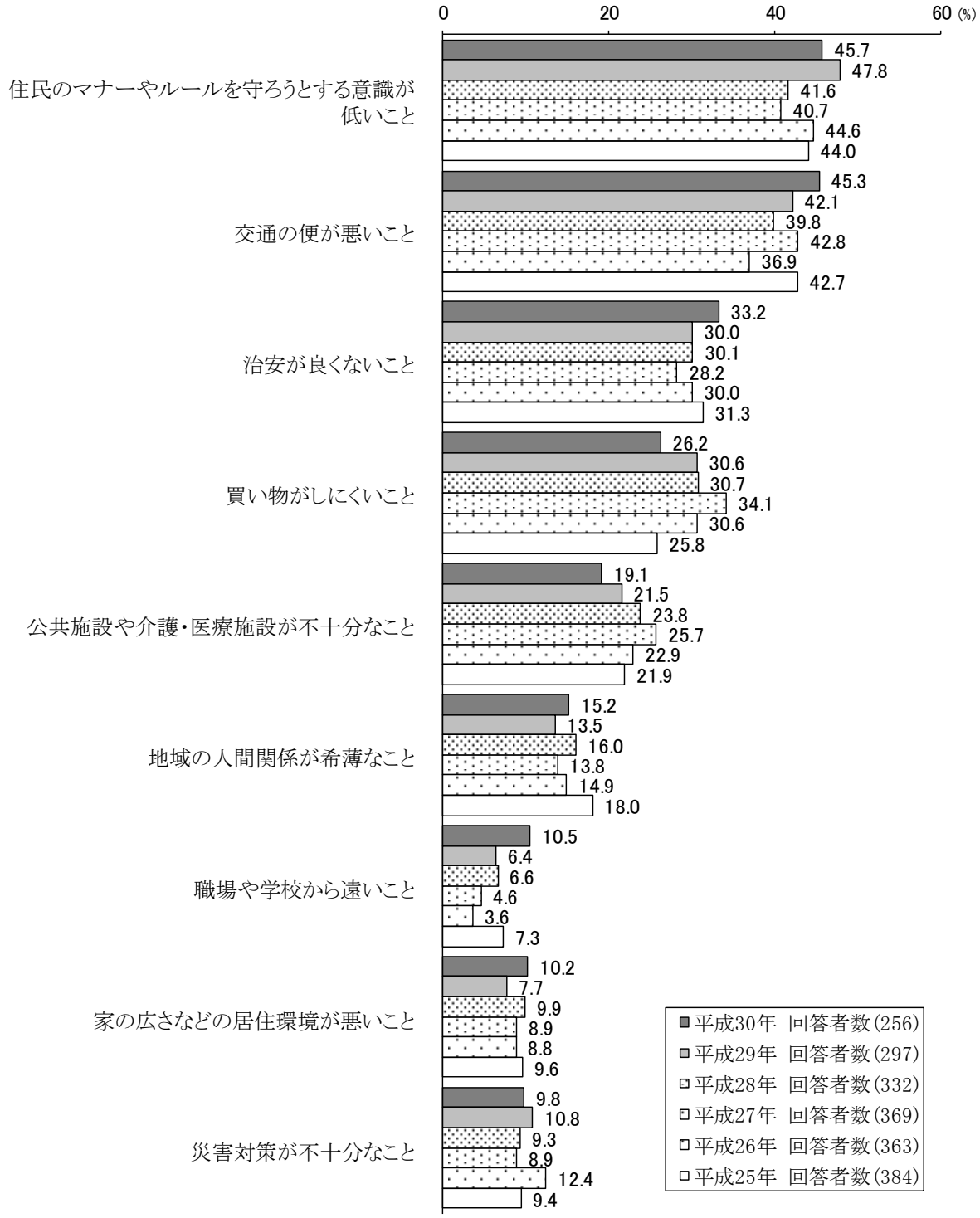
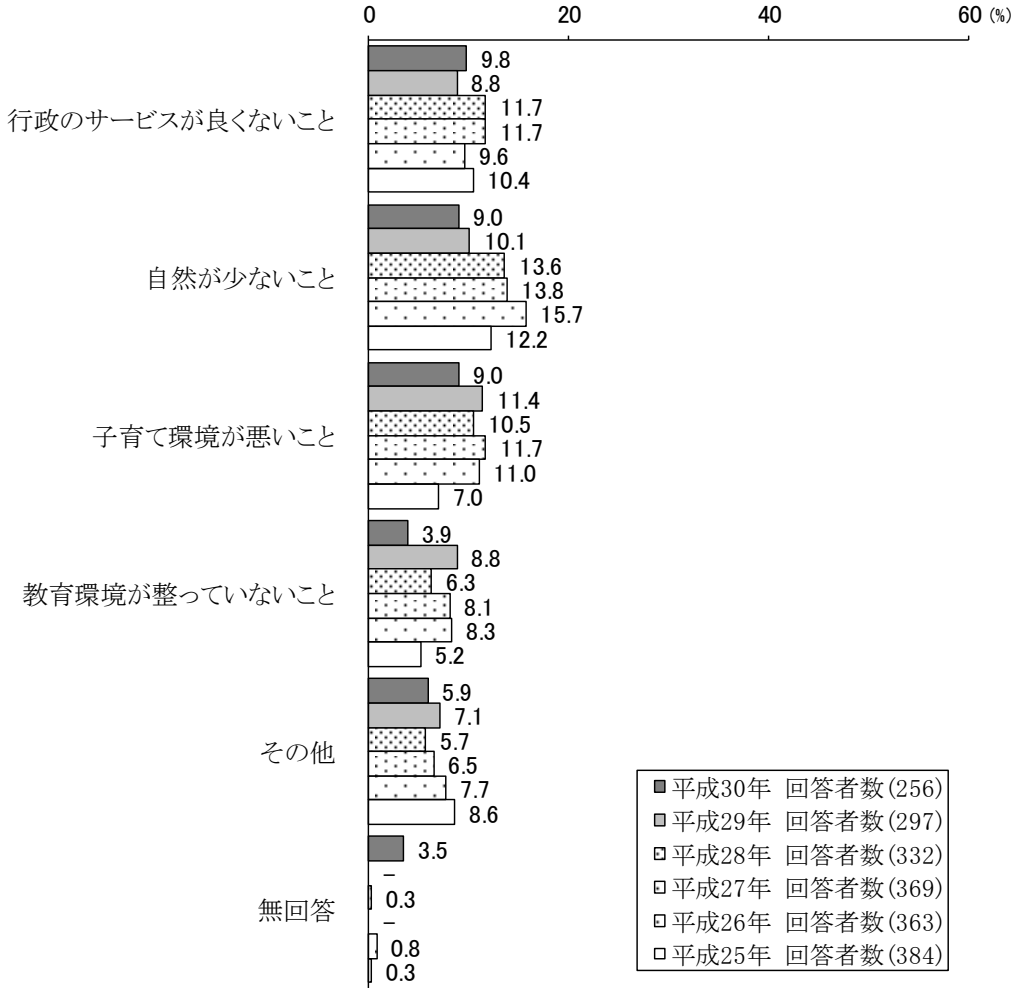


図１－４－１－②　経年比較／特に暮らしにくいと感じること



【暮らしにくい】という人に、その理由を聴いたところ、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」（45.7%）と「交通の便が悪いこと」（45.3%）の２項目がいずれも４割台半ばととくに高くなっている。また、「治安が良くないこと」と「買い物がしにくいこと」も、それぞれ33.2%、26.2%と高くなっている。

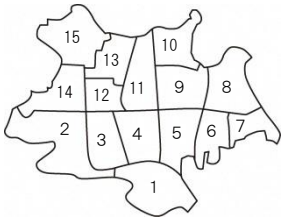
上位項目について経年でみると、平成29年調査に比べて、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と「買い物がしにくいこと」は僅かに減少し、「交通の便が悪いこと」と「治安が良くないこと」は微増している。

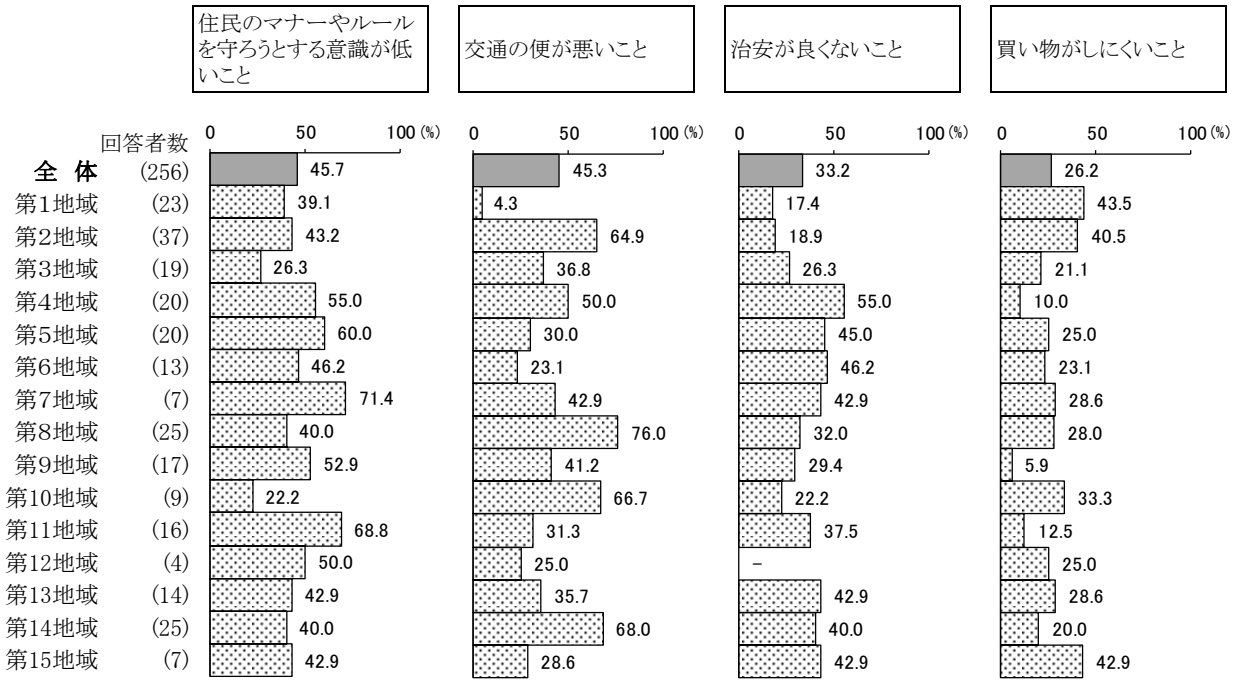
地域別でみると、地域によって回答者数が少ないところがあることから参考値にとどめる必要があるものの、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第７地域と第11地域で７割前後と高くなっている。「交通の便が悪いこと」は第８地域で７割台半ばと最も高く、次いで第14地域でも７割弱となっている。

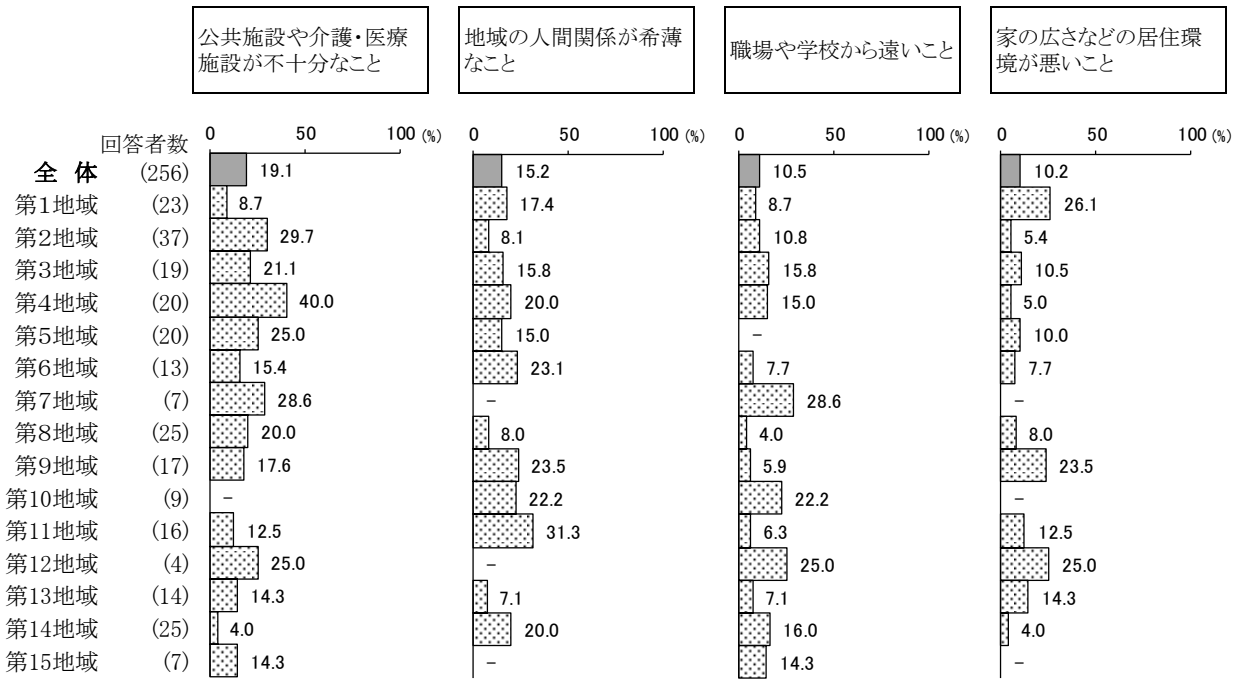
また、「治安が良くないこと」は第４地域が５割台半ばで、「買い物がしにくいこと」は第１地域が４割台半ばで、それぞれ全地域中最も高くなっている。

図１－４－２　地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位８項目

地域区分図





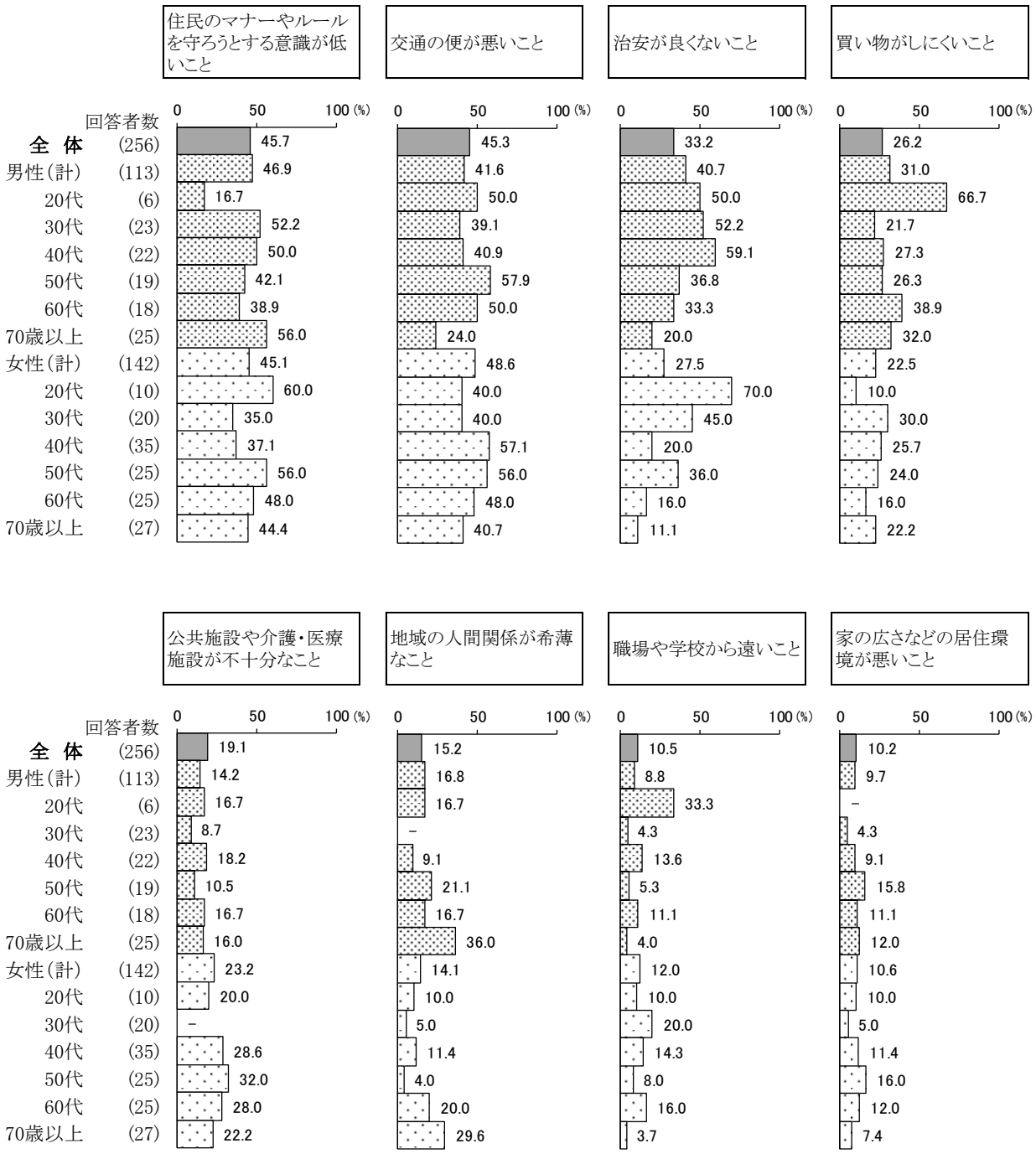


性別でみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と「交通の便が悪いこと」では男女で大きな違いはみられない。なお、「治安が良くないこと」では男性が40.7％と女性（27.5％）を上回っている。

性・年代別でみると、サンプル数が少ない層が多いことからあくまで参考値ながら、男性では、50代で「交通の便が悪いこと」が、30代と40代では「治安が良くないこと」がそれぞれ高くなっている。

女性では、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は20代と50代が、「交通の便が悪いこと」は40代と50代が、それぞれ高くなっている。

図１－４－３　性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位８項目

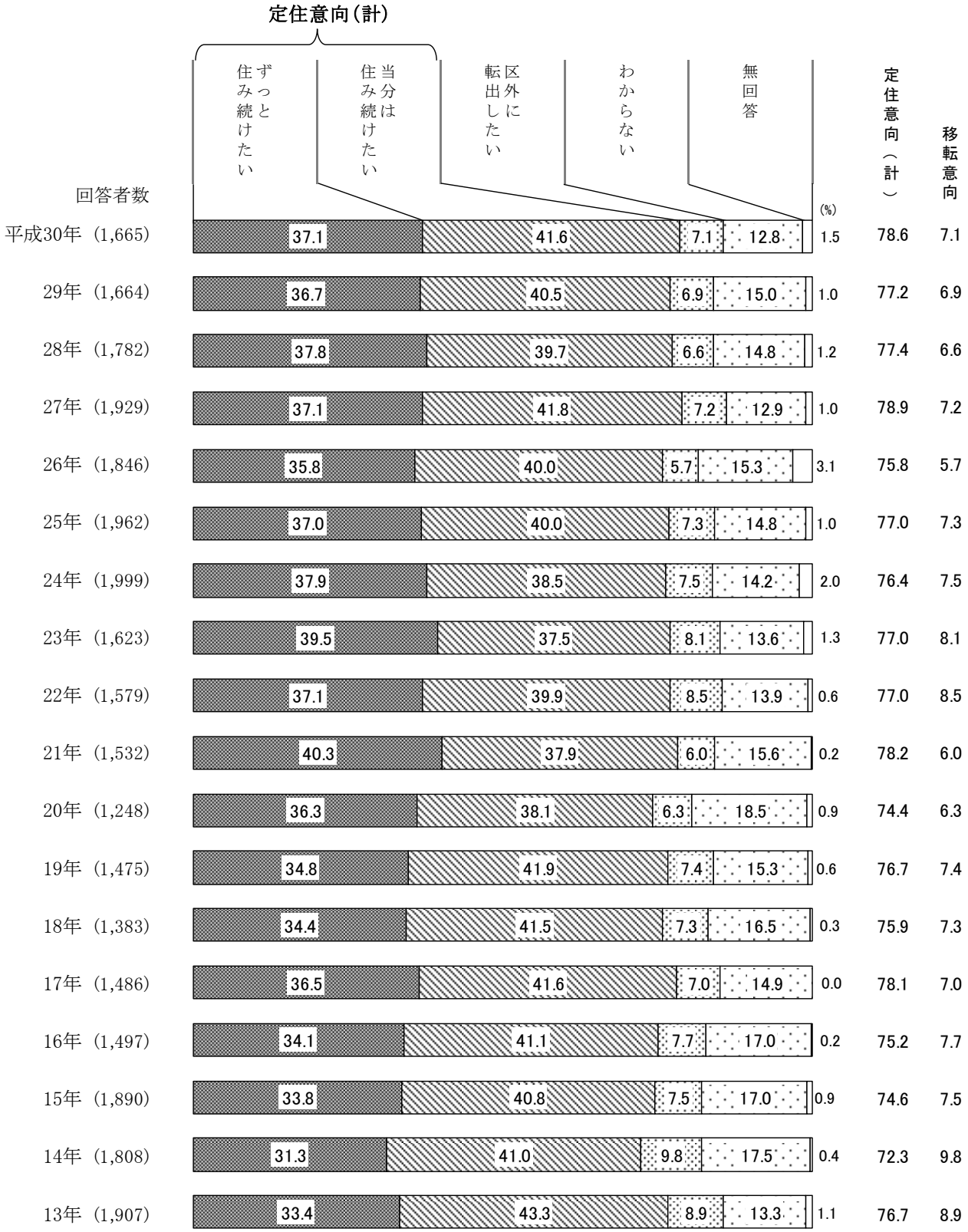


（５）定住意向

■ 【定住意向】がある人は８割弱

問４　あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は１つだけ）。

図１－５－１　経年比較／定住意向



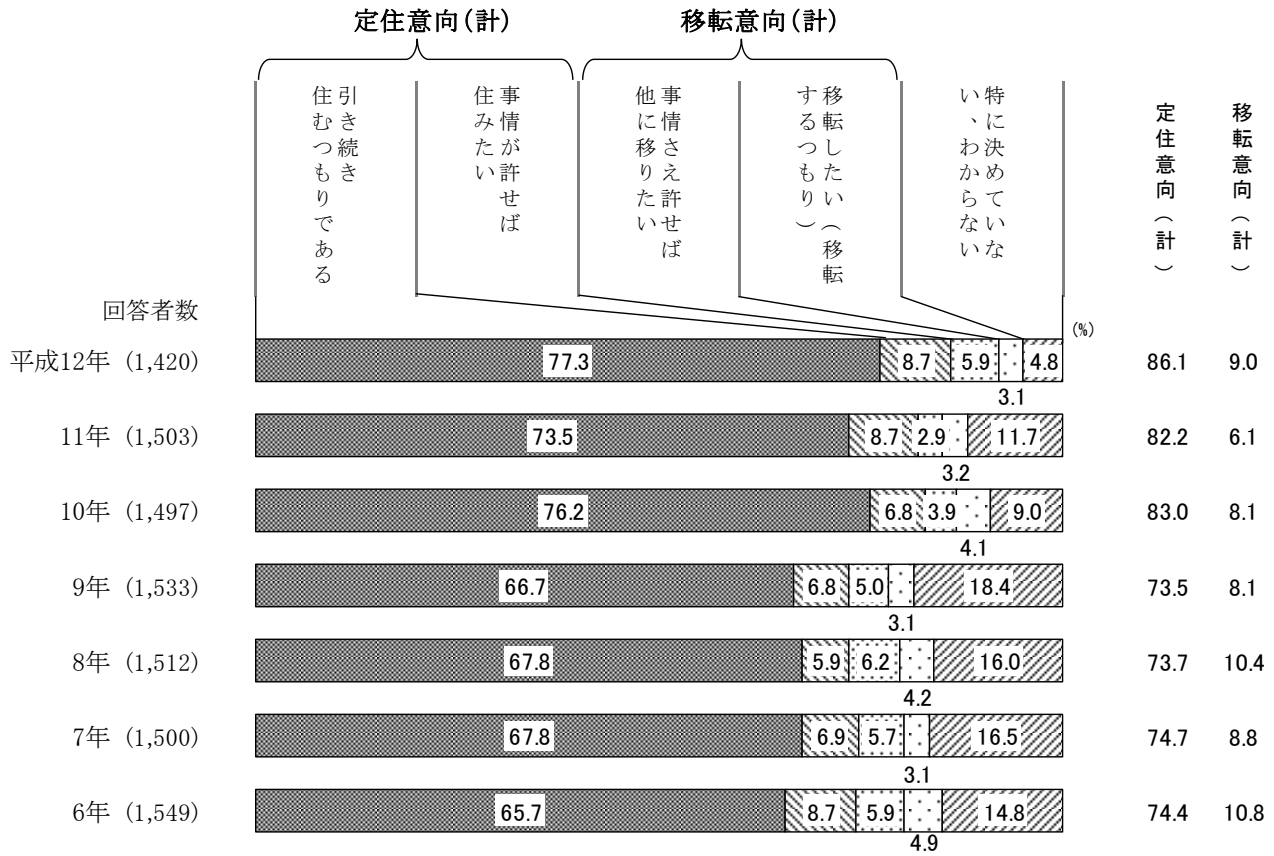
足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は37.1％で、「当分は住み続けたい」（41.6％）を合わせた【定住意向】は78.6％と８割弱を占めている。一方、「区外に転出したい」は7.1％と１割未満である。

経年でみると、現行の選択肢となった平成13年以降、大きな変動はみられないが、今回の【定住意向】は78.6％と、平成29年に比べて1.4ポイント増加している。

参考／定住・移転意向の推移

問　あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から１つにお答えください。

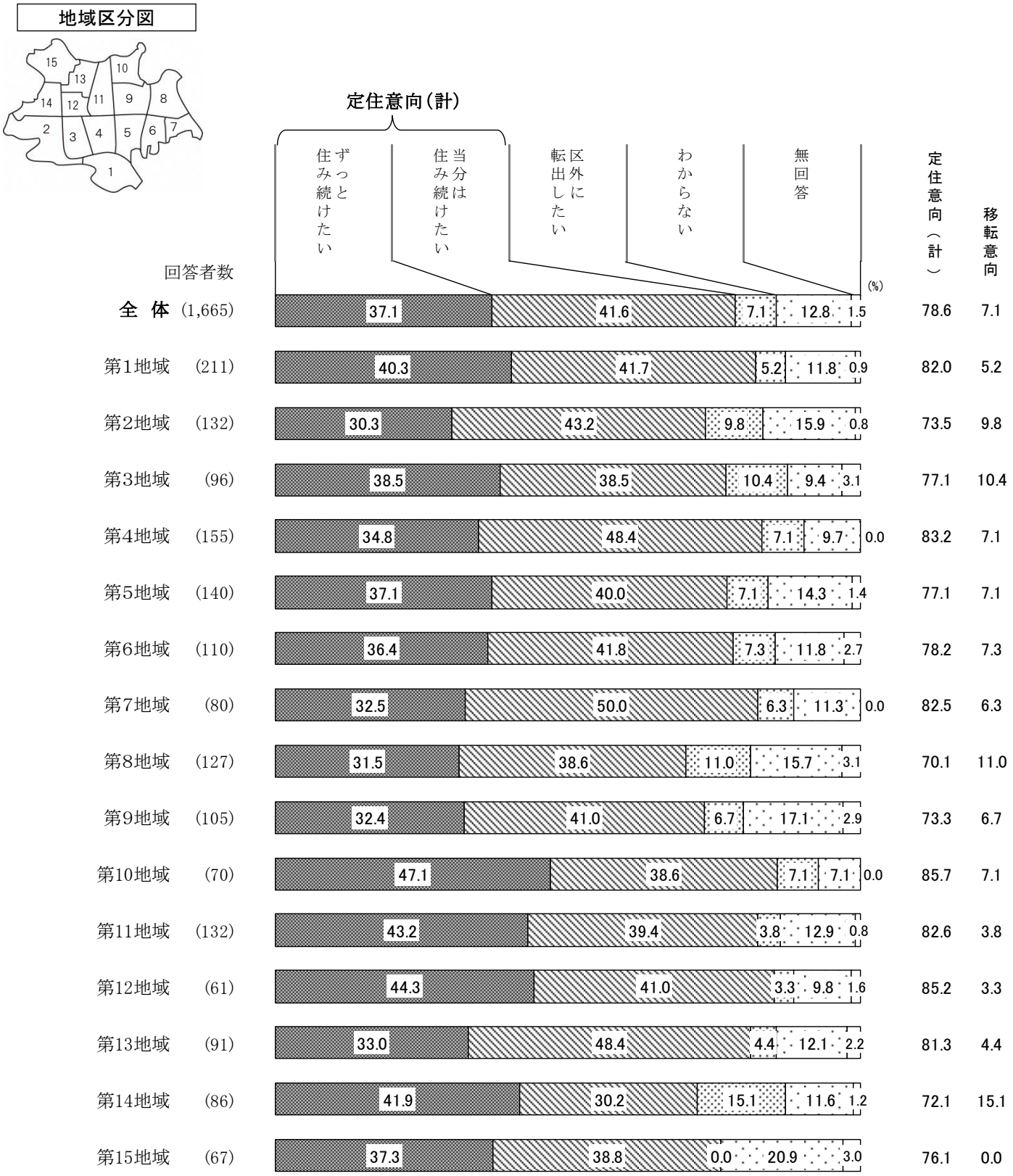
（○は１つ）



※　平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域別でみると、【定住意向】は第10地域で85.7％と最も高く、以下、第12地域（85.2％）、第４地域（83.2％）の順となっている。

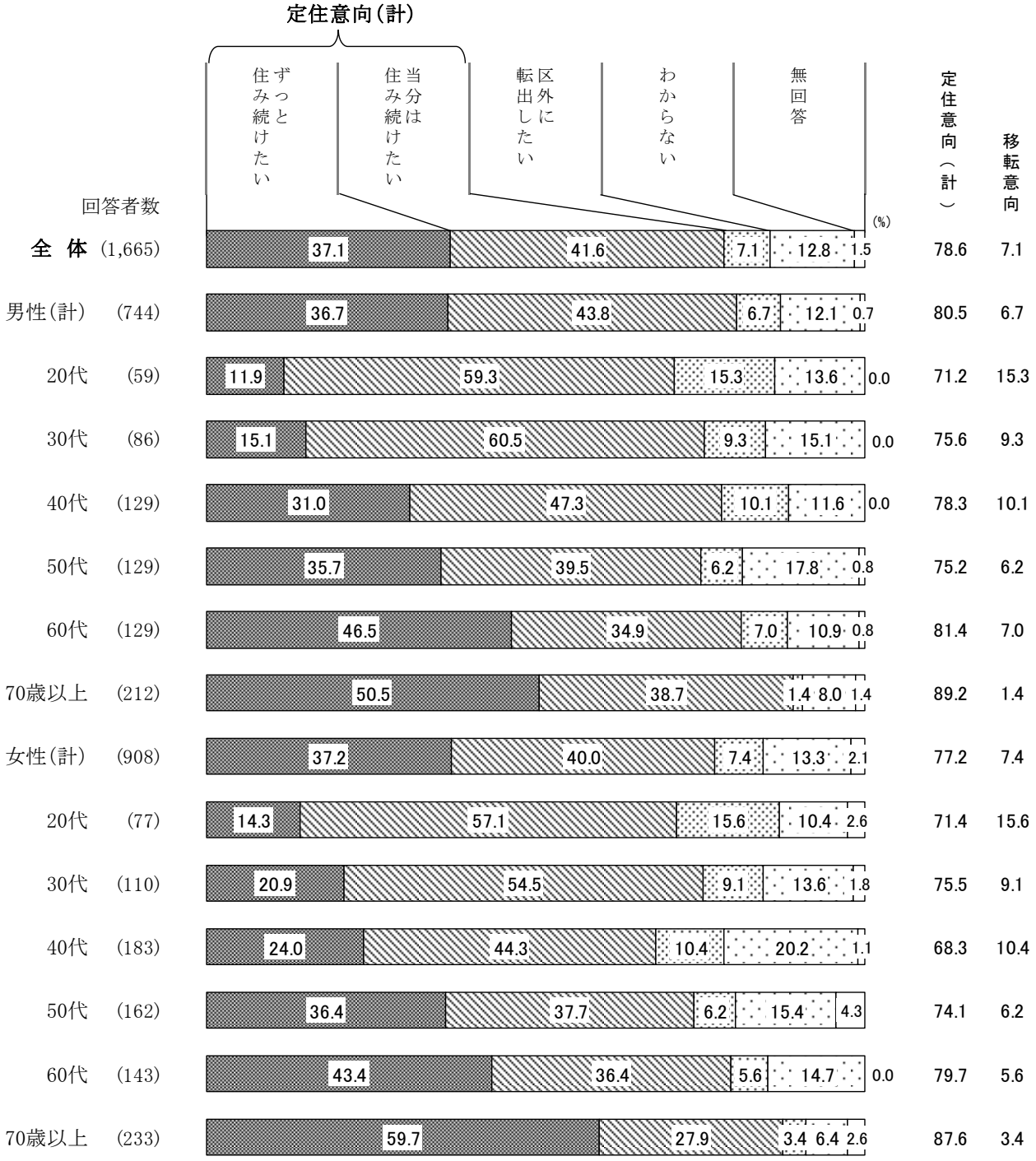
図１－５－２　地域別／定住意向



性別でみると、【定住意向】は、男性80.5％、女性77.2％となっている。

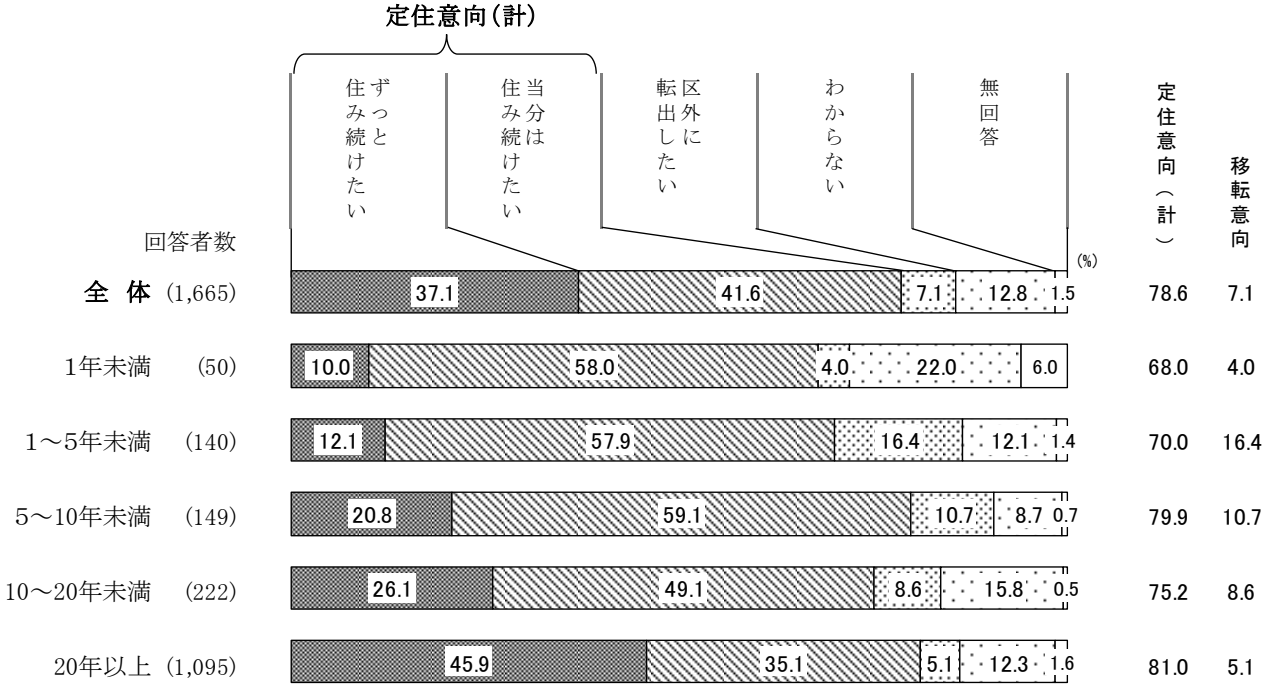
性・年代別でみると、男性、女性ともに【定住意向】は70歳以上（男性89.2％、女性87.6％）で他の年代に比べて高くなっている。

図１－５－３　性別、性・年代別／定住意向



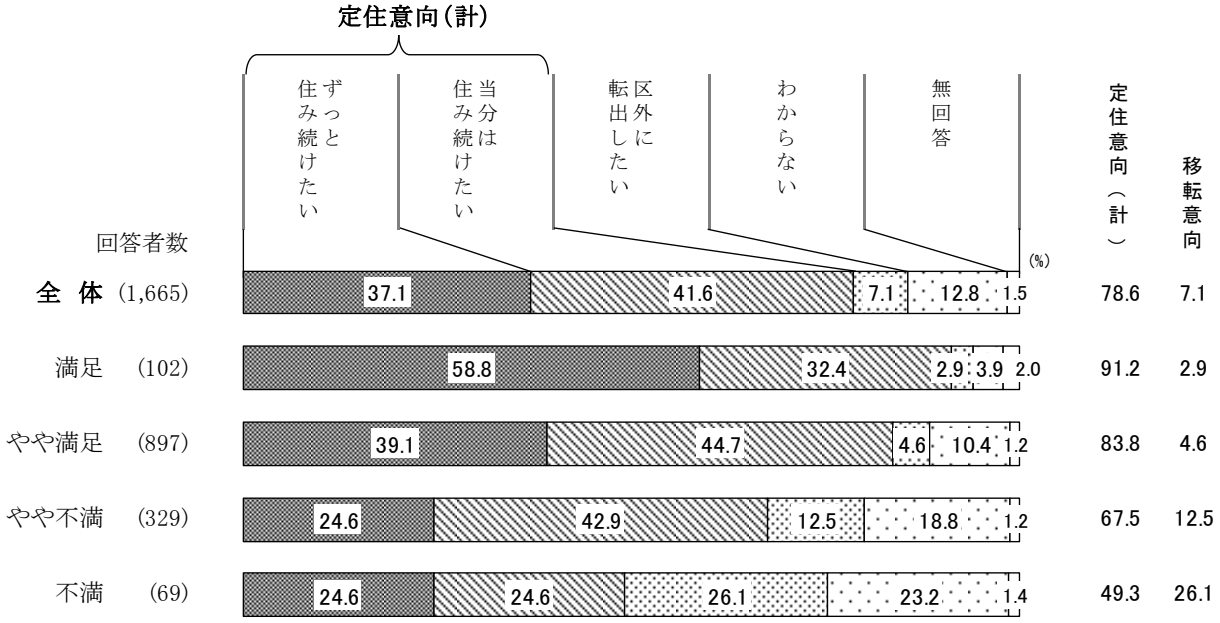
居住年数別でみると、１年未満から５～10年未満までは居住年数が長くなるほど【定住意向】が高まる傾向がみられる。なお、10～20年未満で75.2％に減少するものの、20年以上では81.0％と最も高くなっている。

図１－５－４　居住年数別／定住意向



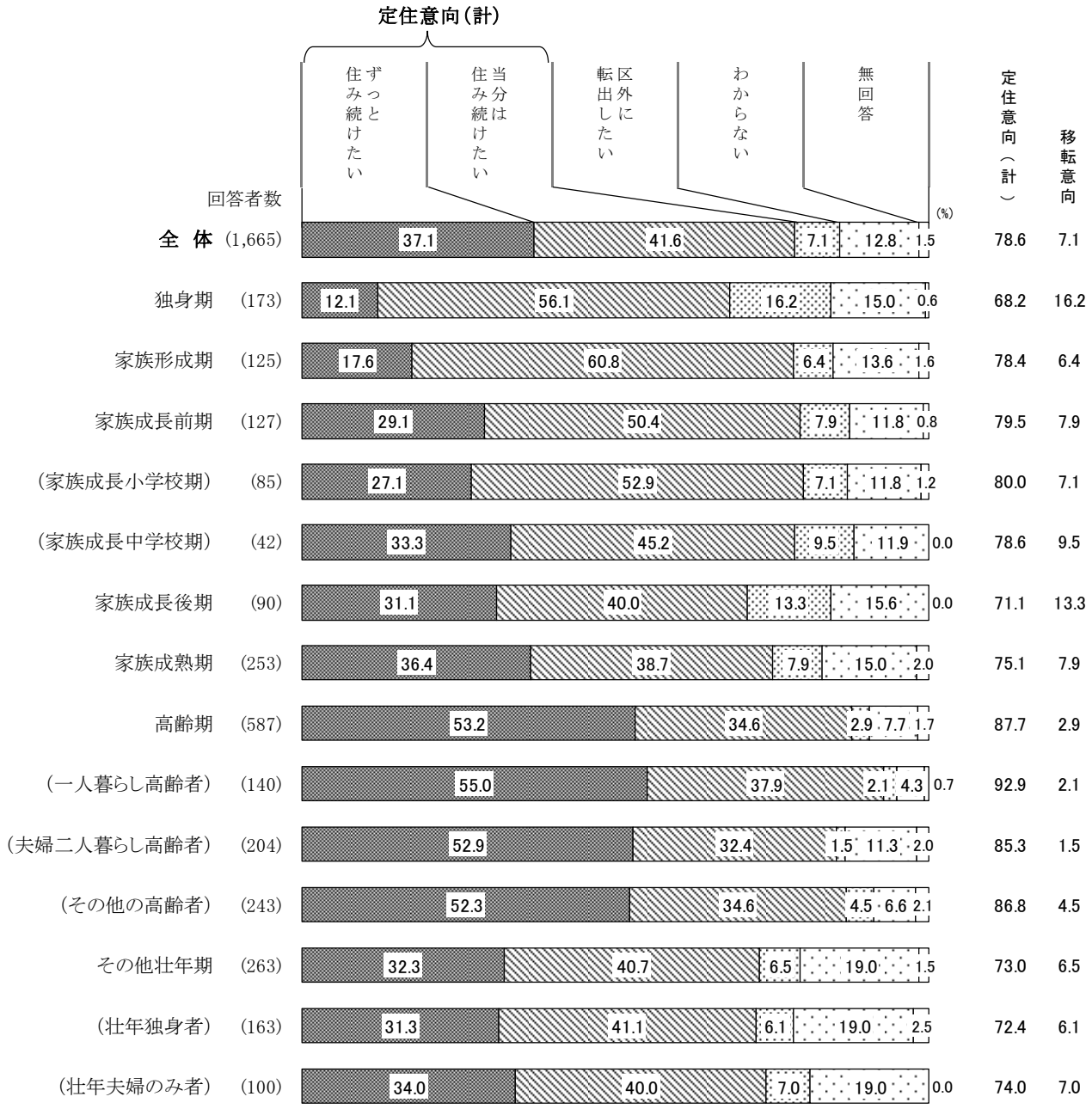
区政への満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では91.2%と９割を超えている。

図１－５－５　区政満足度別／定住意向



ライフステージ別でみると、高齢期で【定住意向】が87.7%と高くなっている。

図１－５－６　ライフステージ別／定住意向



２　大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意
（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
（３）備蓄量
（４）災害発生時の水や食料の確保
（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策
（６）対策をしていない理由
（７）地域の避難場所の認知
（８）避難場所の認知経路
（９）大規模災害時の避難生活場所
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

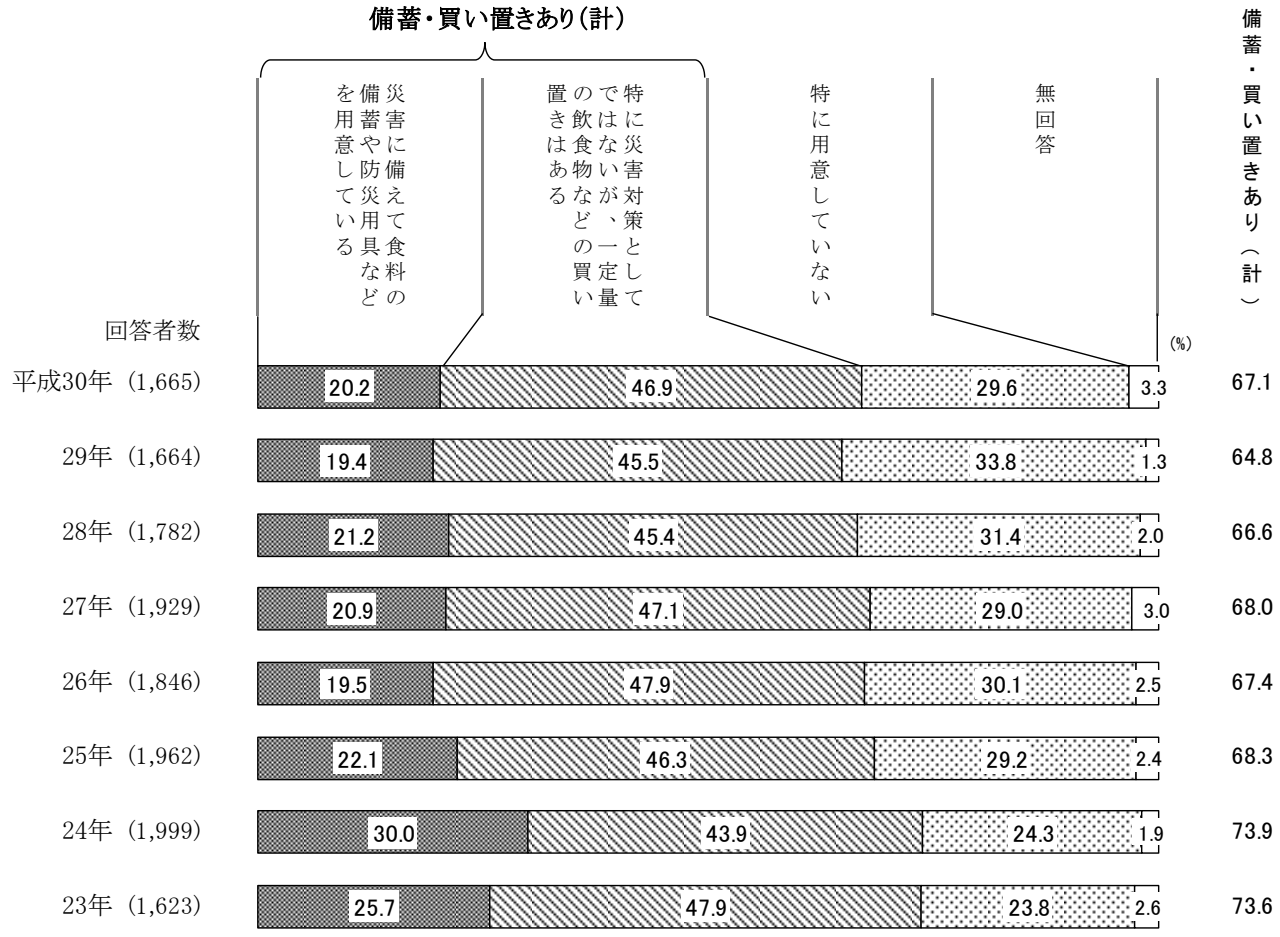
２．大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意

■備蓄・買い置きを用意している人が７割弱

問５　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は１つだけ）。

図２－１－１　経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.2%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.9%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は67.1%となっている。一方、「特に用意していない」は29.6%となっている。

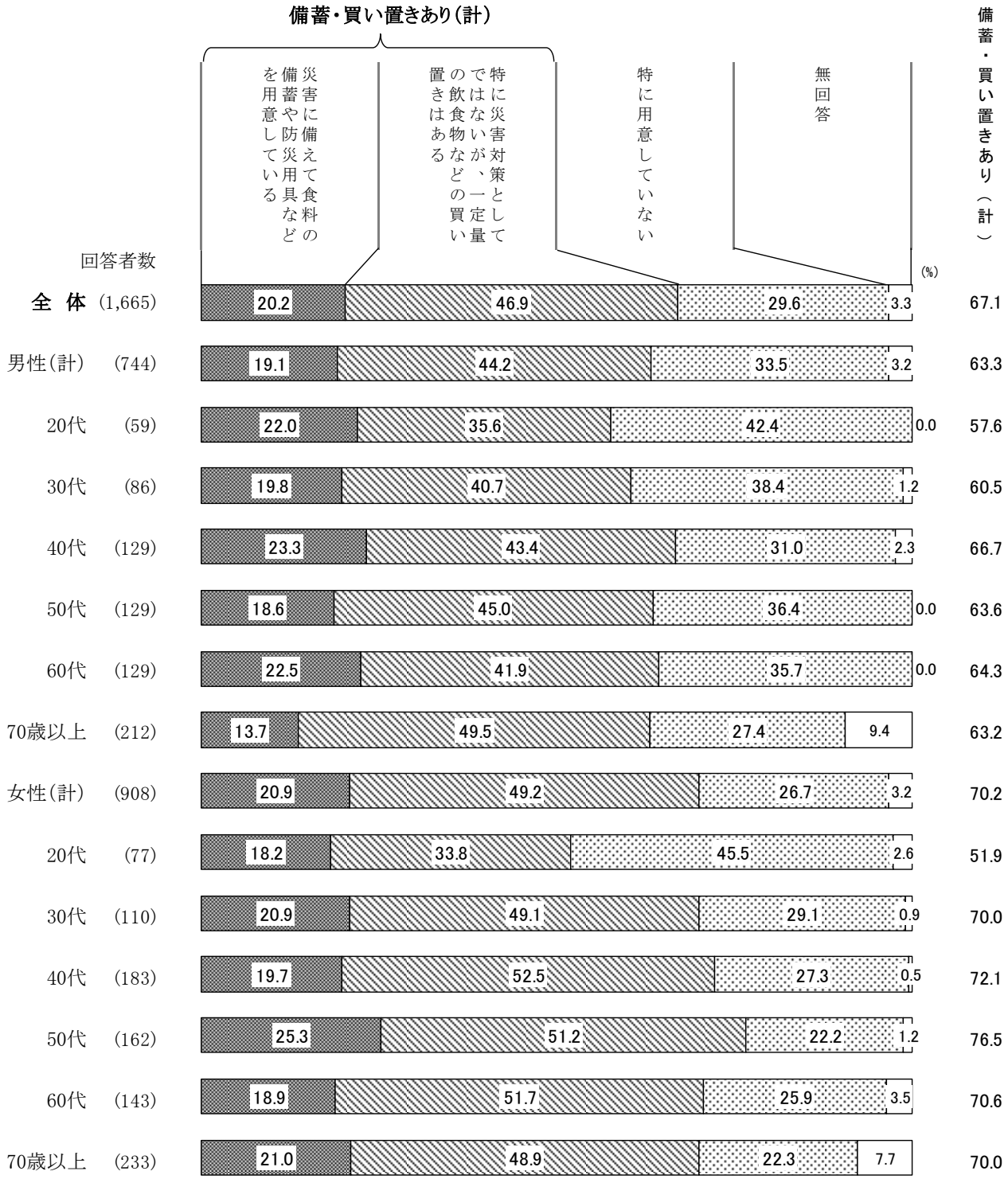
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」と「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は今回67.1%と、平成29年調査に比べて2.3ポイント増加している。

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が70.2％と、男性（63.3％）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代で「特に用意していない」が42.4％と高くなっている。

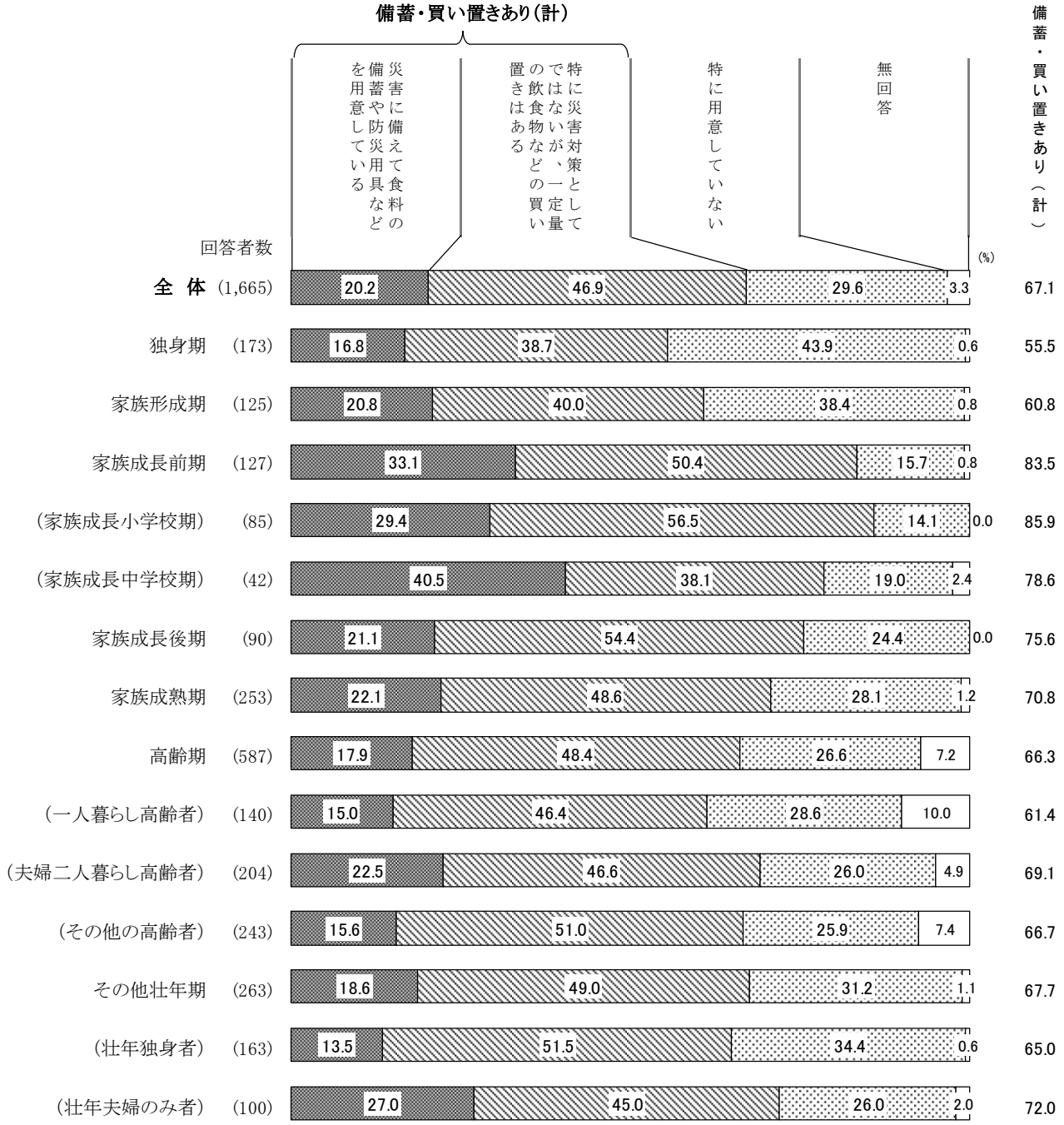
女性では、50代で【備蓄・買い置きあり】が76.5％と高くなっている。一方、20代で「特に用意していない」が45.5％と他の年代に比べて高くなっている。

図２－１－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



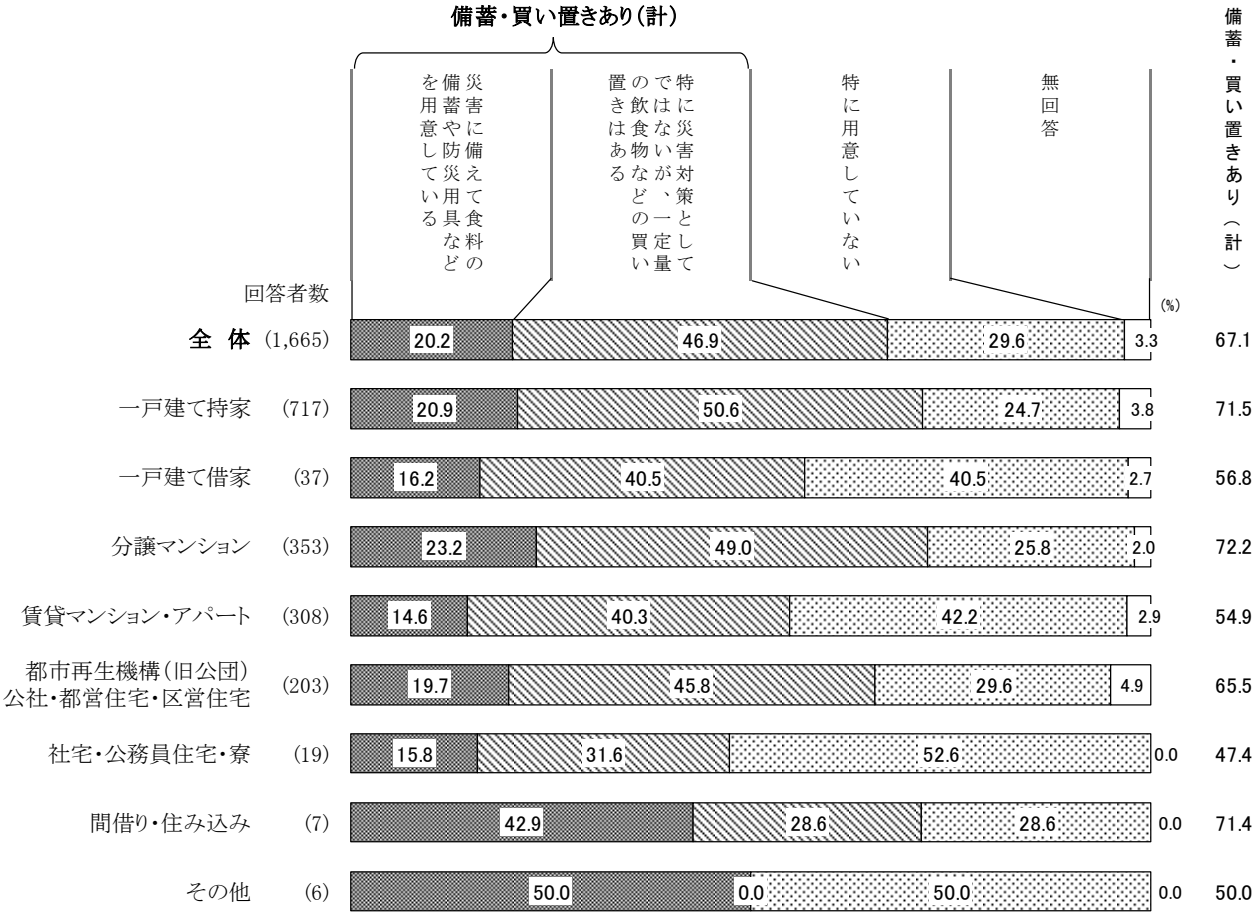
ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長前期で83.5％と高くなっている。

図２－１－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



住居形態別でみると、分譲マンションでは【備蓄・買い置きあり】が72.2％と、他の住居形態に比べてやや高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは「特に用意していない」がそれぞれ40.5％、42.2％と高くなっている。

図２－１－４　住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■　「水」が８割台半ば、「あかり」「食料」は７割台後半

問５で「１．災害に備えて～」、または「２．特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問５－１　備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。
（○はあてはまるものすべて）

図２－２－１－①　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

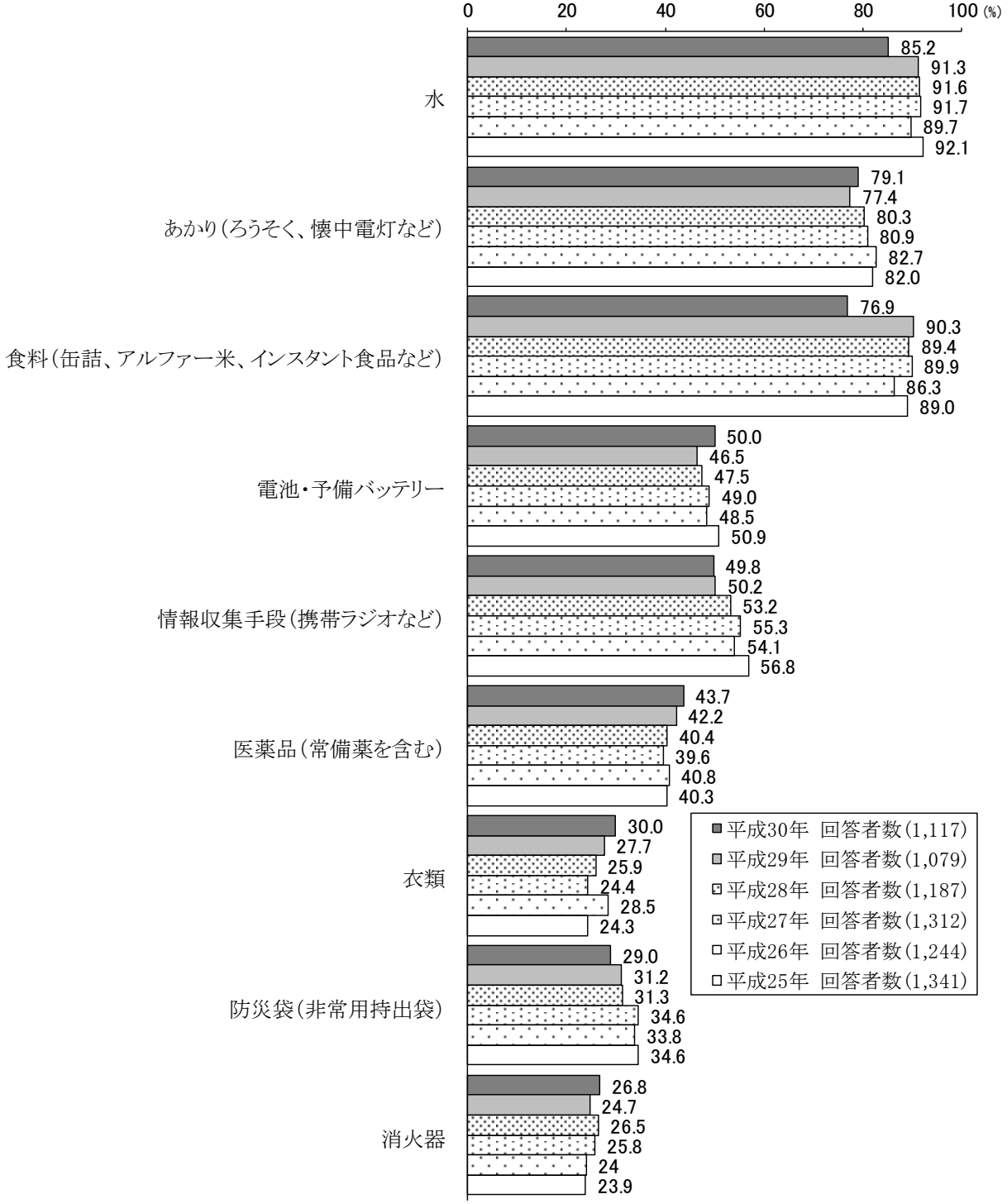
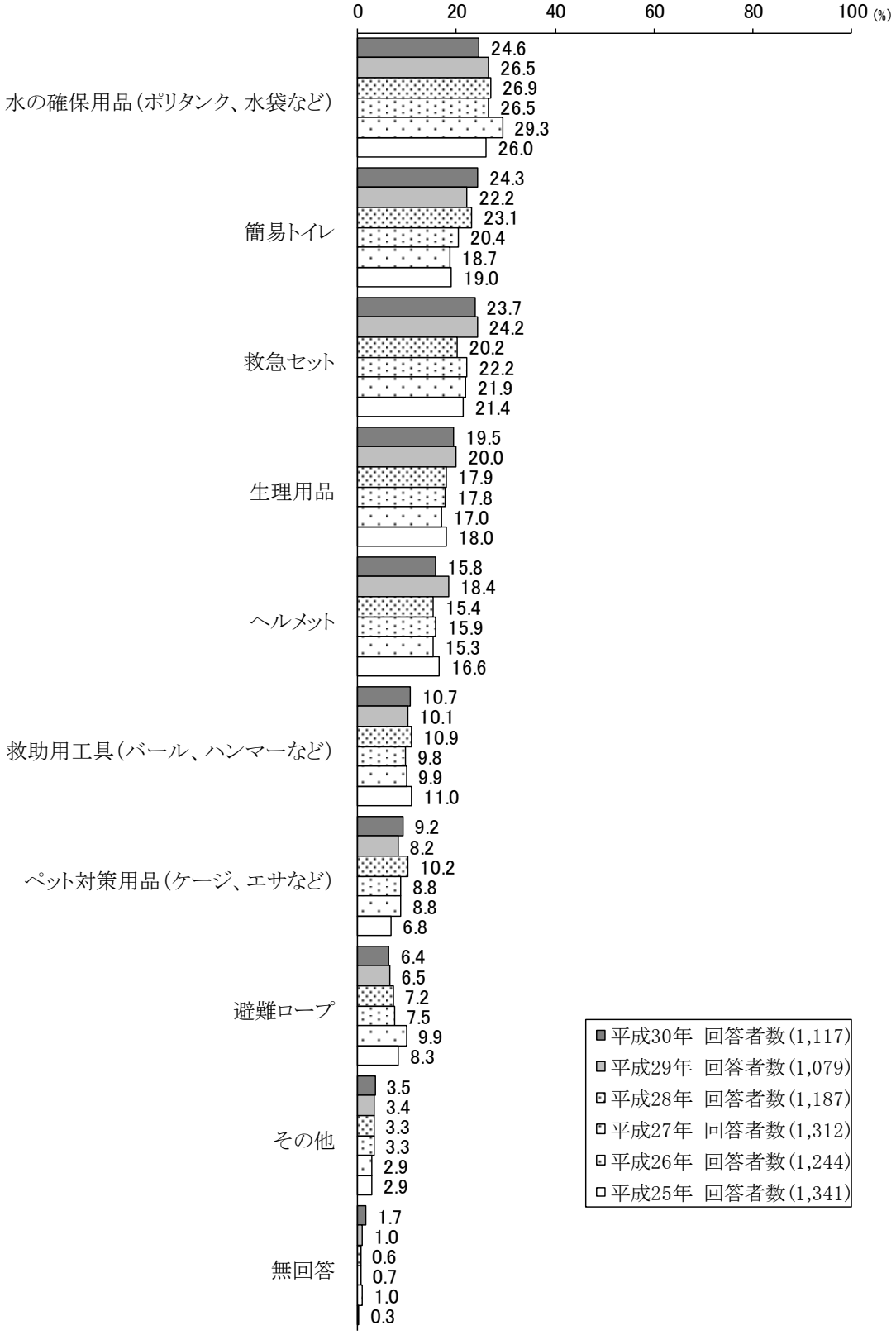


図２－２－１－②　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聴いたところ、「水」が85.2％で最も高く、以下「あかり（ろうそく、懐中電灯など)」(79.1％)、「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など)」(76.9％）の順となっている。

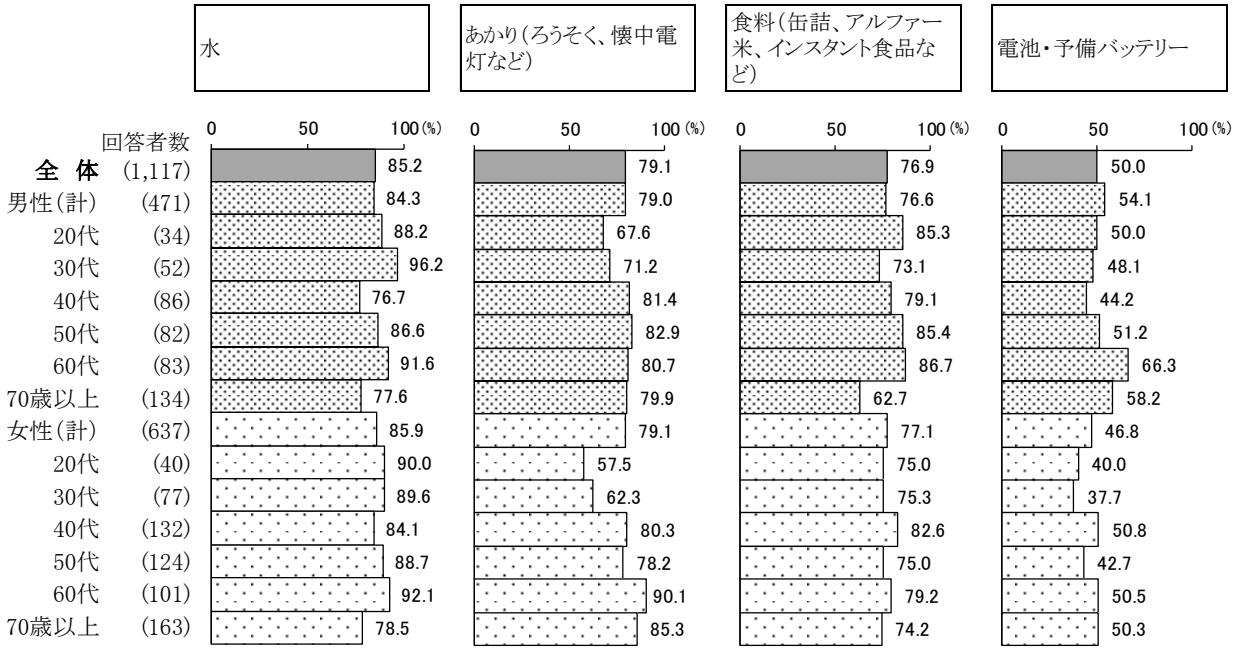
経年でみると、前回までの調査と同様に、「水」「あかり（ろうそく、懐中電灯など)」「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など)」が上位３項目に挙げられるものの、今回の調査では「水」は85.2％で前回に比べて6.1ポイント減少、「食料」は76.9％で13.4ポイント減少となっており、「食料」は前回の２位から順位を１つ下げている。

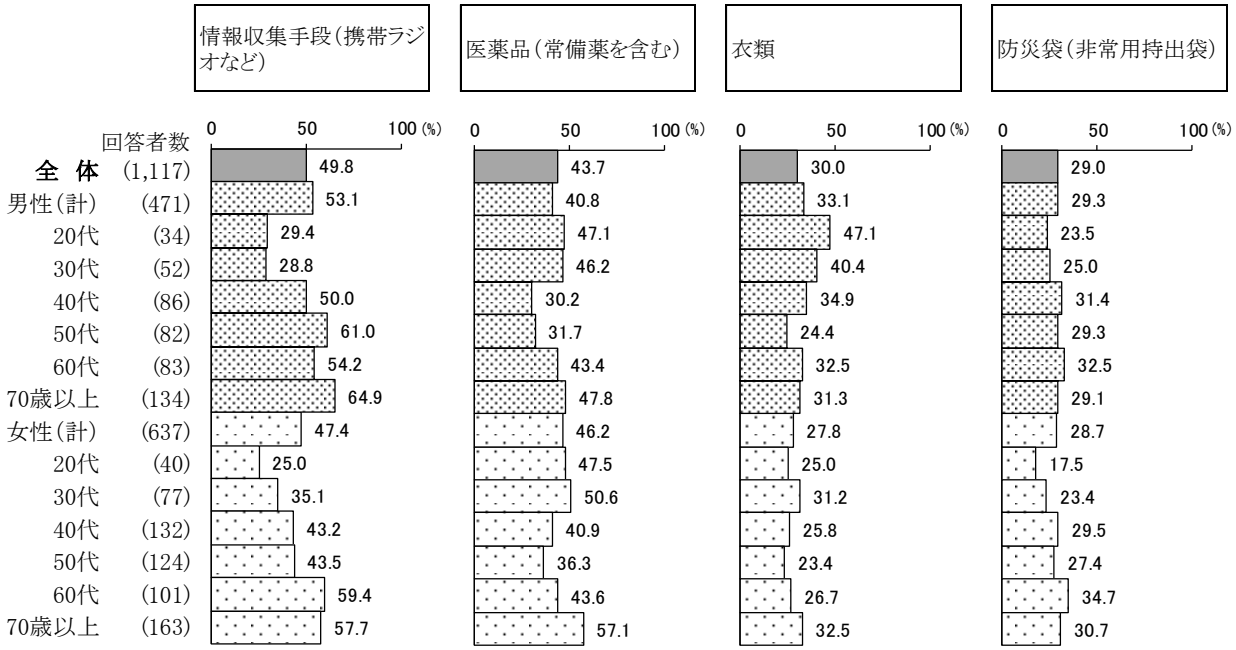
性別でみると、上位３項目について、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、「水」は30代と60代で９割を超えて高く、「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」は20代、50代、60代で８割台半ばと高くなっている。さらに、「電池・予備バッテリー」は60代で６割台半ばと高い。

女性では、「水」で60代が９割強に達して最も高く、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は60代、70歳以上で８割台半ばから９割と高くなっている。

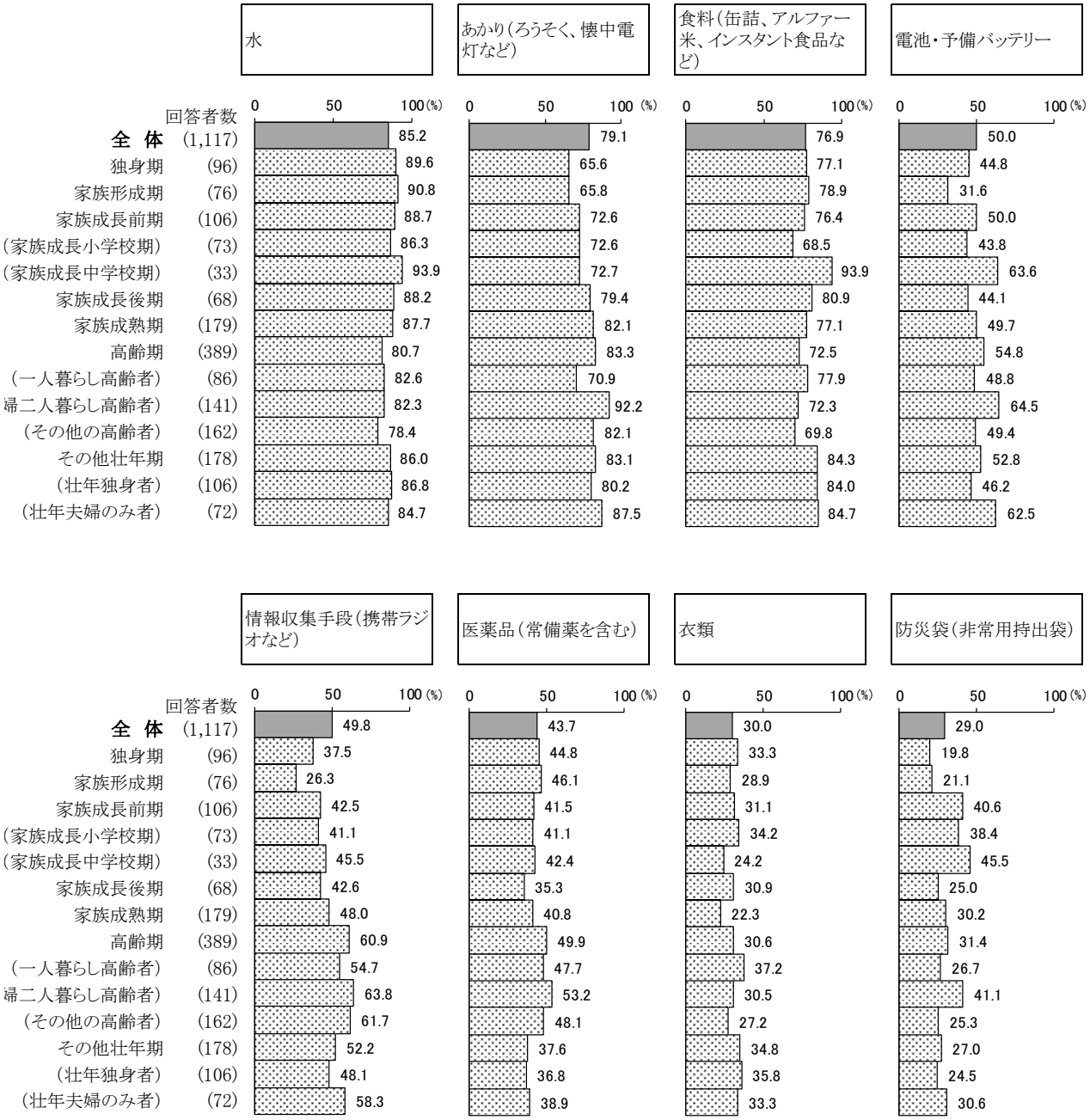
図２－２－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目





ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など)」は、全体に比べて大きな違いはみられない。一方、「あかり（ろうそく、懐中電灯など)」は独身期（65.6%）と家族形成期（65.8%）で低くなっている。

図２－２－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目



（３）備蓄量

■ 備蓄ありの人の中で、３日分以上の備蓄ありは、〈水〉で４割強、〈食料〉で３割台半ば

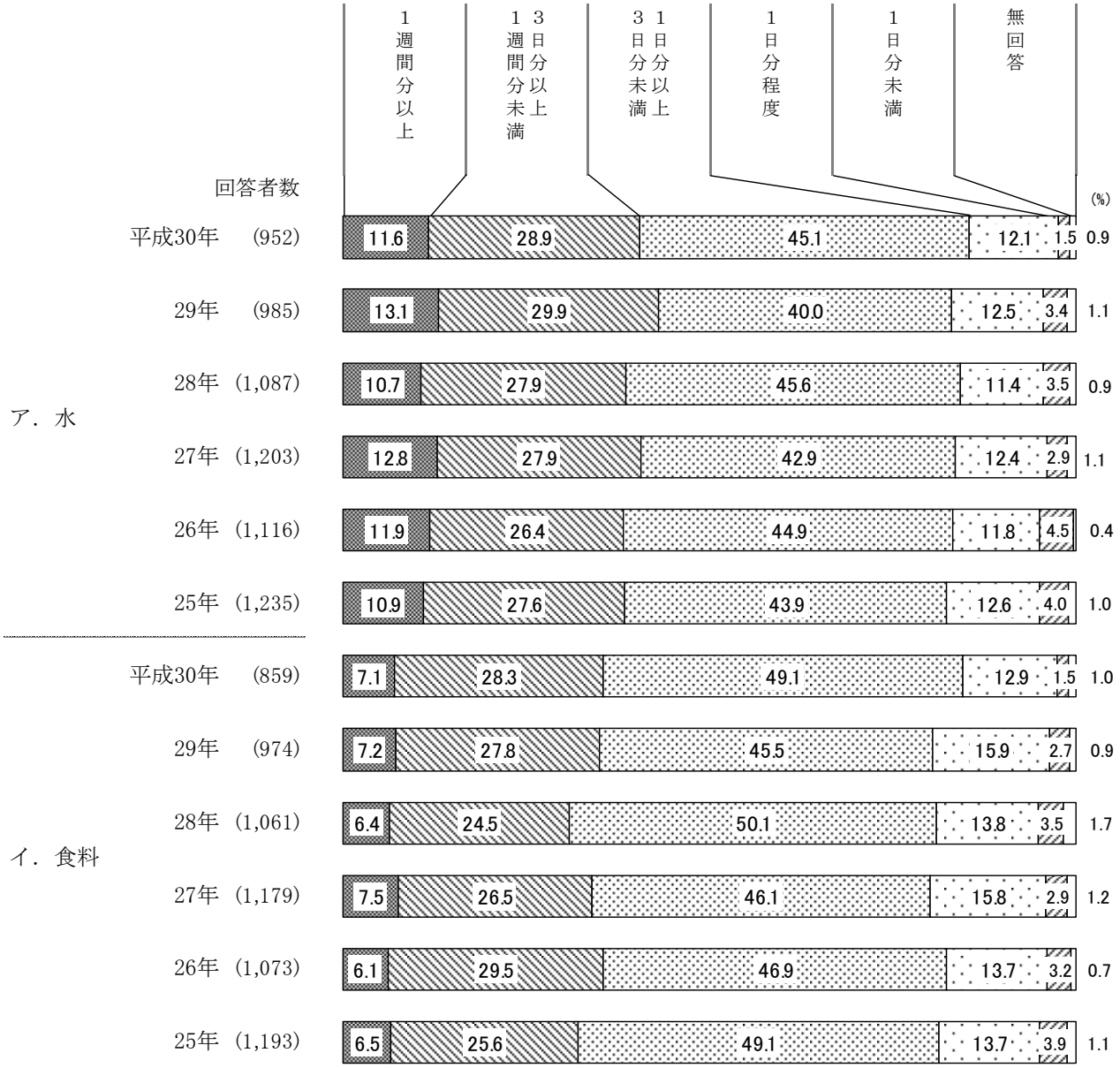
問５－１で「１．水」、または「２．食料」とお答えの方に

問５－１－１　あなたのご家庭では、備蓄の量はどれくらいありますか。「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です。

（○はそれぞれ１つずつ）

※ 水は大人１人１日３リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図２－３－１　経年比較／備蓄量



「水」か「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など)」を備蓄している人に、それぞれの備蓄量を聴いたところ、〈水〉については「１日分以上３日分未満」が45.1％で最も多く、次いで「３日分以上１週間分未満」(28.9％）となっている。

一方、〈食料〉については「１日分以上３日分未満」が49.1％で最も多く、次いで「３日分以上１週間分未満」(28.3％）となっている。

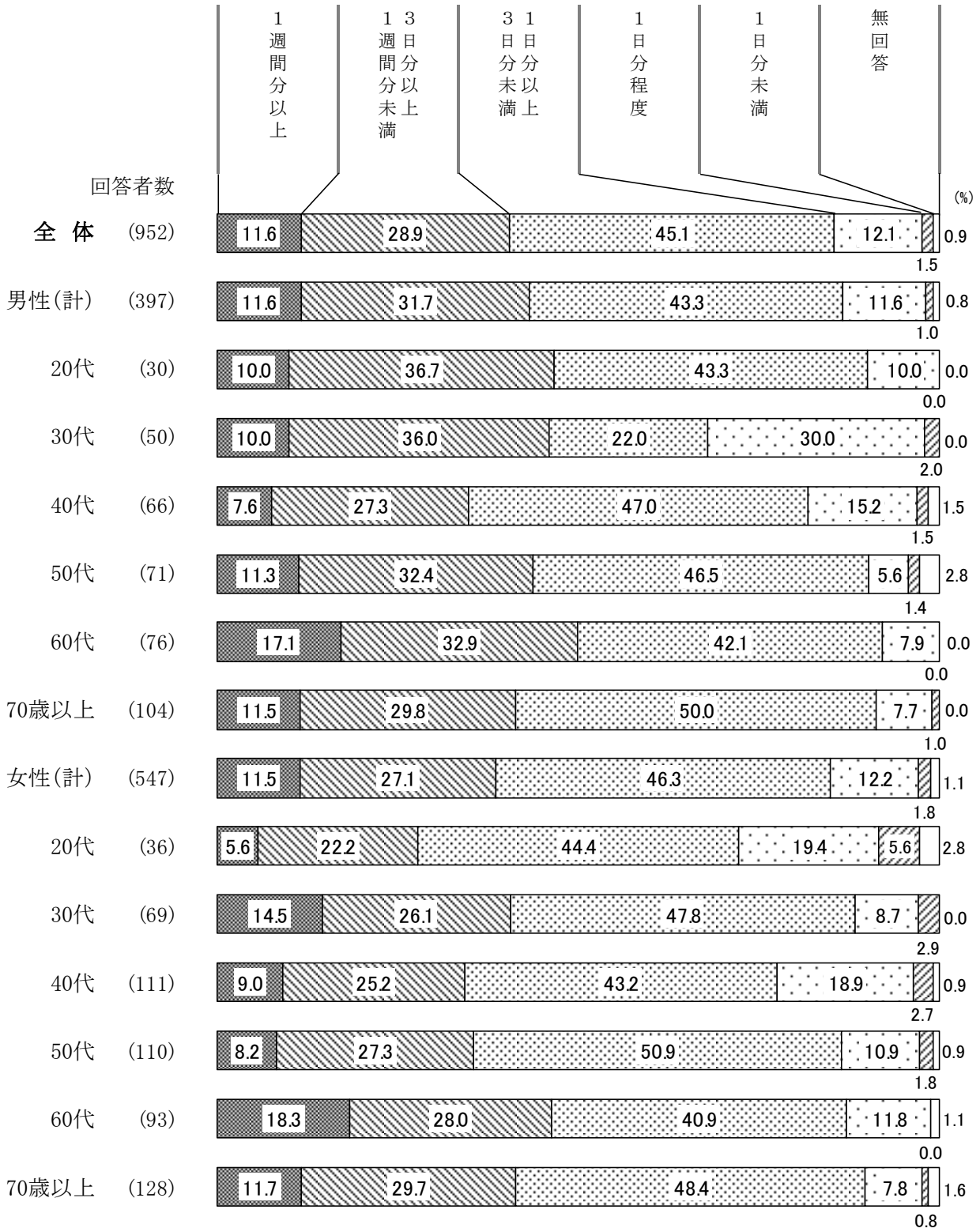
経年でみると、〈食料〉〈水〉とも前回に比べて「１日分以上３日分未満」が増加している。一方、「１週間分以上」と「３日分以上１週間分未満」を合わせた３日分以上の備蓄を持つ人は、〈水〉では前回より2.5ポイント減少し、〈食料〉では横ばいとなっている。

水の備蓄量を性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代を除く各年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

女性では、全年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

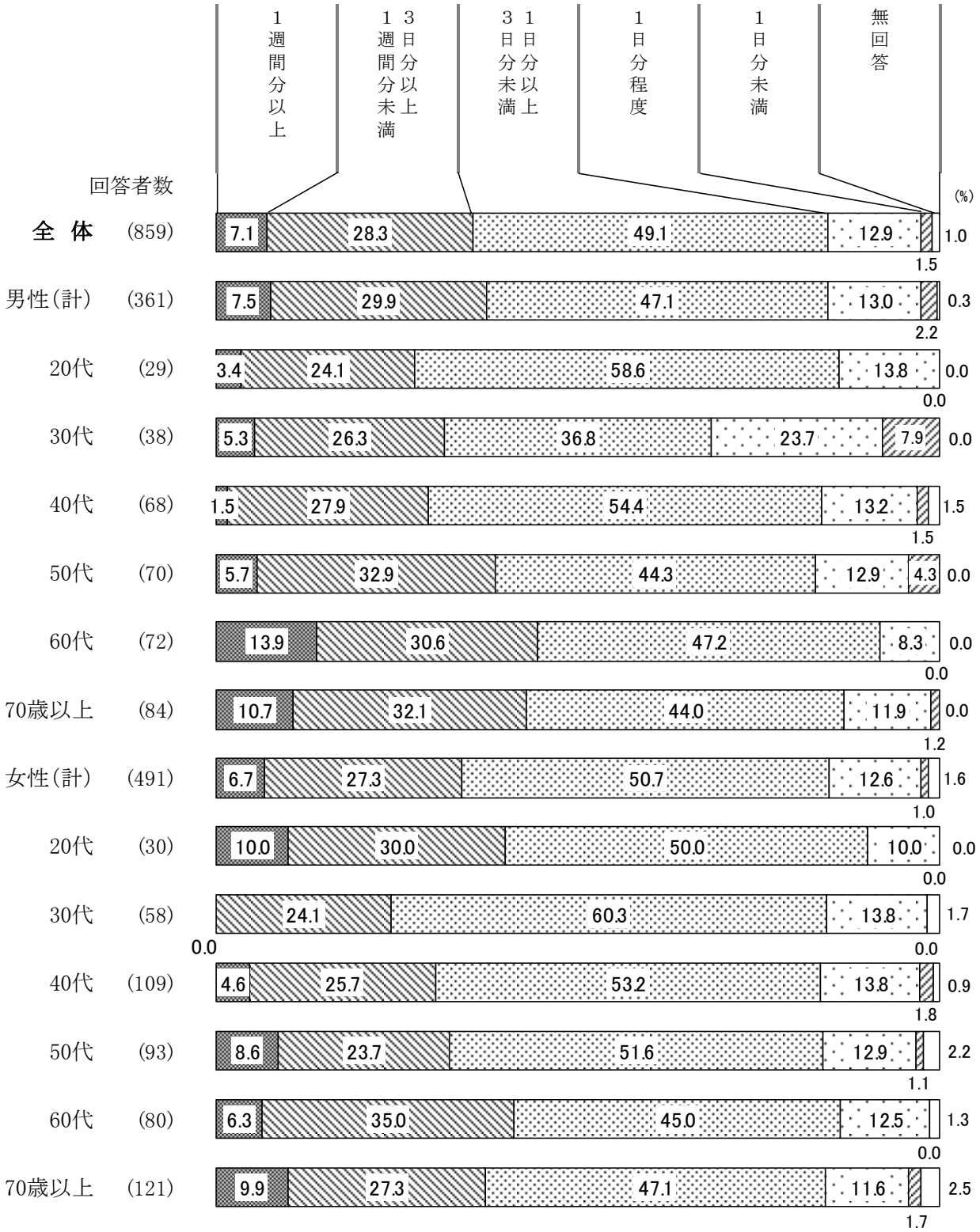
図２－３－２－①　性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

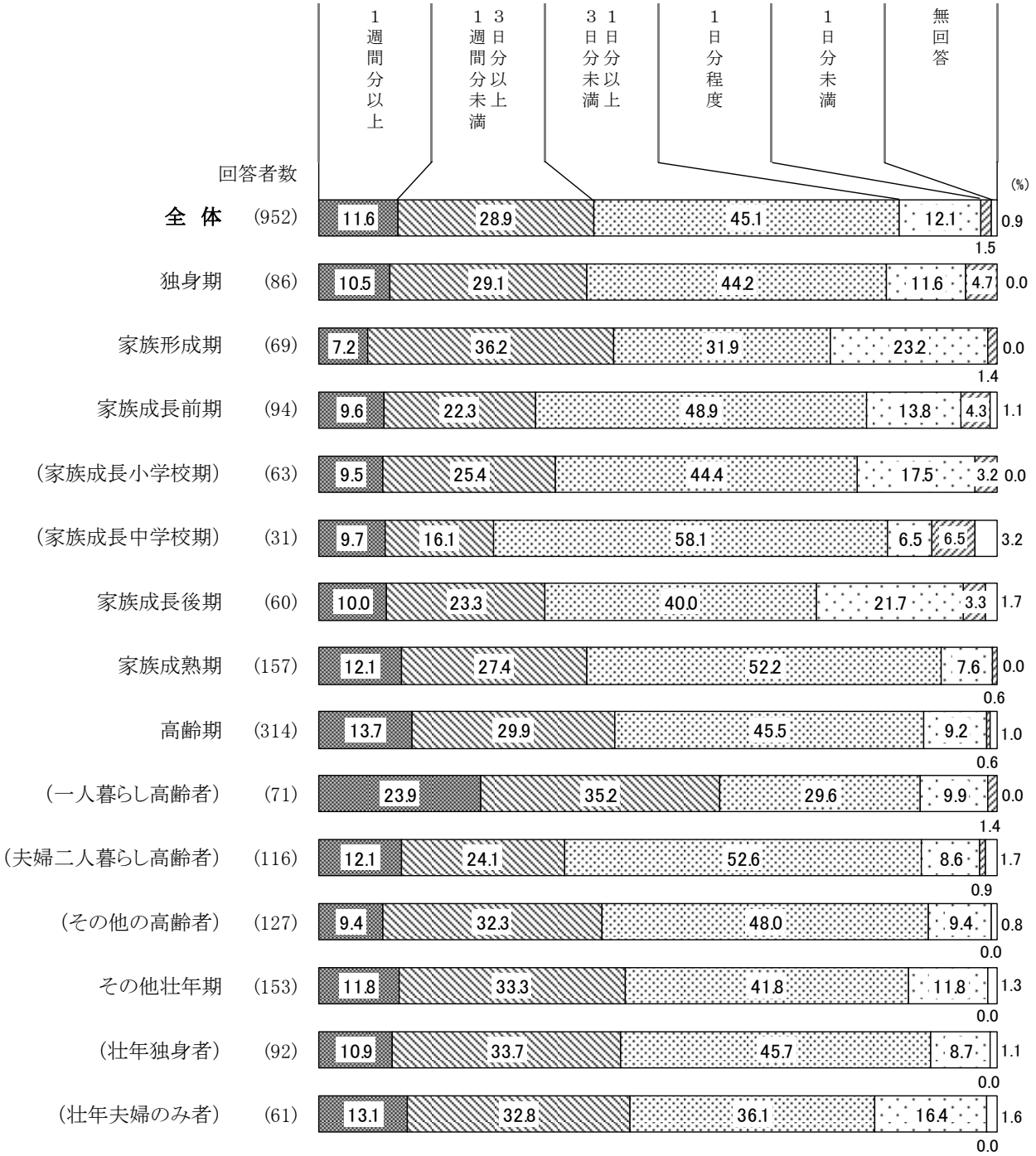
性・年代別でみると、男女とも、全年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－２－②　性別、性・年代別／備蓄量／食料



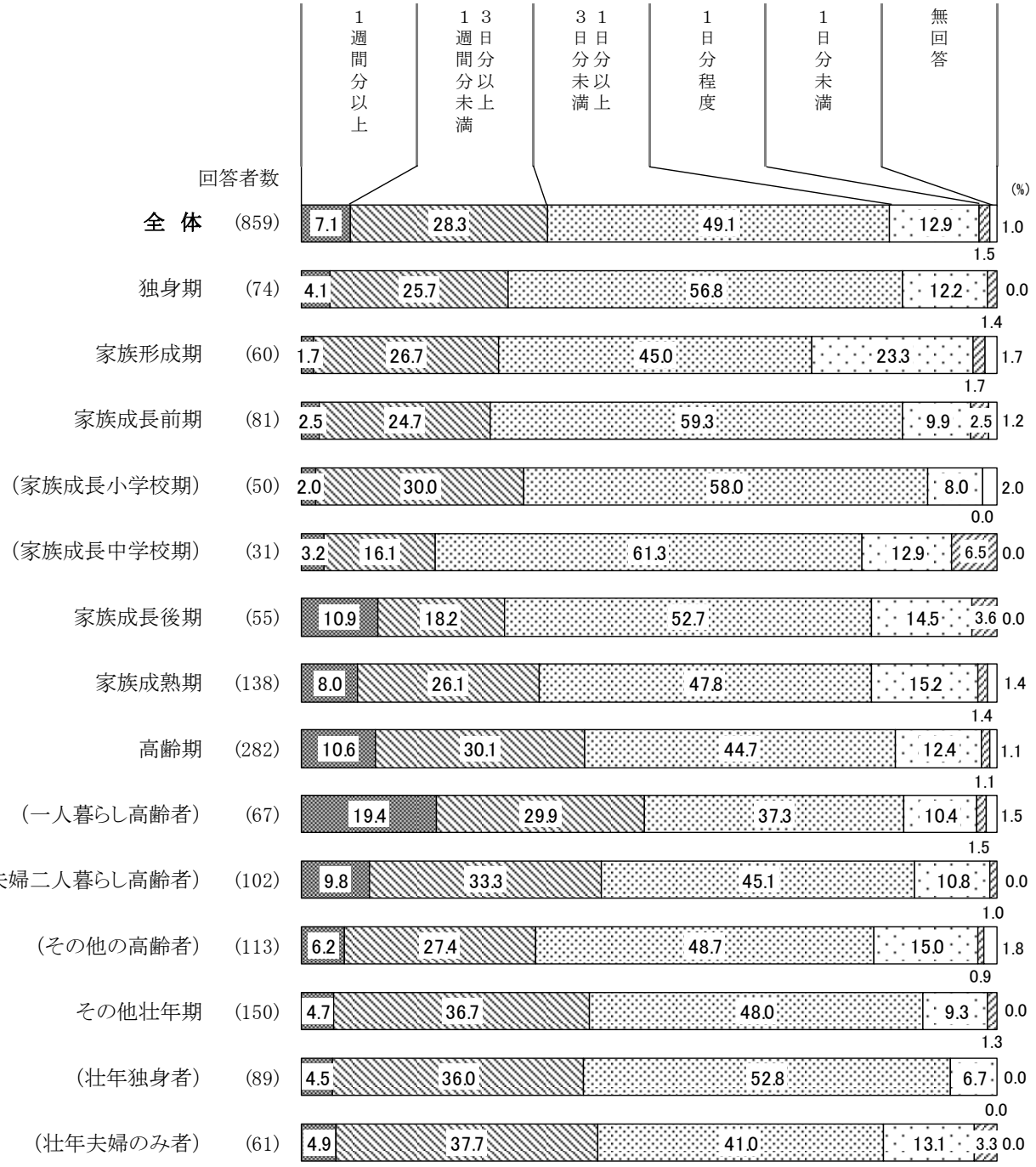
水の備蓄量をライフステージ別でみると、家族形成期を除く各ステージで「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－３－①　ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をライフステージ別にみると、全ステージで「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－３－②　ライフステージ別／備蓄量／食料

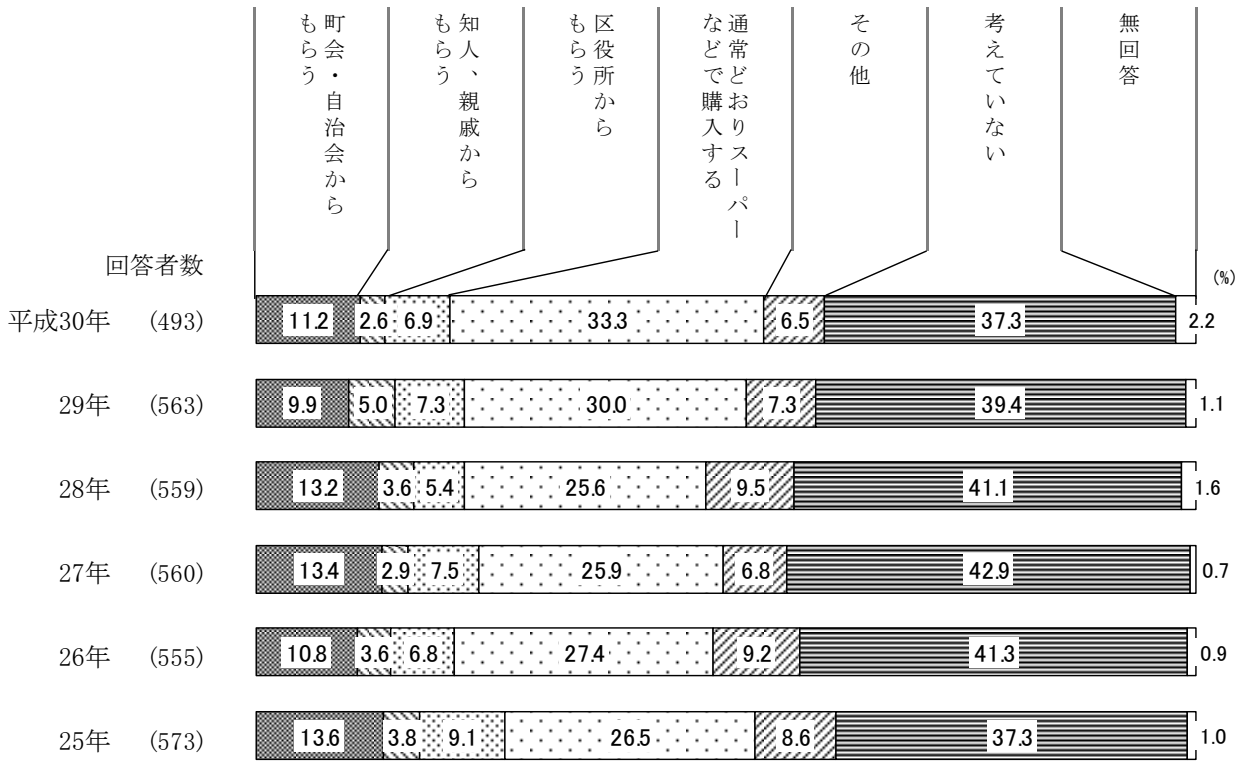


（４）災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が４割弱で最も多いが、近年「スーパーなどで購入」が増加傾向

問６は、問５で「３．特に用意していない」とお答えの方におうかがいいたします 問６　災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。 （○は１つだけ）

図２－４－１　経年比較／災害発生時の水や食料の確保



【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聴いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が33.3%と３割を超え、次いで「町会・自治会からもらう」（11.2%）が１割強となっている。一方、「考えていない」が37.3%で４割弱を占めている。

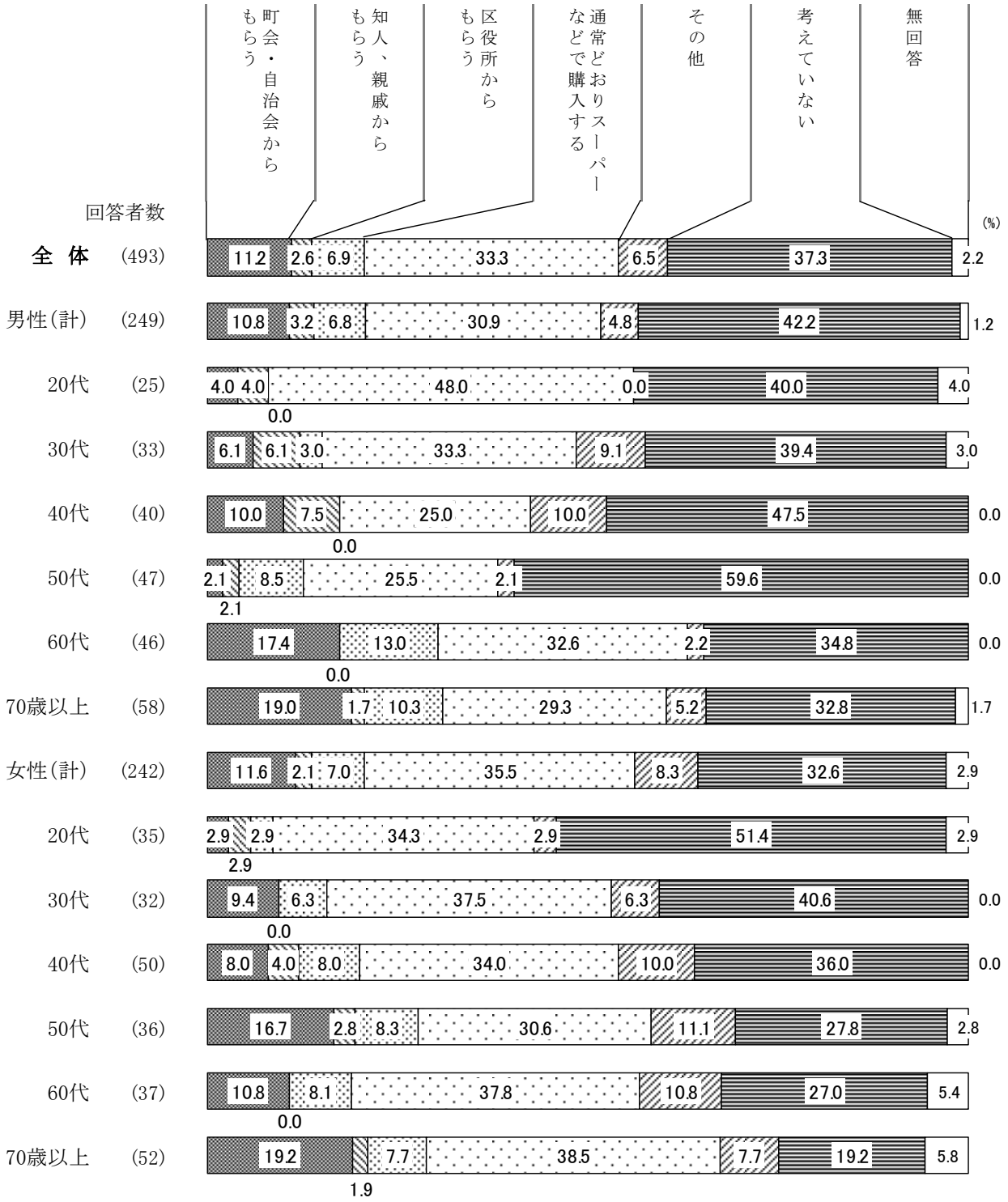
経年でみると、２年続けて「通常どおりスーパーなどで購入する」が増加傾向にある。

性別でみると、男性では「考えていない」が42.2％と、女性（32.6％）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20代で「通常どおりスーパーなどで購入する」（48.0％）が５割弱と高く、40代と50代で「考えていない」がそれぞれ47.5％、59.6％と高い。

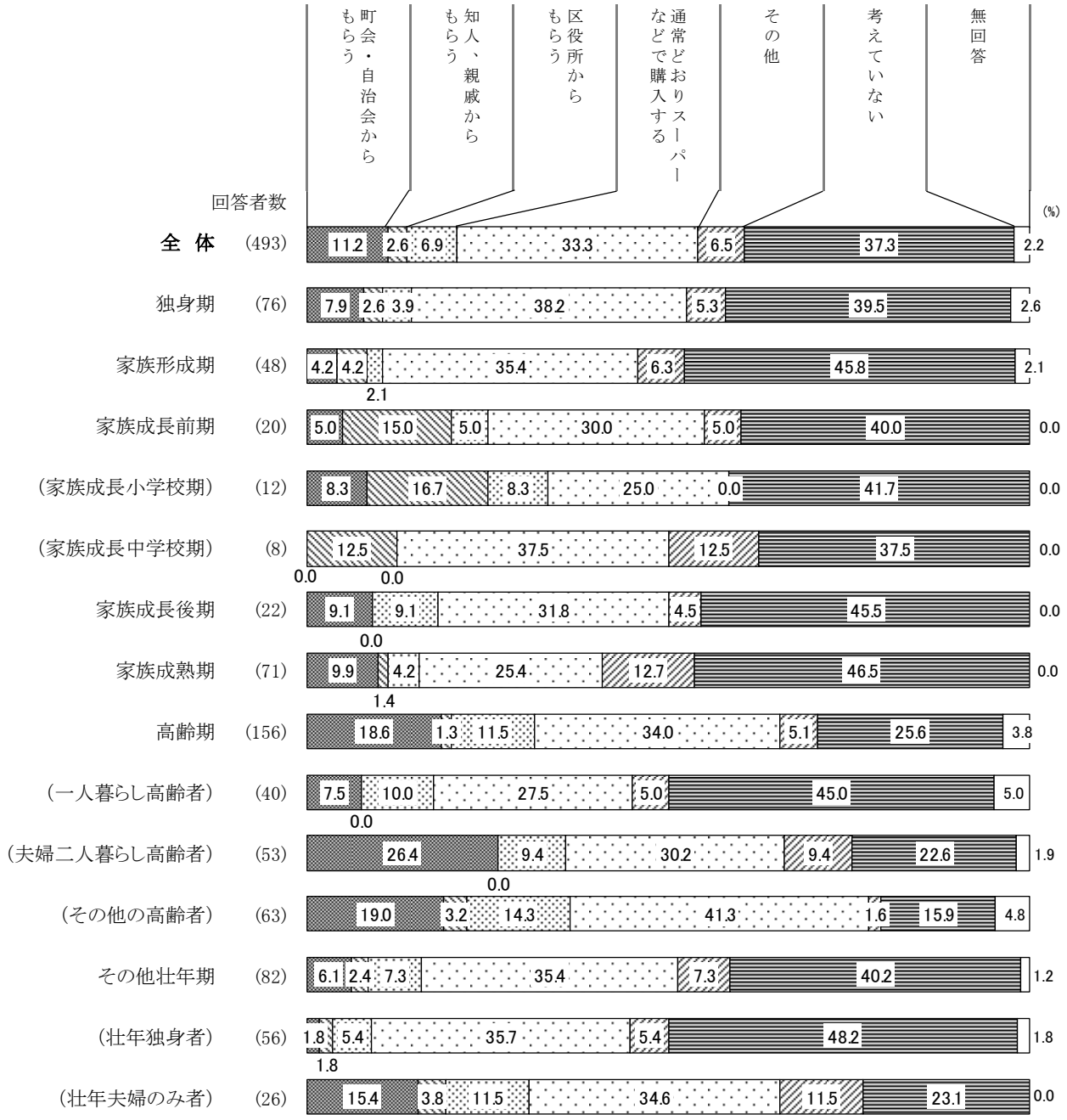
女性の場合、20代で「考えていない」が51.4％と高くなっている。

図２－４－２　性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別でみると、家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で「考えていない」がいずれも４割台後半と高くなっている。また、高齢期では「町会・自治会からもらう」が18.6％と高くなっている。

図２－４－３　ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

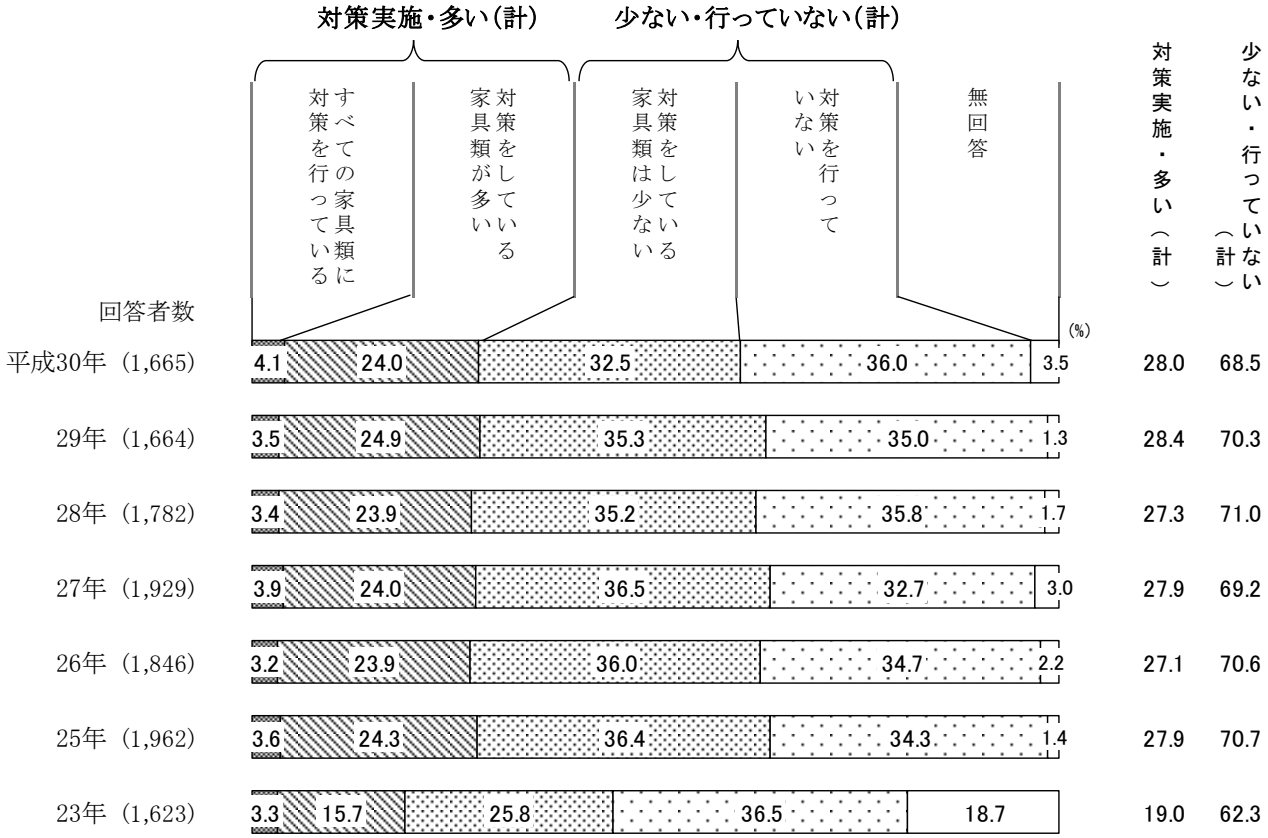


（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない人が７割弱

> 問７　あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は１つだけ）。
> ※　家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図２－５－１　経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は4.1％で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.0％を合わせた【対策実施・多い】は28.0％となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は32.5％、「対策を行っていない」は36.0％で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は68.5％となっている。

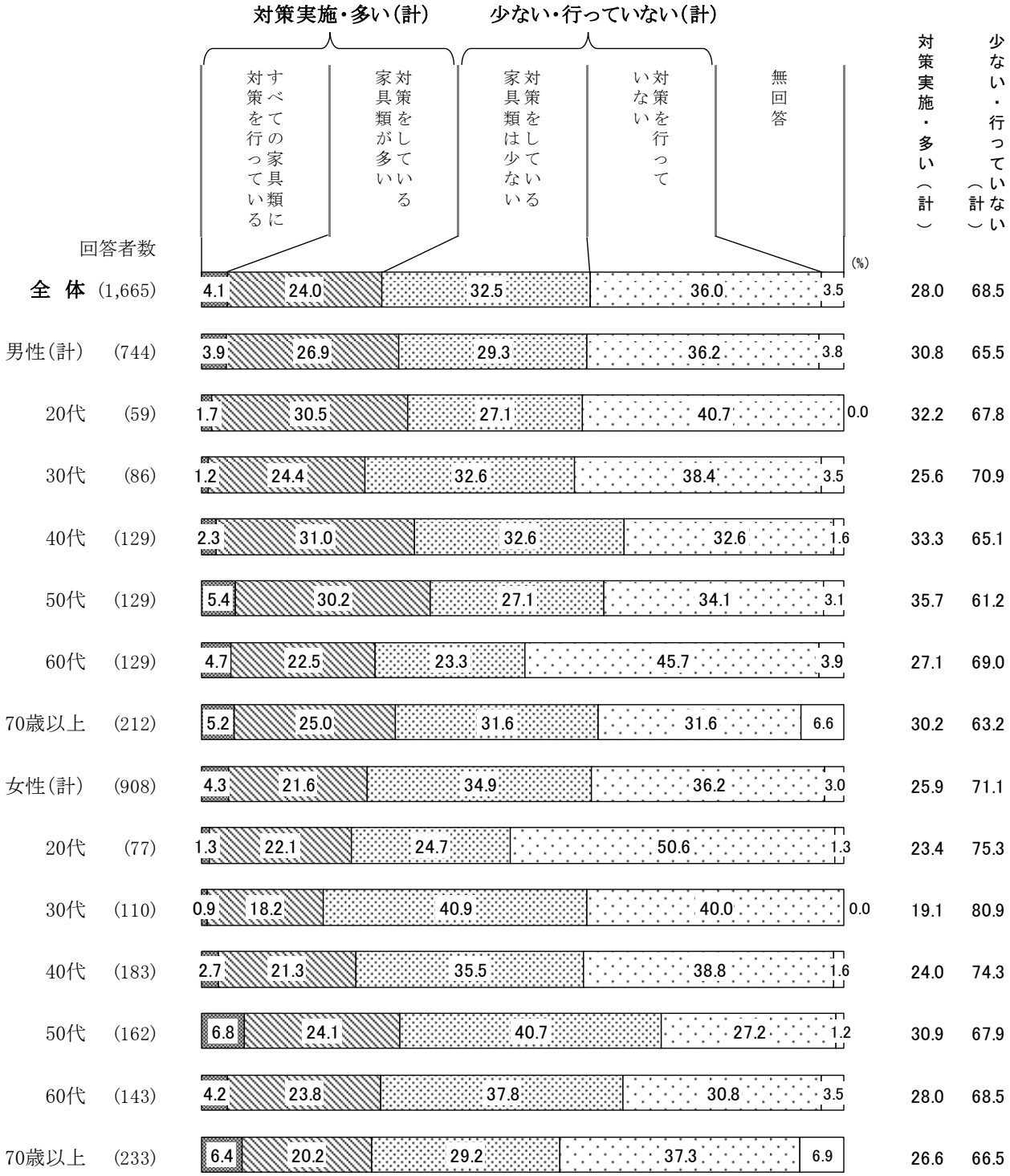
経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】は、平成25年以降ほぼ横ばいであったが、今回の調査では前回に比べて僅かに減少している。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、20代、40代、50代、70歳以上で【対策実施・多い】が３割台となっている。

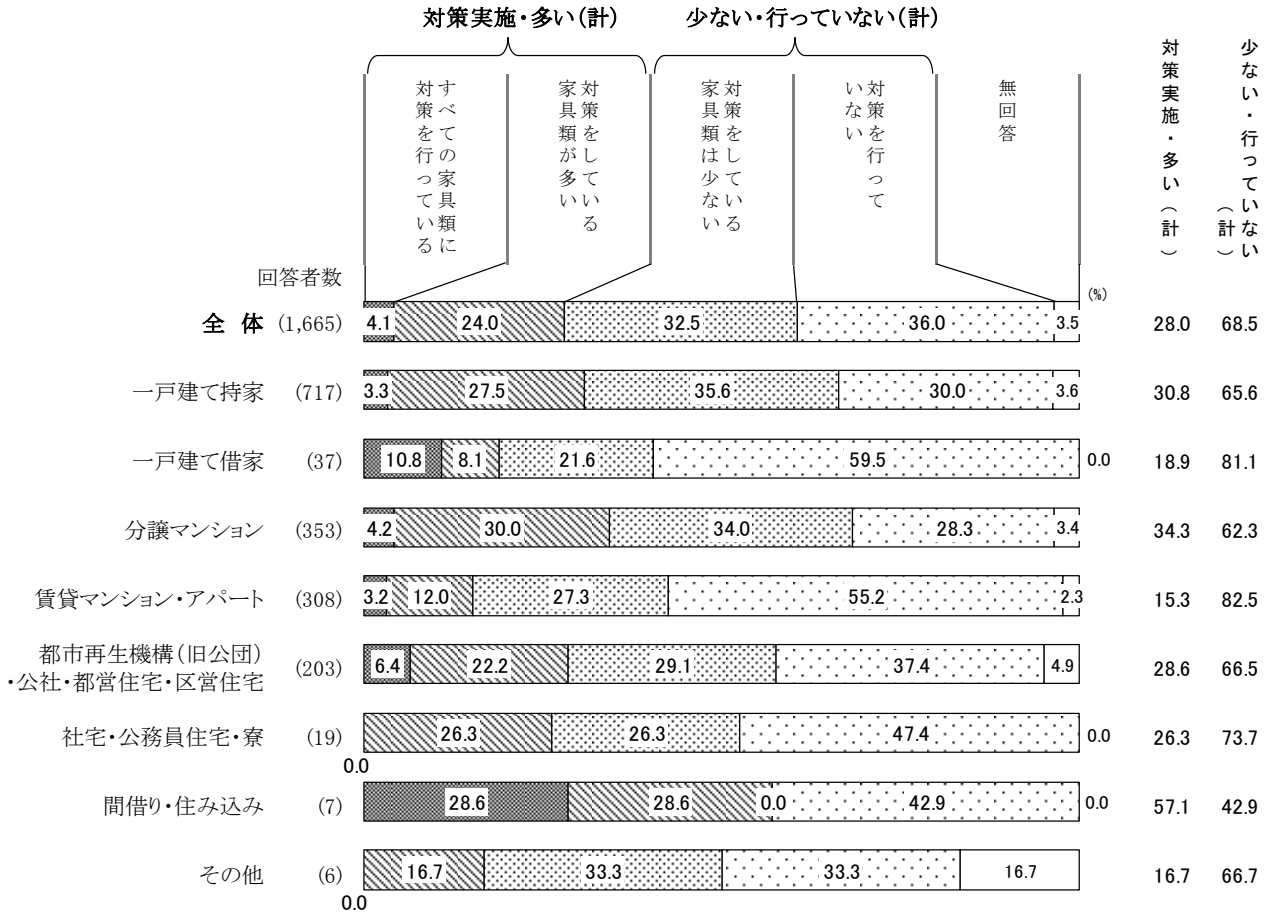
女性では、30代で【少ない・行っていない】が８割を超えて高くなっている。

図２－５－２　性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別でみると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が34.3％と高くなっている。一方、一戸建て借家と賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】がそれぞれ81.1％、82.5％と高くなっている。

図２－５－３　住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

（６）対策をしていない理由

■ 「面倒である」が３割弱で最も高いのは変わらず

問７で「３．対策をしている家具類は少ない」、または「４．対策を行っていない」とお答えの方に 問７―１　どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。

図２－６－１－①　経年比較／対策をしていない理由

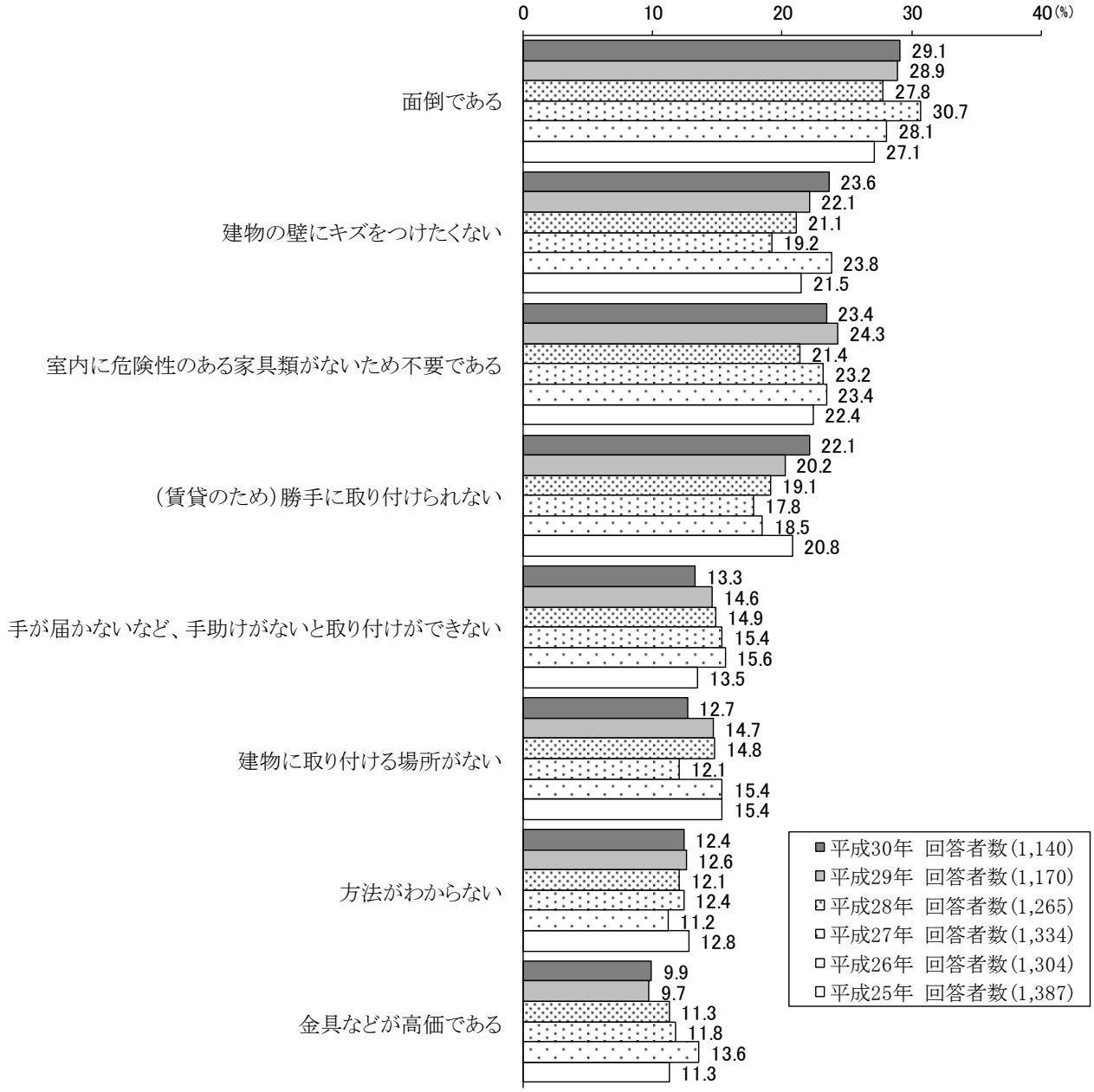
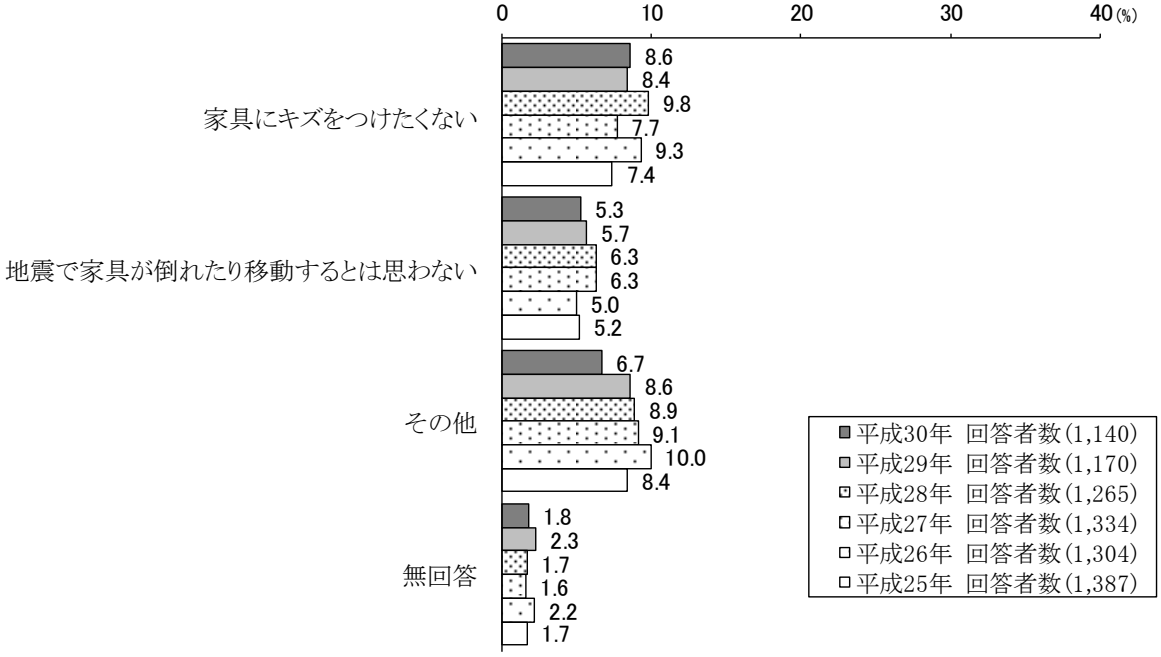


図２－６－１－②　経年比較／対策をしていない理由

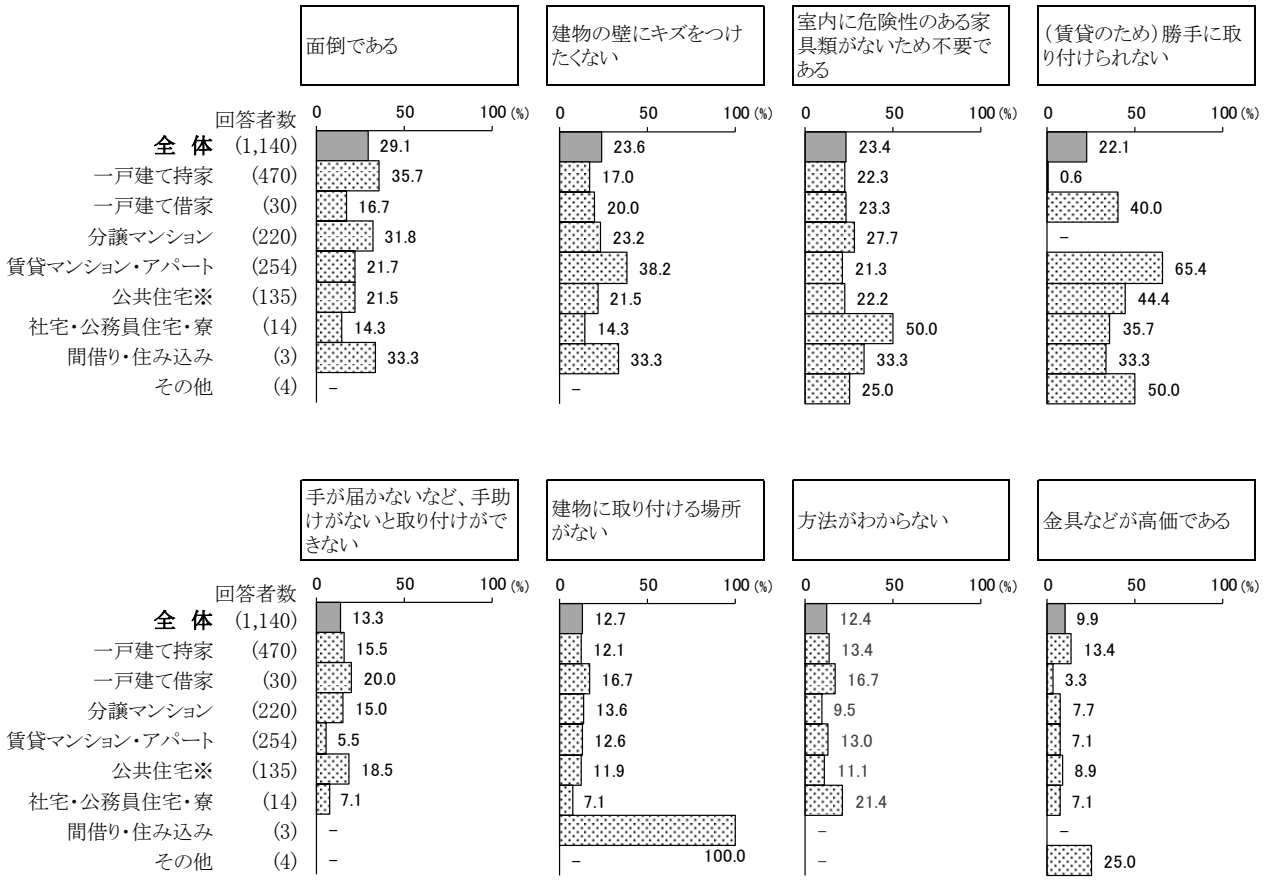


家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聴いたところ、「面倒である」が29.1%で最も高く、以下「建物の壁にキズをつけたくない」（23.6%）、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（23.4%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（22.1%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の数値に大きな変動はみられない。

住居形態別でみると、一戸建て持家で「面倒である」が35.7％と高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「建物の壁にキズをつけたくない」（38.2％）と「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（65.4％）が高くなっている。なお、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」は一戸建て借家（40.0％）と公共住宅※（44.4％）でも高くなっている。

図２－６－２　住居形態別／対策をしていない理由／上位８項目



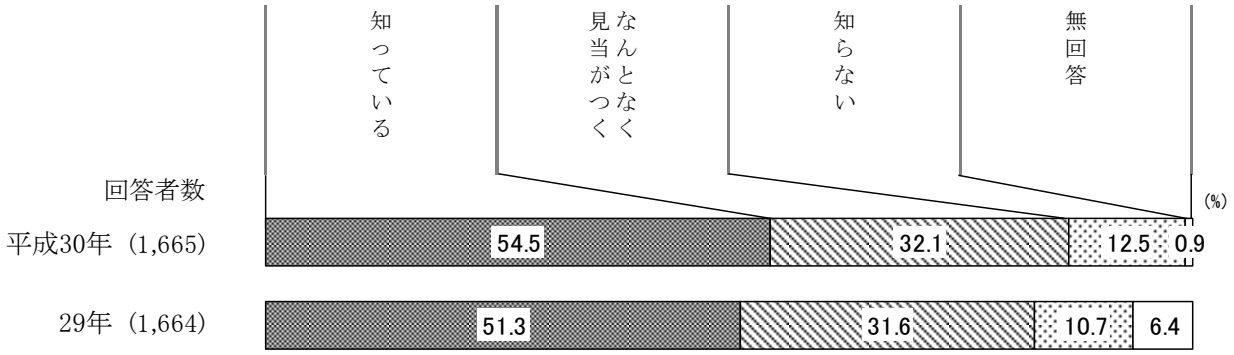
※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

（７）地域の避難場所の認知

■ 「知っている」が５割台半ば

問８　大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は１つだけ）。

図２－７－１　前回調査比較／地域の避難場所の認知

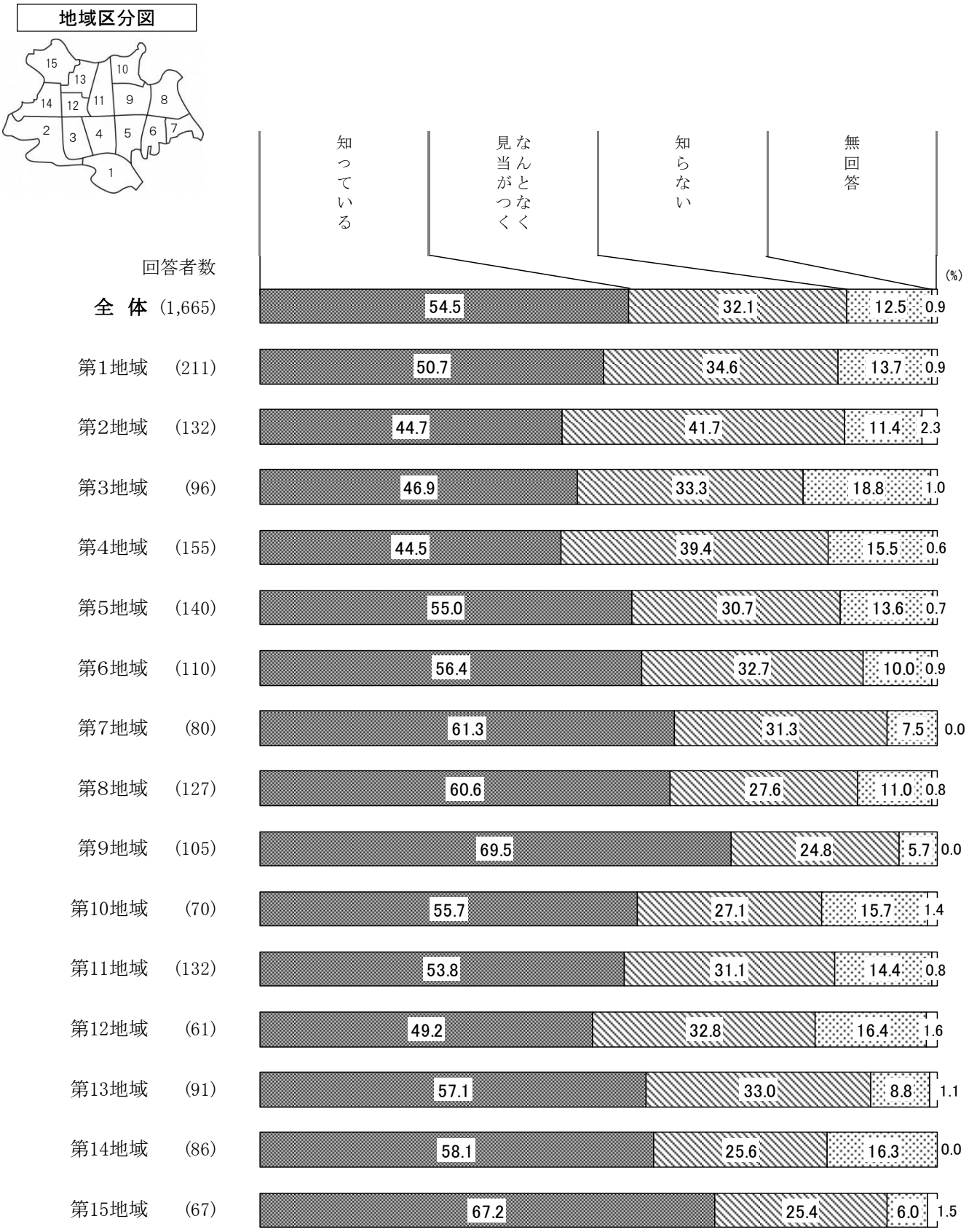


地域の避難場所の認知状況をみると、「知っている」が54.5%、「なんとなく見当がつく」が32.1%となっている。一方、「知らない」は12.5%となっている。

経年でみると、前回に比べて「知っている」が3.2ポイント増加している。

地域別でみると、「知っている」は第７地域、第８地域、第９地域、第15地域で６割を超えて、他の地域より高くなっている。

図２－７－２　地域別／地域の避難場所の認知



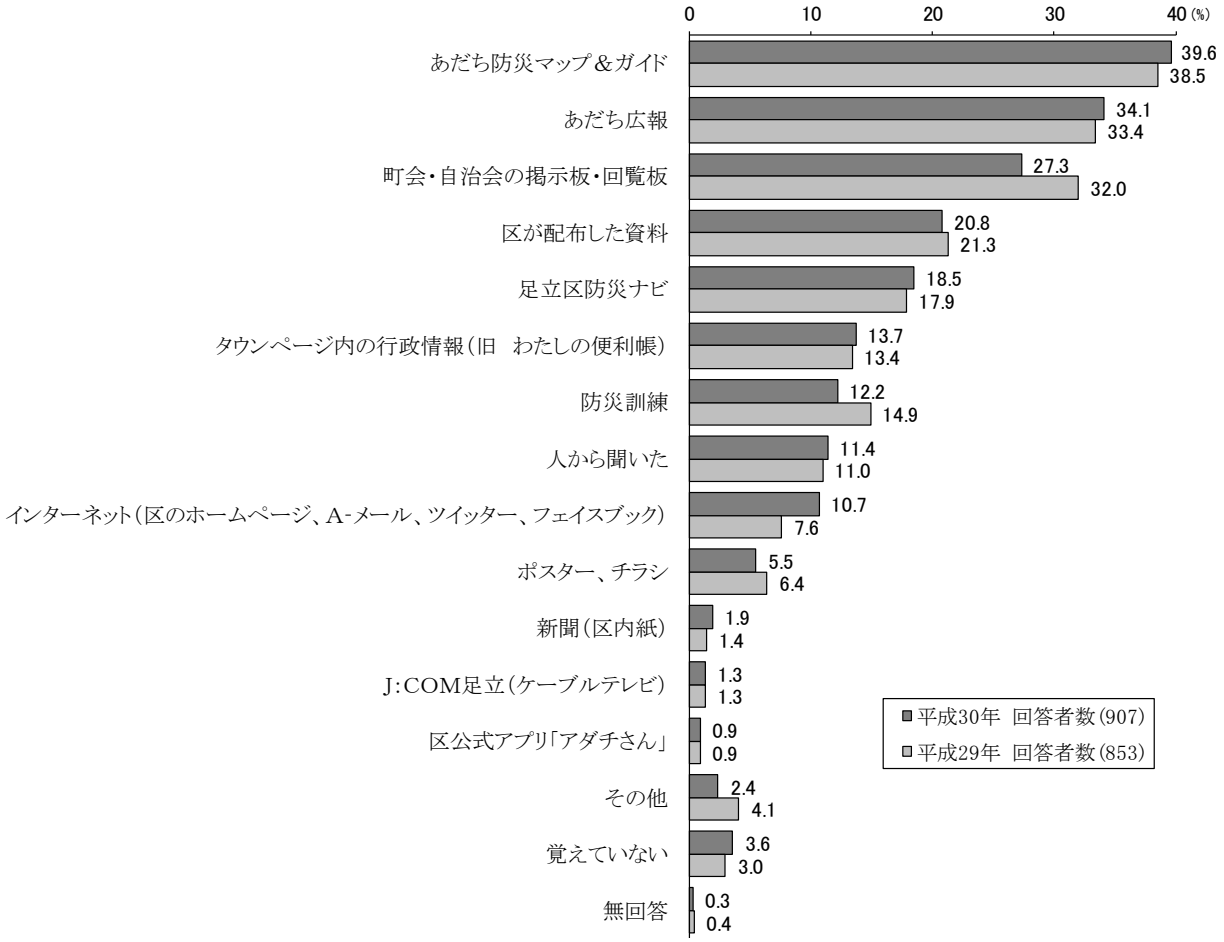
（８）避難場所の認知経路

■ “防災マップ＆ガイド”と“広報”がともに３割台半ば以上で上位

（問８で「１．知っている」とお答えの方に）

問８－１　避難場所をどのように知りましたか（○はあてはまるものすべて）。

図２－８－１　前回調査比較／避難場所の認知経路



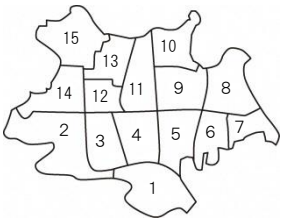
地域の避難場所を認知している人について、その認知経路をみると、「あだち防災マップ＆ガイド」が39.6％で最も高く、以下「あだち広報」（34.1％）、「町会・自治会掲示板・回覧板」（27.3％）の順となっている。

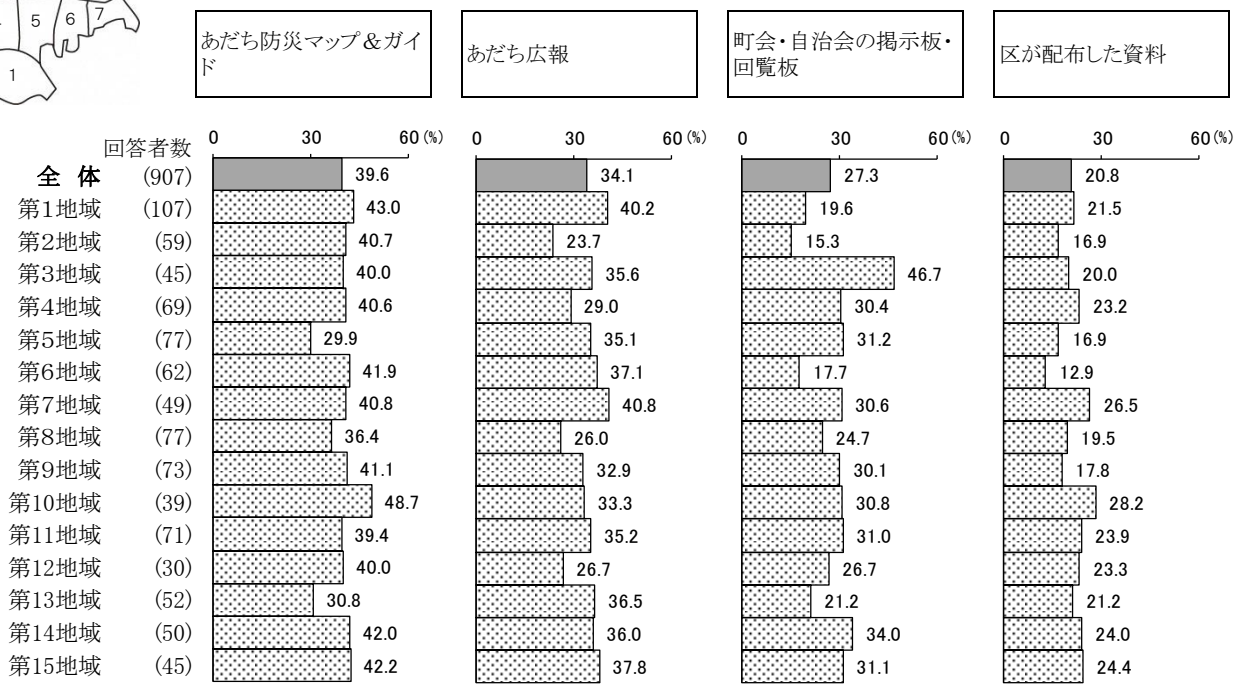
経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないが、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は今回27.3％と前回の32.0％から4.7ポイント減少している。

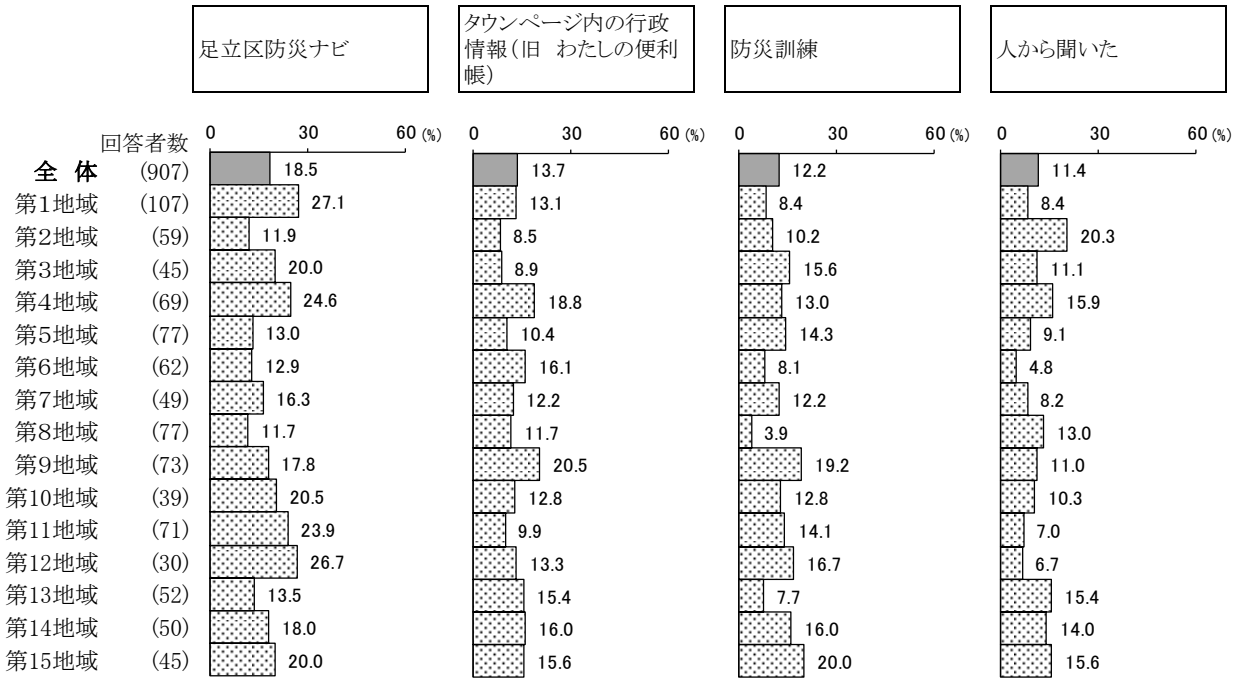
地域別でみると、第10地域では「あだち防災マップ＆ガイド」が48.7％と他の地域より高くなっている。また、第３地域では「町会・自治会掲示板・回覧板」が46.7％と上位２項目を上回って最も高くなっている。

図２－８－２　地域別／避難場所の認知経路／上位８項目

地域区分図





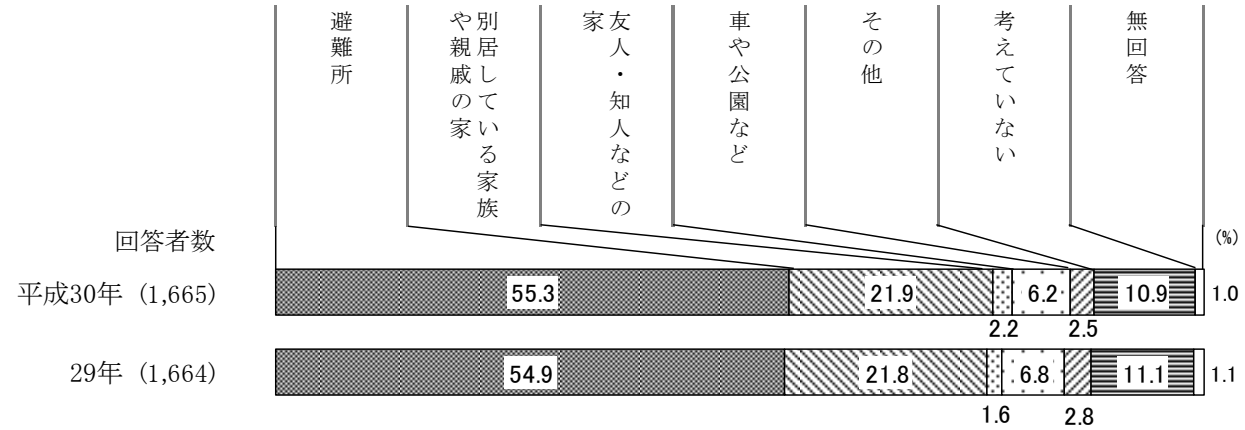


（９）大規模災害時の避難生活場所

■ 「避難所」が５割台半ばを占める

問９　大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は１つだけ）。

図２－９－１　前回調査比較／大規模災害時の避難生活場所

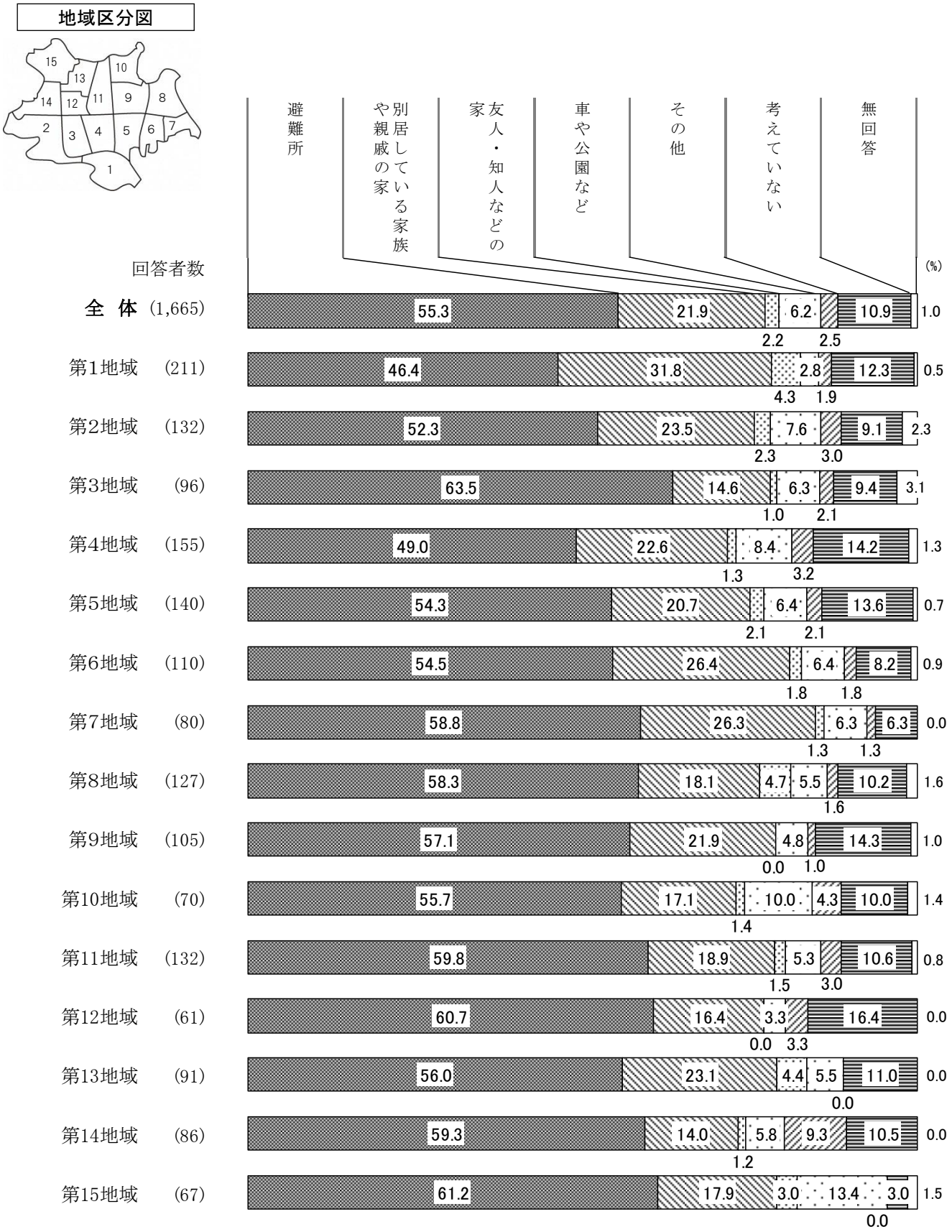


大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が55.3％で最も多く、次いで「別居している家族や親戚の家」が21.9％となっている。

経年でみると、前回とほぼ同じ分布でほとんど変化はみられない。

地域別でみると、第３地域、第12地域、第15地域で「避難所」がいずれも６割を超えて高くなっている。

図２－９－２　地域別／大規模災害時の避難生活場所



（10）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実”“ライフライン確保”“水・食料の備蓄充実”が６割前後で上位

問10　あなたが大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（○は５つまで）。
※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

図２－10－１－①　経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

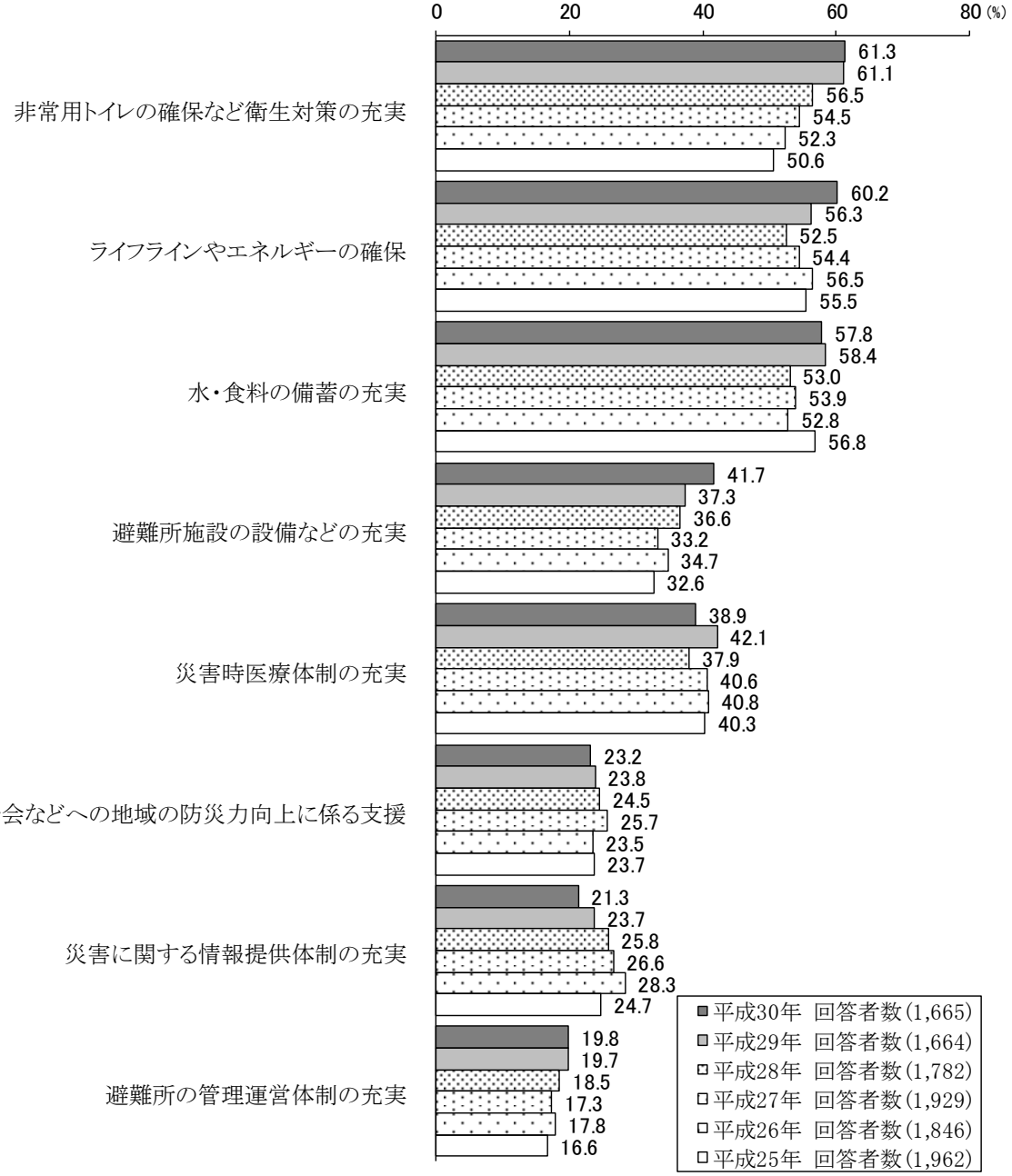


図２－10－１－②　経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

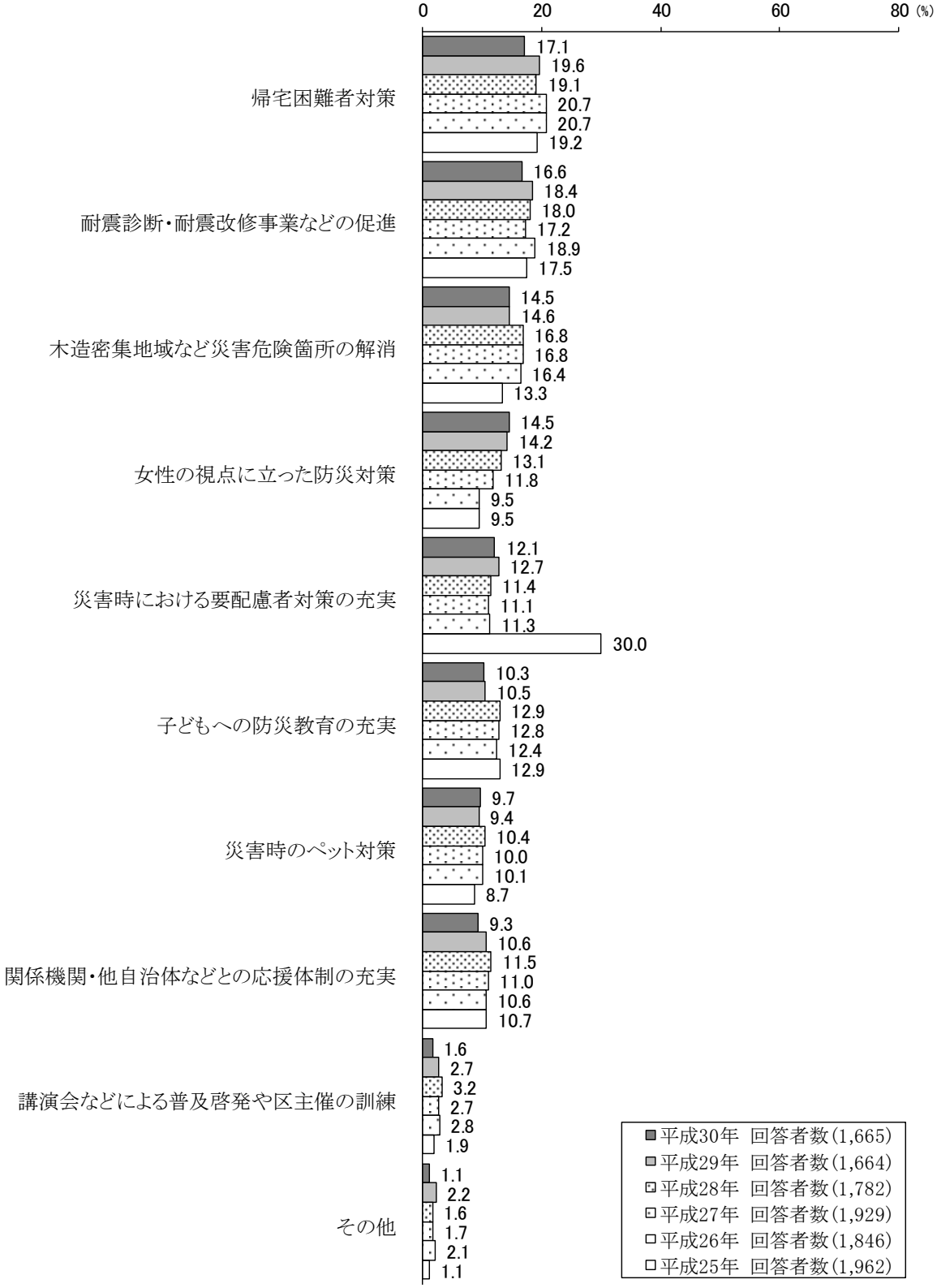
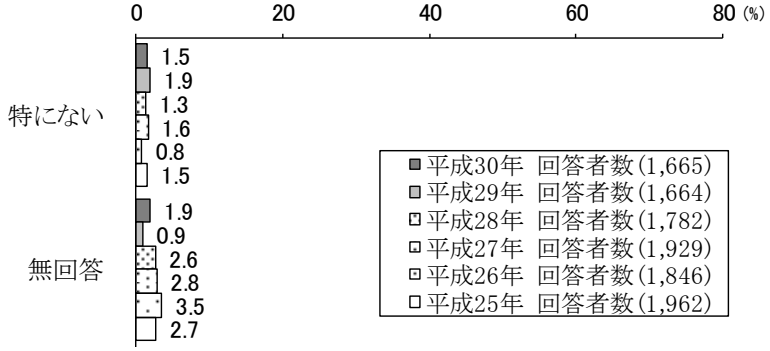


図２－10－１－③　経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。
※「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。
災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（61.3％）、「ライフラインやエネルギーの確保」（60.2％）、「水・食料の備蓄の充実」（57.8％）の３項目が６割前後に達して、とくに高くなっている。

経年でみると、上位３項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

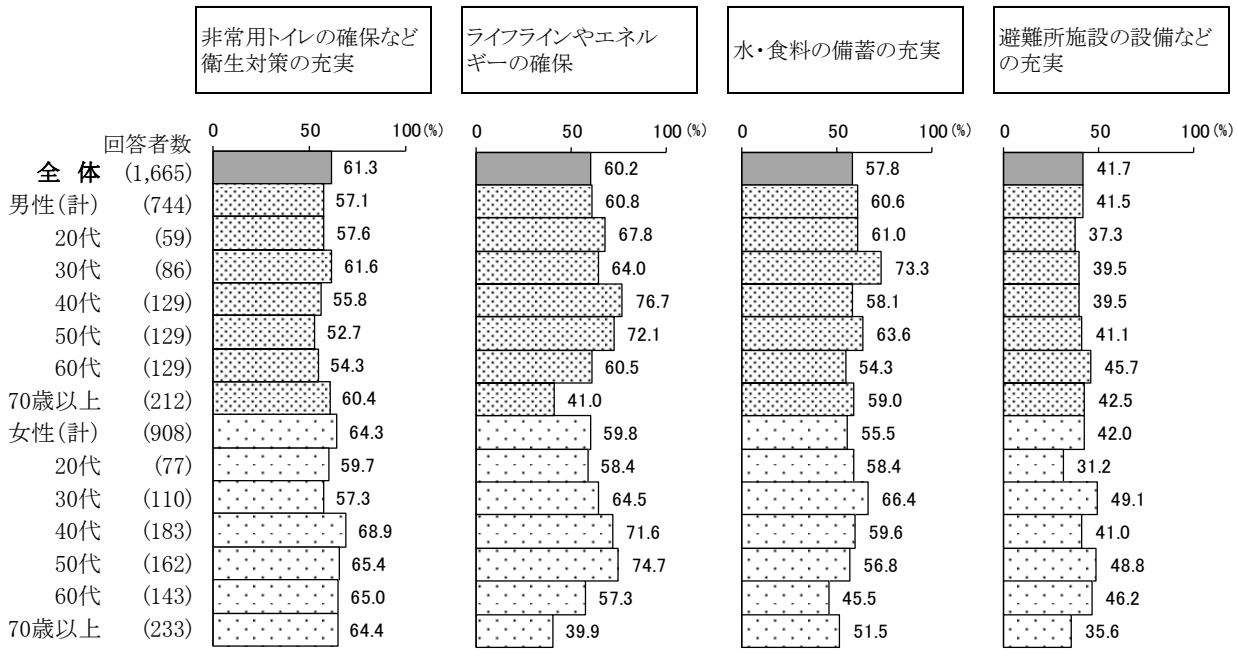
性別でみると、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が64.3％と、男性（57.1％）を上回っている。

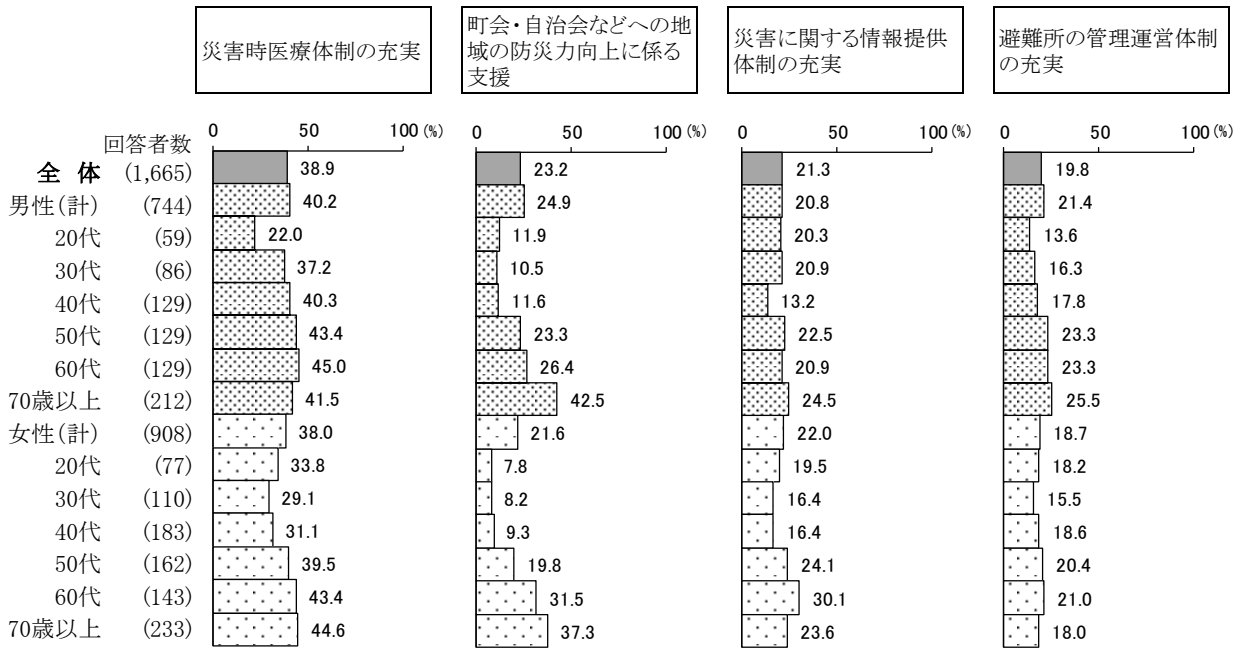
性・年代別でみると、男性では、「ライフラインやエネルギーの確保」が40代と50代で7割を超えて高い。また、「水・食料の備蓄の充実」は30代で７割を超えて高くなっている。

女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」が40代で７割弱と他の年代より高くなっており、「ライフラインやエネルギーの確保」は40代と50代で７割を超えて高くなっている。

図２－10－２　性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位８項目

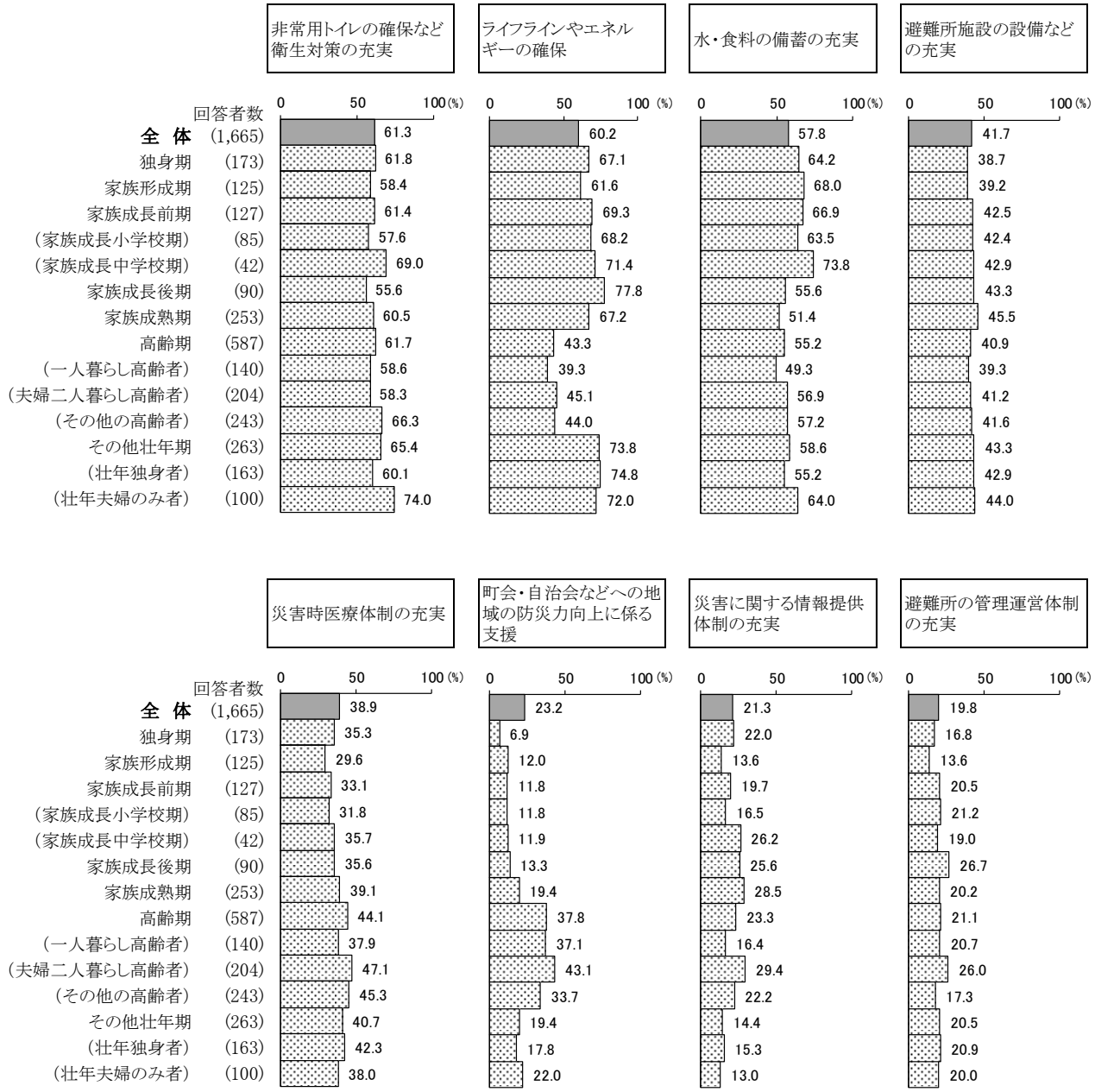




ライフステージ別でみると、家族成長後期で「ライフラインやエネルギーの確保」が８割弱と高くなっている。また、「水・食料の備蓄の充実」は家族形成期と家族成長前期で６割台後半と高くなっている。

図２－10－３　ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位８項目



３　洪水対策

（１）「足立区洪水ハザードマップ」の認知
（２）河川はん濫による浸水被害の際の対処
（３）荒川がはん濫した際の最初の避難先

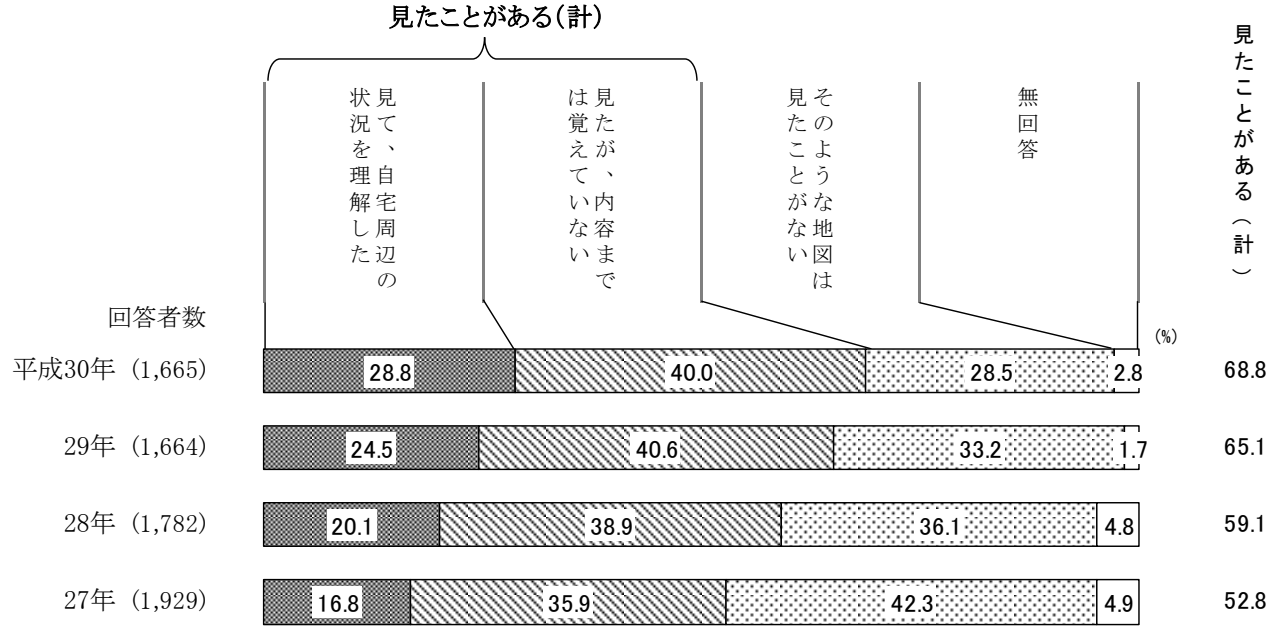
３．洪水対策

（１）「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は７割弱で、３年続けて確実に上昇

問11　あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は１つだけ）。

図３－１－１　経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



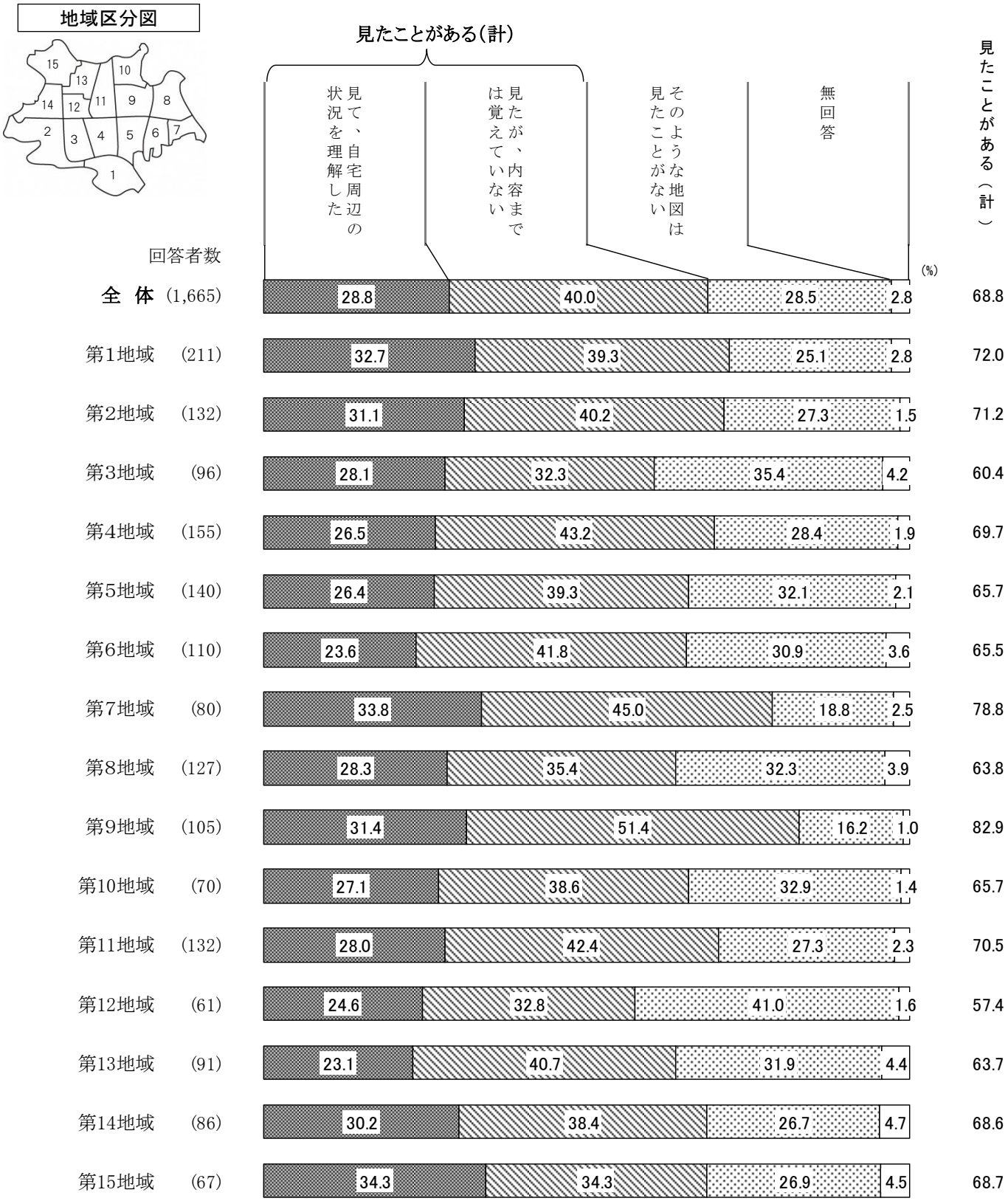
※「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

『足立区洪水ハザードマップ』で「見て、自宅周辺の状況を理解した」が28.8％で、これに「見たが、内容までは覚えていない」（40.0％）を合わせた【見たことがある】は68.8％と７割弱を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は28.5％となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成27年の52.8％から年々増加しており、今回68.8％となっている。

地域別でみると、【見たことがある】は第９地域で82.9％と最も高く、これに第７地域が78.8％で次いでいる。

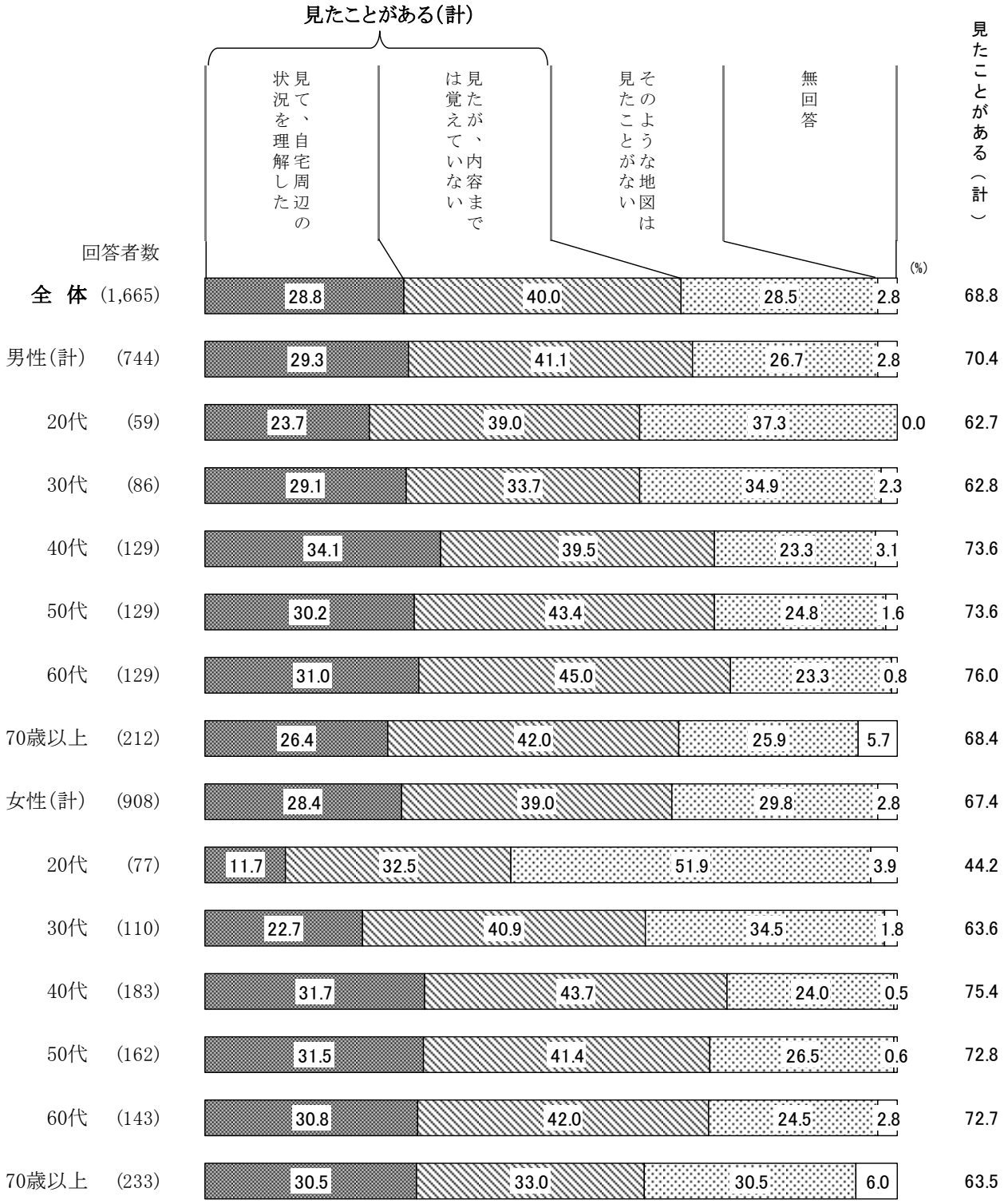
図３－１－２　地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、【見たことがある】について大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性、女性ともに、40代から60代で【見たことがある】が７割を超えている。

図３－１－３　性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



（２）河川はん濫による浸水被害の際の対処

■　〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が８割弱

問12　河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。
（○はそれぞれ１つずつ）

図３－２－１－①　経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

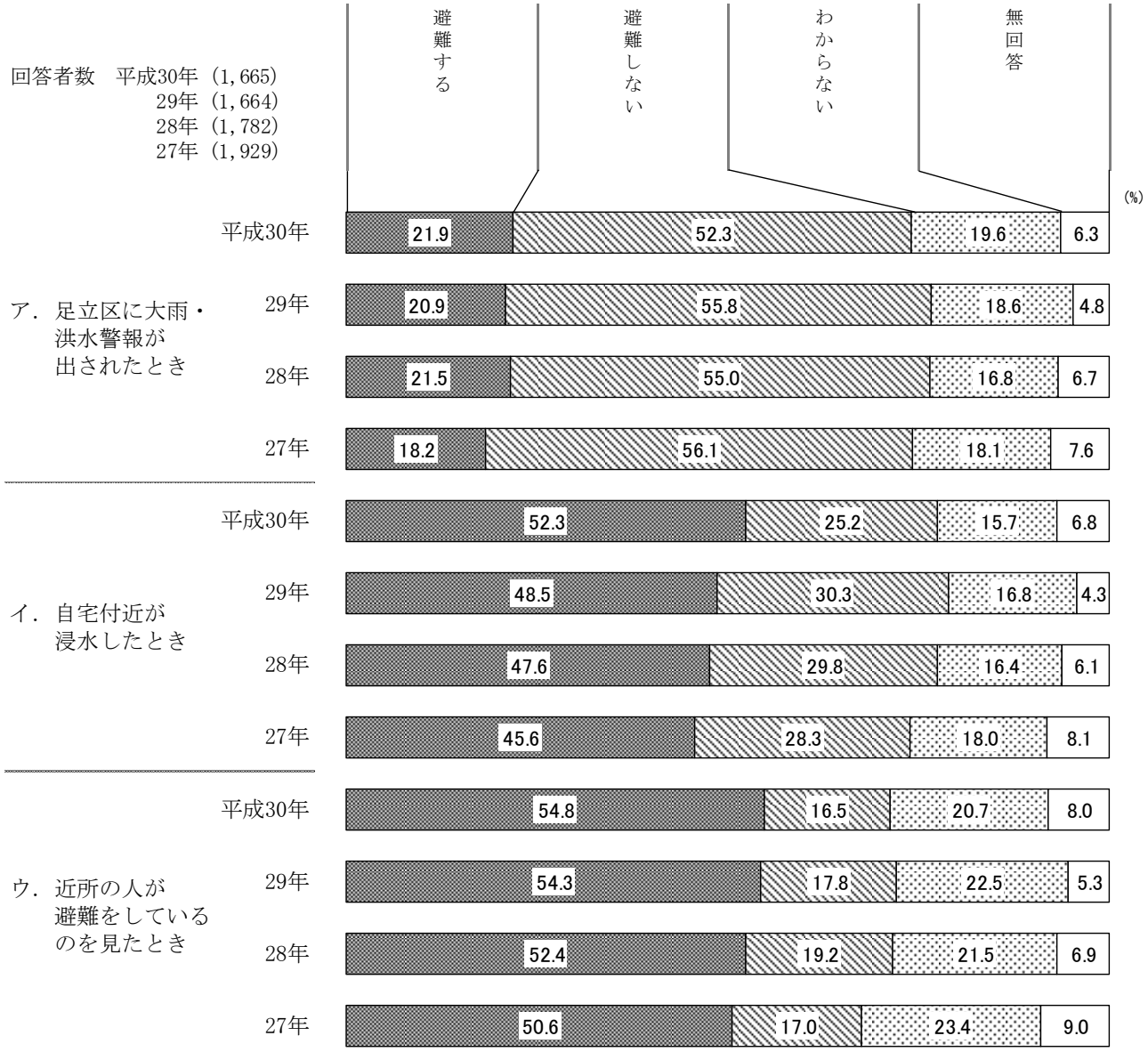
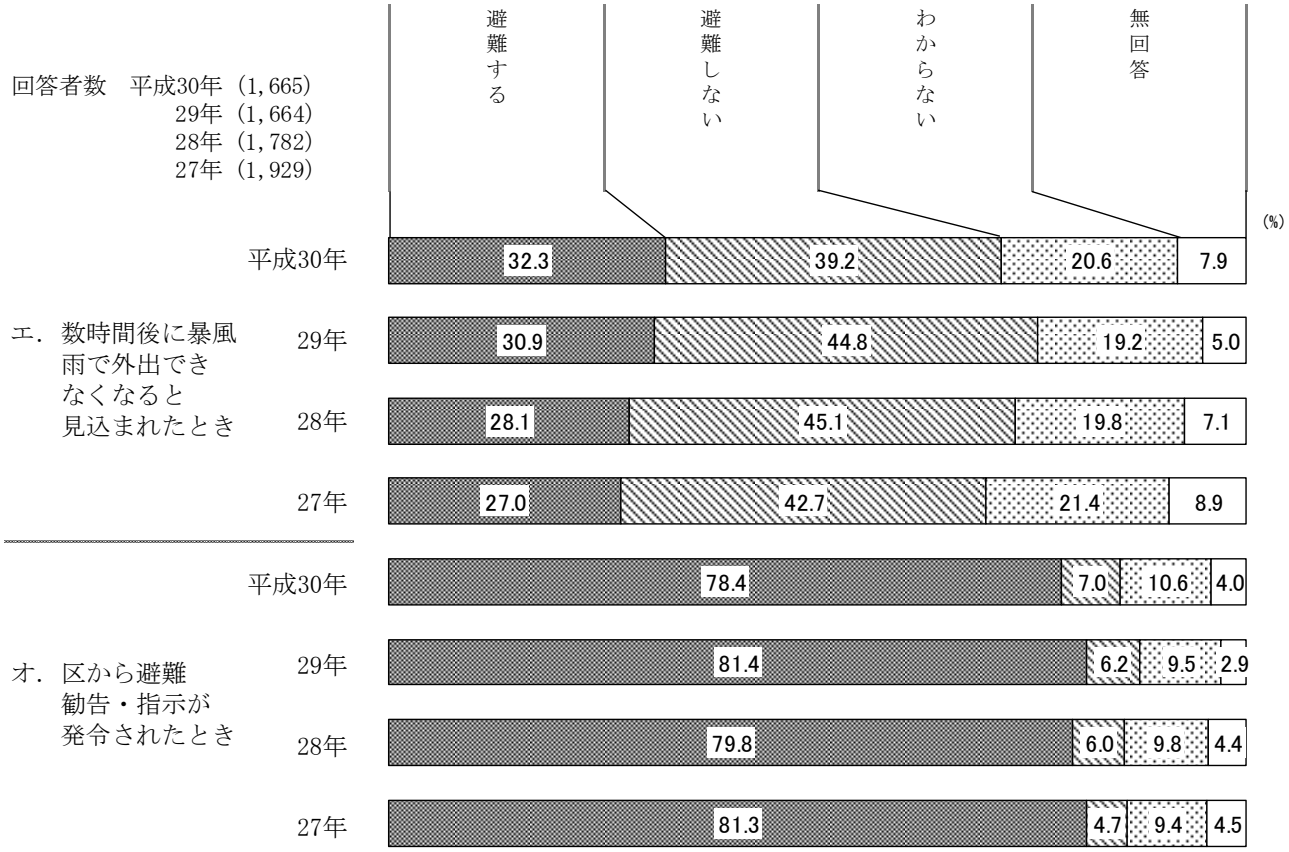


図３－２－１－②　経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聴いた。

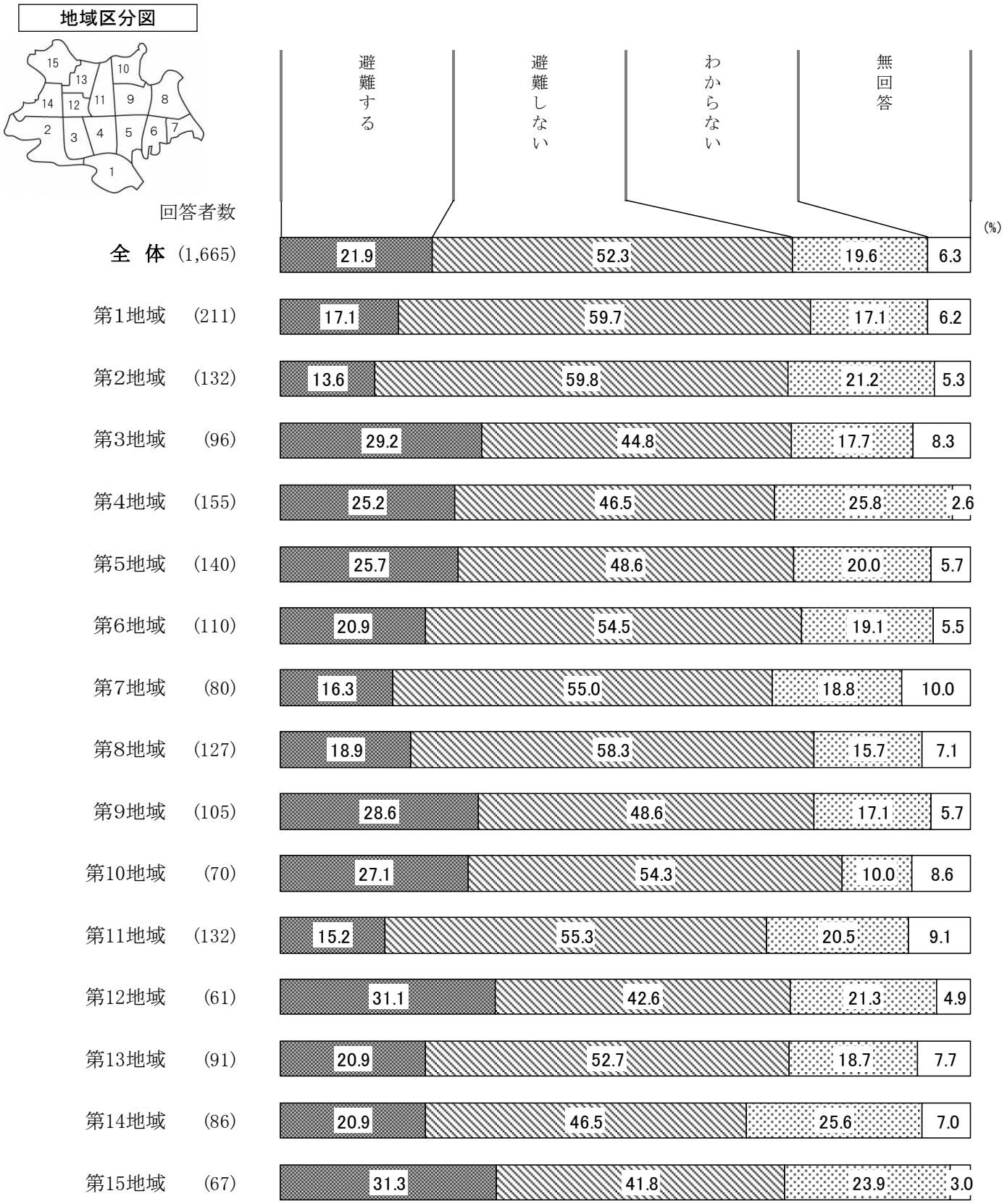
「避難する」が多い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が78.4％で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉（54.8％）、〈自宅付近が浸水したとき〉（52.3％）の順で続いている。

経年でみると、今回の調査では、「避難する」と回答した人の割合が〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉以外の項目で、平成29年調査に比べてそれぞれ僅かずつ増加している。

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別でみると、第１地域、第２地域、第８地域では、いずれも「避難しない」が６割弱を占めて他の地域より高くなっている。

図３－２－２－①　地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／足立区に大雨・洪水警報が出されたとき



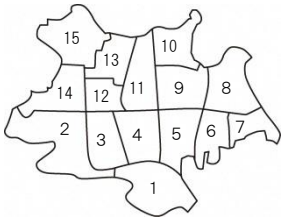
〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、第３地域、第５地域、第15地域では「避難する」が６割を超えて他の地域より高くなっている。一方、第10地域では「避難しない」が３割台半ばと高くなっている。

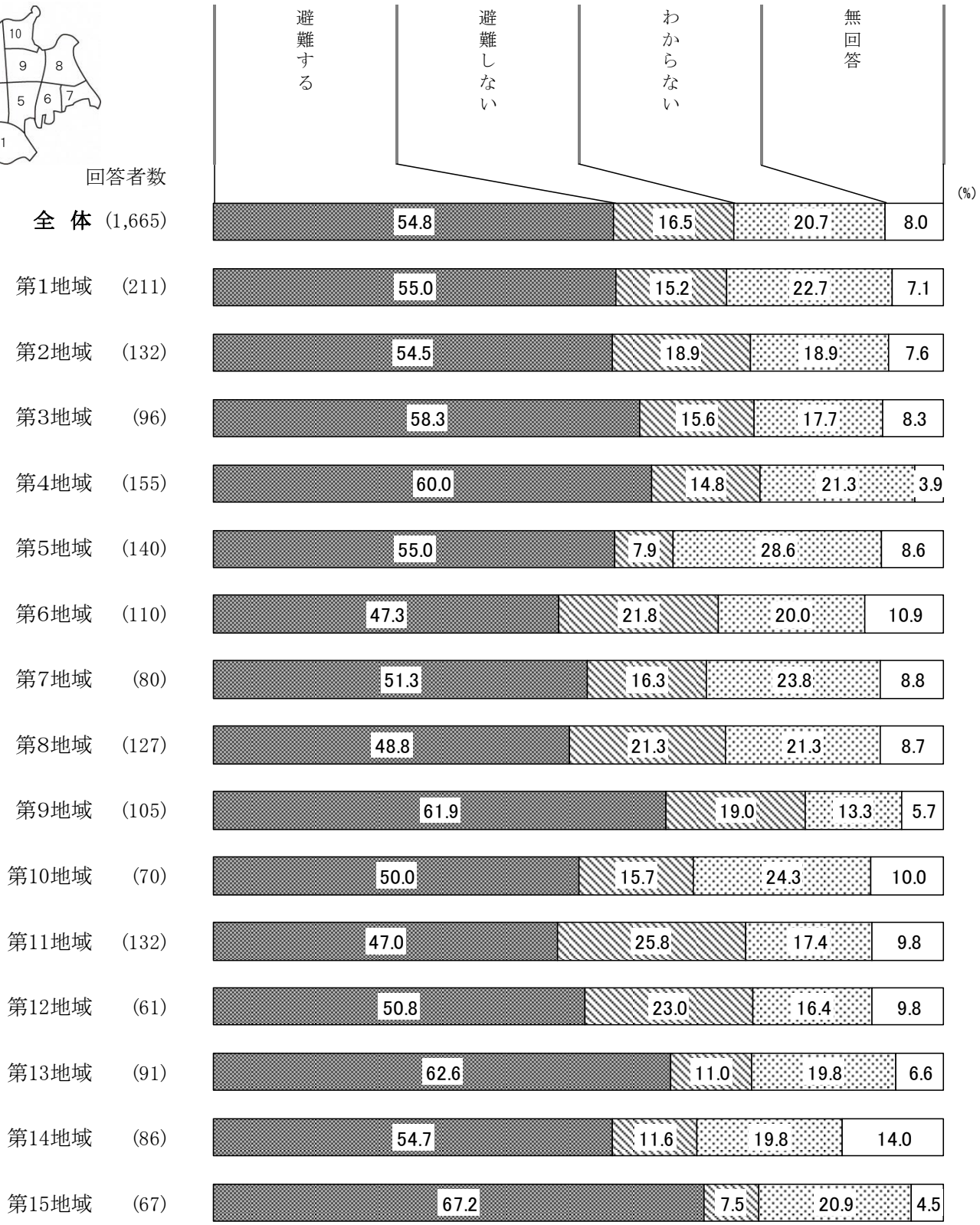
図３－２－２－②　地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき

〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、地域別でみると、第15地域は「避難する」が７割弱と他の地域より高くなっている。一方、第11地域では「避難しない」が２割台半ばと高くなっている。

図３－２－２－③　地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

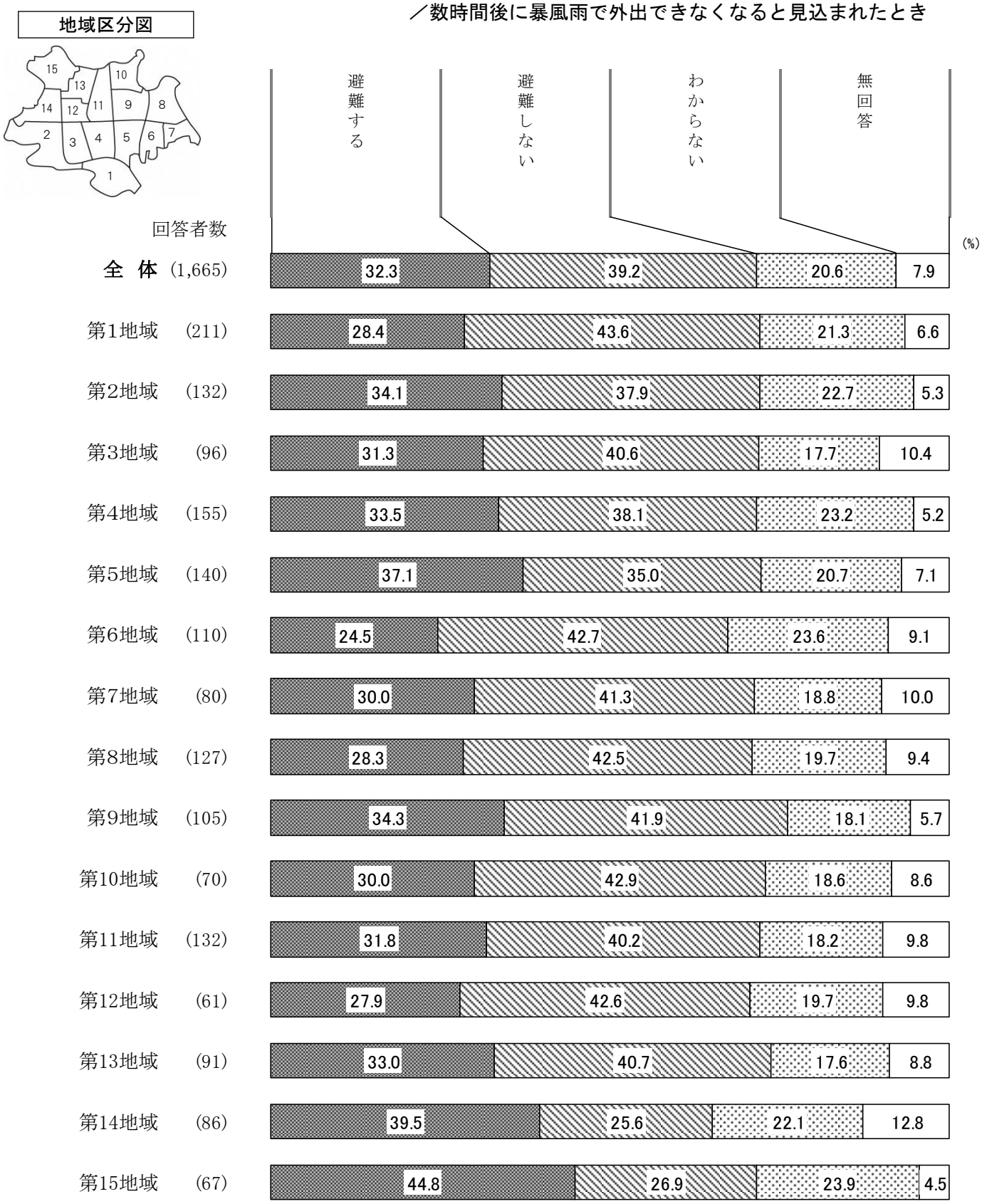
／近所の人が避難をしているのを見たとき





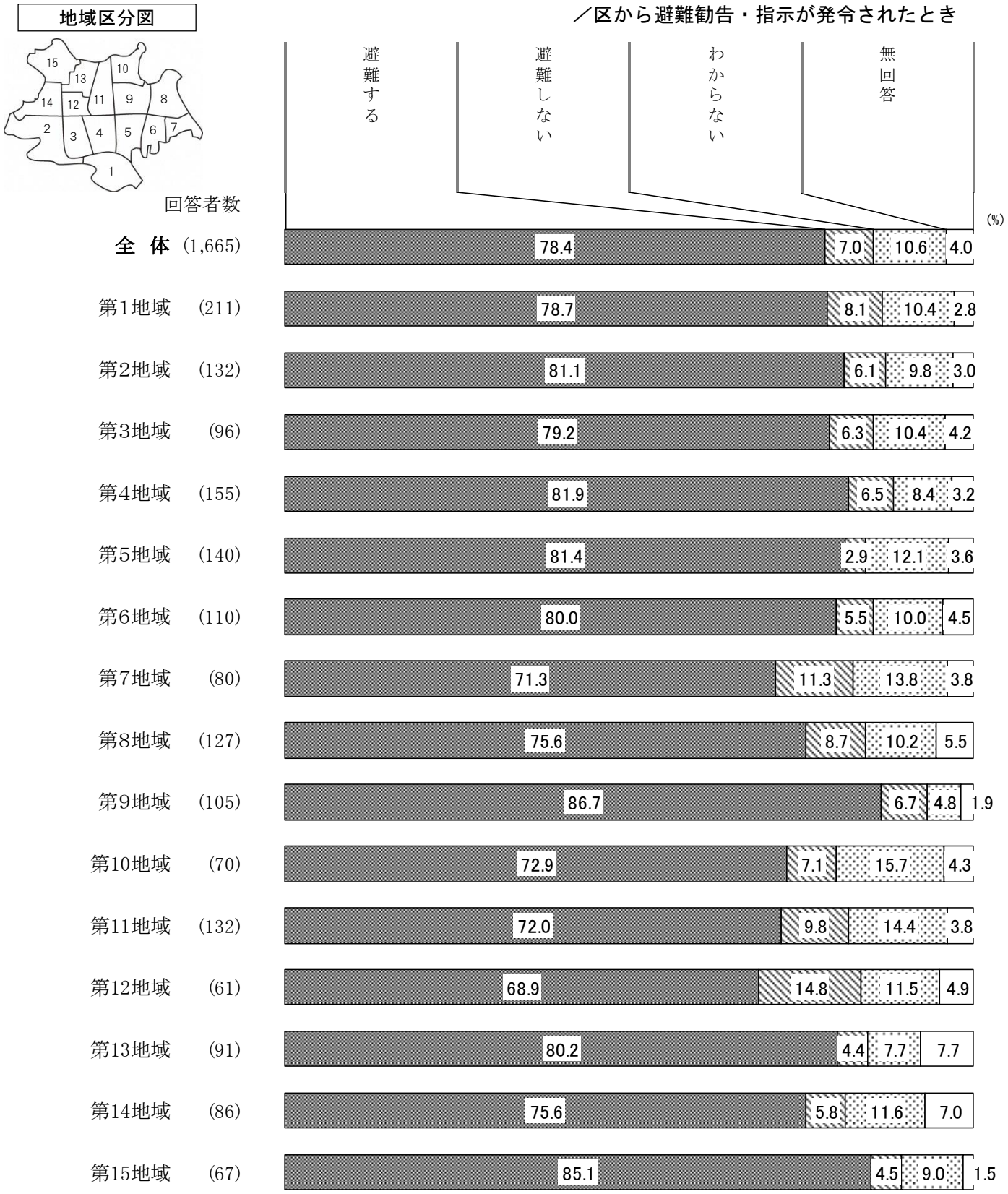
〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について、地域別にみると、「避難する」は第15地域で44.8％と最も高く、次いで第14地域でも39.5％と約４割となっている。

図３－２－２－④　地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈区から避難勧告・指示が発令された時〉について、地域別でみると、「避難する」は第９地域と第15地域で８割台後半と高くなっている。一方、第12地域では「避難しない」が１割台半ばと高くなっている。

図３－２－２－⑤　地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

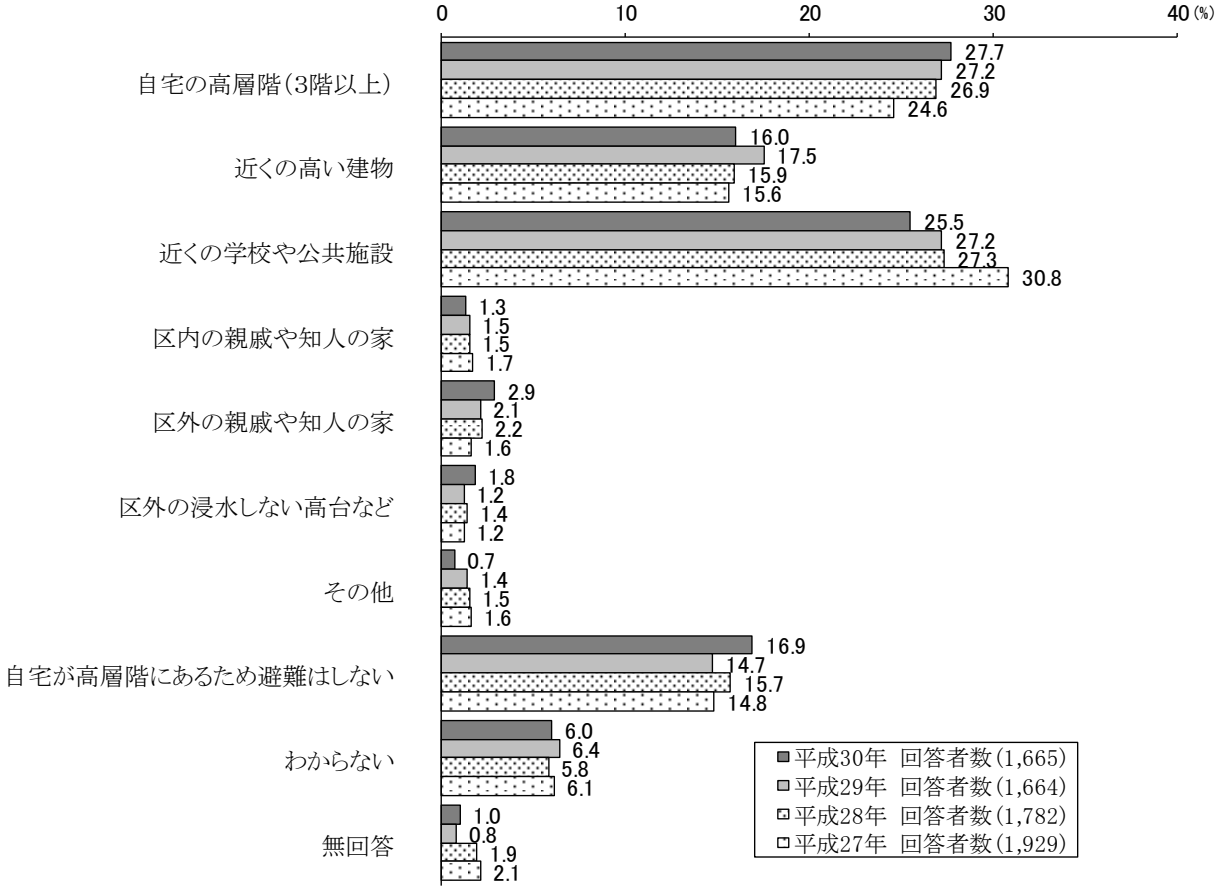


（３）荒川がはん濫した際の最初の避難先

■「自宅の高層階（３階以上)」と「近くの学校や公共施設」がそれぞれ２割台後半

問13　荒川がはん濫すると、最悪２階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は１つだけ)。

図３－３－１　経年比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先

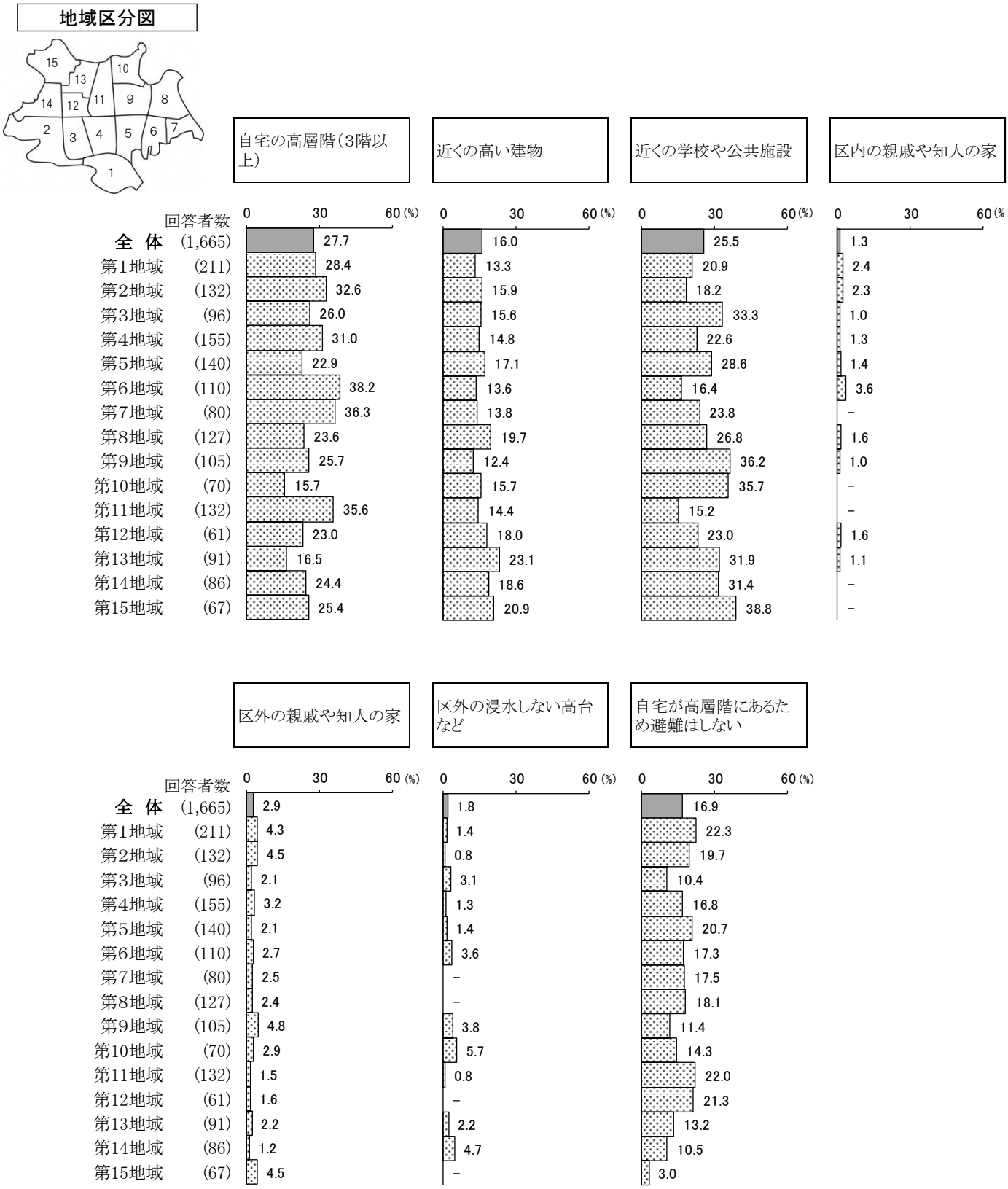


荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「自宅の高層階（３階以上)」が27.7％と最も多く、以下「近くの学校や公共施設」(25.5％)、「近くの高い建物」(16.0％）の順となっている。一方、「自宅が高層階にあるため避難しない」は16.9％となっている。

経年でみると、今回の調査では、「自宅の高層階（３階以上)」と「近くの学校や公共施設」」がともに２割台後半と前回からの大きな変化はみられない。一方、「自宅が高層階にあるため避難はしない」は前回に比べて微増している。

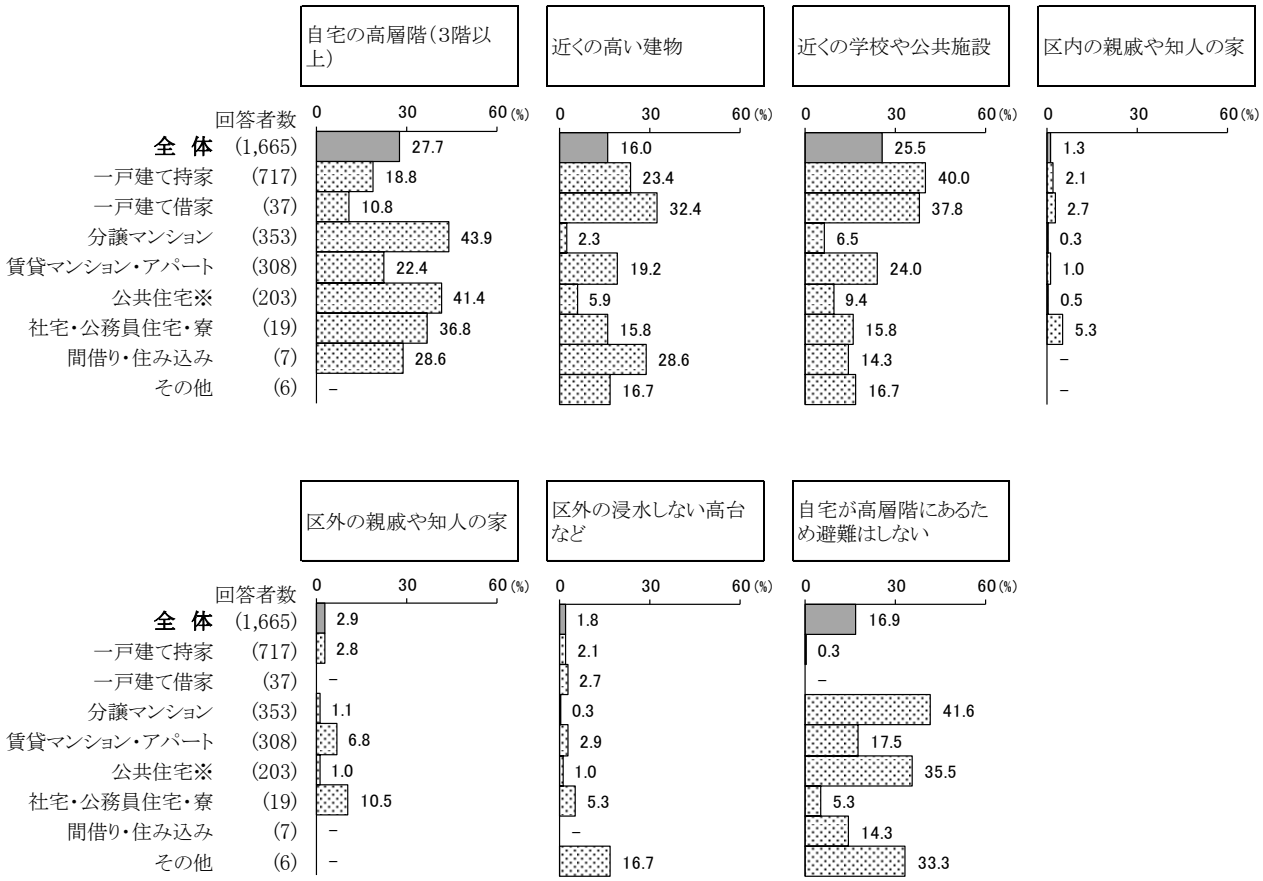
地域別でみると、「自宅の高層階（３階以上)」は第６地域、第７地域、第11地域で３割台半ばから４割弱と高くなっている。また、「近くの学校や公共施設」は第９地域、第10地域、第15地域で３割台半ばから４割弱と高くなっている。

図３－３－２　地域別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



住居形態別でみると、一戸建て持家では「近くの学校や公共施設」（40.0％）が、一戸建て借家では「近くの学校や公共施設」（37.8％）と「近くの高い建物」（32.4％）が、それぞれ高くなっている。一方、分譲マンションと公共住宅※では「自宅の高層階（３階以上）」がそれぞれ43.9％、41.4％と他の住居形態より高くなっている。また、分譲マンションでは「自宅が高層階にあるため避難はしない」も41.6％と高くなっている。

図３－３－３　住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。
※「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値とする。